２０１７（平成２９）年度

教 育 と 研 究

久留米信愛短期大学

目次

教授

関　聡　・・・3
阿久根　政子　・・・11
江越　和夫　・・・19
椎山　克己　・・・29
山下　浩子　・・・37
石井　妙子　・・・47
原　浩美　・・・57
山村　涼子　・・・67

准教授

重永　茂　・・・79
眞部　真紀子　・・・87

講師

新井　真実　・・・95

助手

岡　輝美　・・・105
眞谷　智美　・・・111
髙松　幸子　・・・115

教員研究会資料　・・・119
学生の授業評価に基づく優秀科目・・・123

所属学科	職名	氏名
幼児教育	学長	関　　聡

担当科目

科目名	対象	必修・選択
教育原理	幼児教育学科１年	幼稚園免許必修
モンテッソーリ教育法Ⅰ	幼児教育学科２年	保育士選択必修
モンテッソーリ教育法Ⅱ	幼児教育学科２年	保育士選択必修

研究分野

１、教育哲学の分野

修士論文以来のライフテーマである教育活動及び教育学の独自性に関する研究である。教育という人間の営みについて、その領域独自の論理があるという仮説に基づき、教育的思考・教育的関係・教育的価値等について研究している。

２、保育者養成の分野

保育士及び幼稚園教諭の養成に関して、カリキュラム論を中心に研究している。本学の保育者養成に資すること、地域の保育の質の向上につながることを念頭に置いて研究を進めている。

３、カトリック保育の分野

カトリック保育とはなにか。その理念・実践・保育者養成について、カトリック短期大学で保育者養成に携わる者として研究を進めている。「信愛保育の創造」をテーマにしたい。

４、モンテッソーリ教育の分野

モンテッソーリ教育に関する理論的研究。モンテッソーリ教育法について、その成立過程、教育理論、教育方法、現職教育などについて研究を行っている。

５、保育現場との共同研究の分野

平成 23 年度から信愛幼稚園教育において、年長クラス男児に剣道の指導を行っている。小学生以上の少年剣道の指導に関しては、いくつかの先行研究及び指導書があるが、幼稚園児指導の研究は見当たらない。信愛幼稚園との共同研究を進めたい。

６、大学教育の分野

大学教育の改革について文部科学省のプロジェクトに沿って研究を行なっている。これまで、「地域参画型短期大学教育」「卒業生のマンパワーを活用したキャリア教育」「10 年間継続した就業力育成教育」等について研究と実践を行ない、平成 24 年度～平成 26 年度は「産業界のニーズに対応した授業改善・充実体制整備事業」における「地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト」に取組み、「キャリア教育の開発」について研究・実践を行ってきた。

７、カトリック教育の分野

高等教育におけるカトリック教育の意義と実践について、学長として取り組んでいきたい。設立母体である「ショファイユの幼きイエズス修道会」の理念及び本学の建学の精神の理解とともに、学生への信愛教育のあり方を省察しながら実践したい。

平成 29 年度　研究報告

平成 29 年度の研究の概要

1．教育哲学に関する研究

西洋教育思想について研究を行った。『新・教育学のグランドデザイン』(共著)八千代出版、第 2 章「教育の諸理論」の改訂作業中である。

2．モンテッソーリ教育に関する研究

①理論研究　モンテッソーリ教育の成立過程について研究する。とくにモンテッソーリ用語の発現・展開の経緯に注目し、モンテッソーリ教育の日本化・現代化の道を探った。

②実践研究　現場保育者の力量の向上について論じ、その研究をもとに、現場のモンテッソーリ教師の講習・リカレント教育を進めた。

3．現場との共同研究

久留米信愛女学院幼稚園において実施している幼稚園剣道の指導について研究を進めた。竹刀操作の技能向上だけでなく、年長児の集中力・随意運動・忍耐力など心身の両面から少年剣道の意義を探った。

4．子育て支援に関する研究

子育て支援についての研究を行った。とくに現代の育児に必要な子ども観の形成、ファミリーサポート事業に必要とされる人権意識、カトリックに基づいた人間観を論じ、その成果を「ファミリーサポートセンターくるめ」による活動に生かした。

5．カトリック教育の分野

高等教育におけるカトリック教育の意義と実践について、学長として取り組んだ。設立母体である「ショファイユの幼きイエズス修道会」の理念及び本学の建学の精神の涵養の方法を追究している。

平成 29 年度の研究の成果

（司会）

1．「研究発表」平成 29 年 8 月　日本モンテッソーリ協会（学会）全国大会 研究発表・司会

2．「研究発表」平成 29 年 10 月　日本幼児教育学会全国大会　研究発表・司会

平成 28 年度及び 27 年度の研究の成果

（著書）

1．『新・教育学のグランドデザイン』共著　平成 29 年 3 月　八千代出版　(9～21)

（評論）

1．「論壇　安倍内閣の『地方創生』への要望・期待　私学助成に社会貢献係数の導入等要望」単著　平成 29 年 2 月『全私学新聞』第 2399 号

（書評）

1．「現代に生きるマリア・モンテッソーリの教育思想と実践」単著　平成 29 年 3 月　『モンテッソーリ教育第 48 号』日本モンテッソーリ協会（学会）

2．『知っておくべき世界の偉人⑲ モンテッソーリ』岩崎書店　平成 28 年 3 月　『モンテッソーリ教育第 48 号』日本モンテッソーリ協会（学会）

（報告）

1．「保育者養成校における課題－養成校、保育現場、保護者の視点から－」共同　平成 27 年 4 月 『幼児教育研究第 22 号』(53～54)

（司会）

1．「研究発表」平成 28 年 8 月　日本モンテッソーリ協会（学会）全国大会 研究発表・司会

2．「研究発表」平成 28 年 10 月　日本幼児教育学会全国大会　研究発表・司会

3．「研究発表」平成 27 年 8 月　日本モンテッソーリ協会（学会）全国大会 研究発表・司会

4．「研究発表」平成 27 年 10 月　日本幼児教育学会全国大会　研究発表・司会

本教員の主たる研究の成果（５編以内）

（著書）

１.『新しい世界のための教育』 M. モンテッソーリ著 エンデルレ書店 単独翻訳　平成３年３月
２.『教育方法技術』共著 八千代出版 平成 5 年 3 月
３.『教育原理』共著 保育出版 平成 12 年 4 月
４.『モンテッソーリ教育用語辞典』共著 学苑社 平成 18 年 10 月
５.『新・教育学のグランドデザイン』共著　八千代出版　平成 29 年 3 月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本幼児教育学会	学会誌『幼児教育研究』の編集委員を務めている。 平成 29 年度は全国大会（於：実践女子大）に参加し、研究発表の司会を務めた。
日本モンテッソーリ協会（学会）	協会(学会)理事を務めている。 学会誌『モンテッソーリ教育』の編集委員を務めている。 「K.ルーメル学術奨励賞」の選考委員を務めている。 平成 29 年度は全国大会（於：東京）に参加し、研究発表の司会を務めた。
日本カトリック教育学会	大会等は不参加であった。

平成 30 年度　研究計画

１．教育哲学に関する研究

西洋教育思想について研究する。『新・教育学のグランドデザイン』(共著)八千代出版、第 2 章「教育の諸理論」の改訂作業中である。

２．モンテッソーリ教育に関する研究

モンテッソーリ教育の成立過程について研究する。とくにモンテッソーリ用語の発現・展開の経緯に注目し、モンテッソーリ教育の日本化・現代化の道を探りたい。現場保育者の力量の向上について論じ、その研究をもとに、現場のモンテッソーリ教師の講習を実施する。また、モンテッソーリ園の保護者への講演も依頼されている。

３．現場との共同研究

久留米信愛女学院幼稚園において実施している幼稚園剣道の指導について研究を進める。先行研究を精査するとともに、資料的な発表から始める。竹刀操作の技能向上だけでなく、年長児の集中力・随意運動・忍耐力など心身の両面から少年剣道の意義を探りたい。その成果を研究ノートにまとめ本学紀要にて発表する。

４．子育て支援に関する研究

子育て支援についての研究を行う。とくに現代の育児に必要な子ども観の形成、ファミリーサポート事業に必要とされる人権意識、カトリックに基づいた人間観を論じ、その成果を「ファミリーサポートセンターくるめ」による活動に生かす。

５．保育者養成に関する研究

保育者養成の今日的課題について、森光非常勤講師とともに研究を行い、保育者養成における必要な改善点を本学研究紀要にて発表する。

６．カトリック教育の分野

高等教育におけるカトリック教育の意義と実践について、学長として取り組んでいきたい。設立母体である「ショファイユの幼きイエズス修道会」の理念及び本学の建学の精神の理解とともに、学生への信愛教育のあり方を省察しながら実践したい。

平成 29 年度　教育活動報告

平成 29 年度のＦＤ宣言とその評価

ＦＤ宣言	自己評価
学生とのよき教育的関係を成立する。 問 14、先生は、熱意を持って授業を行っていた。 問 15、先生は、学生に対して愛情と尊敬の念をもって、授業を行っていた。 この二つの問いの評価を 4.5 以上にする。	「教育原理」　問 14　4.4　　問 15　4.0 「モンテッソーリ教育法Ⅰ」　問 14　4.7　　問 15　4.7 「モンテッソーリ法教育Ⅱ」　問 14　5.0　　問 15　5.0 選択科目である「モンテッソーリ教育法Ⅰ・Ⅱ」においては達成できたが必修科目である「教育原理」においては未達成である。顔と名前を一致することがよき教育的関係の土台であることを実感した。

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
「教育原理」	幼児教育 1 年 A クラス	平成 29 年 7 月 10 日 1 校時

自己評価	他者評価
【教育原理について】しばらく担当していなかった科目であるが、本年度から再び講義することとなった。全員履修の科目は久しぶりであり、1 年前期開講ということもあり、学生の名前を覚えることなく終了したのが反省点である。 【本授業について】公開授業時は人間観・教育観を扱う領域だったので教員も力が入り実のある時間が過ごせた。 【他の授業を参観して】 自分の板書の字の下手さと誤字の多さを反省する機会となった。	・テーマがわかりやすく説明されていた。 ・双方向授業を心がけていた。 ・学生が集中していた。 ・話し方が明瞭で聞き取りやすかった。 ・板書は大きくて見やすかった。 ・遅刻した学生への指導がなかった。遅刻した場合のルールをあらかじめ設定しておくとよい。 ・ざわついた感じからスタートしたがすぐに静かになった。
	参加教員
	眞部真紀子准教授　生地暢准教授

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

○「教育原理」総合評価　4.0
○「モンテッソーリ教育法Ⅰ」総合評価　4.7
○「モンテッソーリ教育法Ⅱ」総合評価　4.8

【課題】

平成 26 年度の「保育原理」「教育課程総論」（いずれも全員履修）の総合評価は、「4.3」「4.3」で平成 29 年度の「教育原理」より高い。しばらく選択科目のみを担当していたので全員履修科目に不慣れになっていたかもしれない。①なるべく早く学生の名前を覚えること、②つねに双方向的授業を心がけること、③質問しやすい雰囲気をつくること、以上の 3 点を中心に「教育原理」を進めて行きたい。「モンテッソーリ教育法Ⅰ・Ⅱ」に関しては、選択科目であり、意欲の高い学生が履修するため、現在の方法を継続する。

平成 30 年度　教育活動計画

平成 30 年度のＦＤ宣言	平成 30 年度の教育力向上のための計画
学生の発展的学習態度を形成する。 問２　私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした。 平成 29 年度の数値「教育原理」2.6「モンテッソーリ教育法Ⅰ」4.0「モンテッソーリ教育法Ⅱ」4.4 を、それぞれ 2 ポイントアップする。	・質問しやすい雰囲気を形成する。 ・保育者になる使命感を目覚めさせる。 ・参考文献等を紹介する。 ・ミニッツペーパーを利用する。 ・到達度や理解度を確認する。 ・名前を呼んで質問する。

平成 29 年度　社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
子どもを見る目・子どもの人権	平成 29 年 6 月 13 日	ファミリーサポート久留米	田主丸そよ風ホール
子どもを見る目・子どもの人権	平成 29 年 9 月 15 日	久留米市子ども未来部	くるるん
子どもを見る目・子どもの人権	平成 30 年 2 月 16 日	久留米市子ども未来部	くるるん
モンテッソーリ教育の基本理念	平成 29 年 8 月 29 日	聖母幼稚園	聖母幼稚園

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
久留米市学術研究都市づくり推進協議会　委員 高等教育コンソーシアム久留米 理事 九州地区私立短期大学協会　監事 久留米市剣道連盟　監事 COC　外部評価委員	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日	久留米市 コンソーシアム久留米 九州地区私立短期大学協会 久留米市剣道連盟 和歌山信愛女子短期大学

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
教育学	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 9 月 31 日	八女筑後看護高等専門学校

その他特記事項

内容	年　月　日
○少年剣道指導 久留米市スポーツ少年団指導 久留米信愛女学院幼稚園指導	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日

平成 30 年度　社会的活動計画

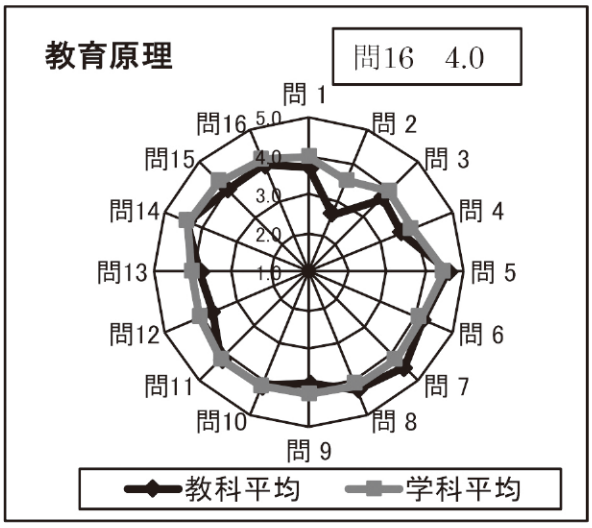
○講演等
久留米市子ども未来部の依頼によるもの。3 回程度
モンテッソーリ教育に関する現職研修会。3 回程度
モンテッソーリ教育に関する保護者への講演。2 回程度
○他団体等への協力
久留米市学術研究都市づくり推進協議会 委員
高等教育コンソーシアム久留米 理事
九州地区私立短期大学協会　監事
久留米市剣道連盟　監事
○他大学への非常勤
八女筑後看護高等専門学校
○少年剣道指導
久留米市スポーツ少年団指導
久留米信愛女学院幼稚園指導

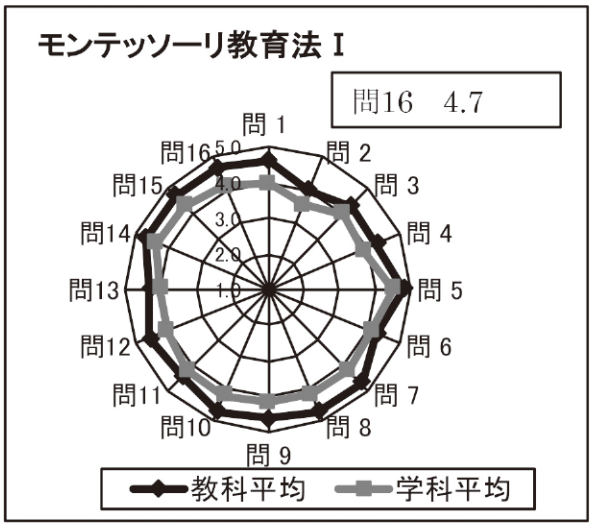
平成２９年度　学生による授業評価アンケート結果

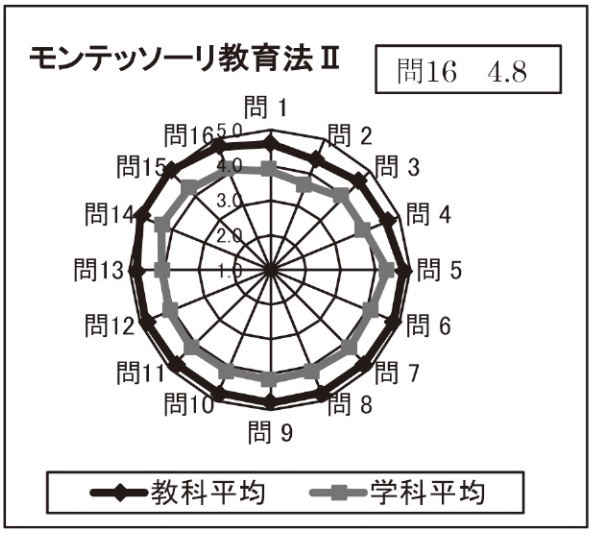
＜質問項目＞

問 1　私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
問 2　私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
問 3　私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
問 4　私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
問 5　授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
問 6　先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
問 7　毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
問 8　先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
問 9　先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
問 10　教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
問 11　この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
問 12　先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
問 13　先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
問 14　先生は、熱意を持って授業を行っていた
問 15　先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
問 16　この授業を総合的に評価すると５点満点で何点になりますか

５．そう思う
４．どちらかといえばそう思う
３．どちらともいえない
２．どちらかといえばそう思わない
１．そうは思わない







	問17　あなたはこの授業のために一週間当たり何分学習しましたか。				
科目名	0 分	1～30 分	31～60 分	61～90 分	91 分以上
教育原理(幼 1)	44	12	4	1	0
モンテッソーリ教育法Ⅰ(幼 2)	12	3	1	0	0
モンテッソーリ教育法Ⅱ(幼 2)	2	1	1	0	0

	問18　あなたは授業時間以外にどのような学習(技術・技能の習得も含みます)を行いましたか。(複数回答)					
科目名	予習	復習	課題	試験	自発的	行っていない
教育原理(幼 1)	1	10	8	9	0	34
モンテッソーリ教育法Ⅰ(幼 2)	1	2	7	0	0	6
モンテッソーリ教育法Ⅱ(幼 2)	0	1	3	0	1	0

科目名	対象	必修・選択	教員コメント
教育原理	幼児教育学科１年	教職保育士必修	「私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした」の問いに対する数値が「2.6」ととても低いです。次回からは質問しやすい雰囲気づくりに努めます。また、学生の理解度を常にチェックしたいと思います。参考文献等も示し、「自分で調べる」手掛かりを提供します。
モンテッソーリ教育法Ⅰ	幼児教育学科２年	保育士選択	目的意識の高い学生が履修してくれており、授業のしがいのある科目です。感謝しています。授業時間以外の学修時間が少ないようです。モンテッソーリ演習室はいつでも利用できますので、教具の提供法等の練習に使ってください。

モンテッソーリ 教育法Ⅱ	幼児教育 学科２年	保育士 選択	モンテッソーリ教育法Ⅰと同じく授業時間外の学習時間が少ないです。とくにモンテッソーリ園に就職の決まった学生は、①教具の名前を覚える、②教具の扱い方の基礎を身につける、③教具の理論の基礎を理解する、ために演習室を使って自習してください。 モンテッソーリ園に就職が決まった学生は、履修届を出してない場合でも聴講できますので、その時点からでも授業に参加してください。

所属学科	職名	氏名
幼児教育学科	教授	阿久根　政子

担当科目

科目名	対象	必修・選択
英語　Ⅰ・Ⅱ	幼児教育学科１年 フードデザイン学科１年	卒選必・免許・資格選必修
英語　Ⅲ・Ⅳ	幼児教育学科１年 フードデザイン学科１年	卒選必・免許・資格選必修
信愛教育Ⅲ・Ⅳ	全学科・全学年全クラス	卒業必修
幼児問題研究セミナー	幼児教育学科２年	選択

研究分野

１．イギリス文学の分野
イギリス文学に現れたキリスト教的要素及び聖書的イメージに関する研究を行い、作品における作者の宗教性についての研究を行う。

２．カトリック教育の分野
カトリック学校の立場からカトリック教育はいかにあるべきか、大学における教育者のあるべき姿を模索研究。

３．絵本・民話と宗教（特にキリスト教）の分野
絵本や民話の中に描かれた宗教性の研究及び子どもの宗教教育の研究。

平成 29 年度　研究報告

平成 29 年度の研究の概要

チャールス・ディケンズの『The Life of Our Lord』に関する継続研究を行った。

平成 29 年度の研究の成果

なし

平成 28 年度及び 27 年度の研究の成果

『クリスマス・キャロル』における聖書の役割
単著　『久留米信愛女学院短期大学紀要第 39 号　平成 28 年 7 月

本教員の主たる研究の成果（５編以内）

1. 『ニューマンの思想と活動』L.F バーマン著　単独翻訳　中央出版社　平成 6 年 4 月
2. 「『The Selfish Giant』における聖書的イメージ」
   単著　『キリスト教文学 4 号』昭和 59 年 6 月
3. 「『獄中記』におけるワイルドのキリスト像」
   単著　『久留米信愛女学院短期大学紀要第 33 号』平成 22 年 9 月
4. 「ワイルドと聖書　―　『獄中記』におけるワイルドの福音書注解」
   単著　『久留米信愛女学院短期大学紀要第 34 号』平成 23 年 9 月
5. 「『信愛教育Ⅰ～Ⅳ』アンケート調査の分析に基づく考察」
   共著（筆頭　『久留米信愛女学院短期大学紀要第 37 号』平成 26 年 7 月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
大学英語教育学会	全国大会参加
日本カトリック教育学会	全国大会参加
日本キリスト教文学会	全国大会参加

平成 30 年度　研究計画

1．Charles Dickens 作品研究
『The Life of Our Lord』について　（継続）

2. 絵本と宗教教育　－　外国（英米）の絵本と日本の絵本の比較を通して、その宗教性をさぐる。

平成29年度　教育活動報告

平成29年度のＦＤ宣言とその評価

ＦＤ宣言	自己評価
【目標】 常に学生のレベルに合わせた授業を行う 【成果の指標】 アンケート項目問⑧「話し方は明瞭で、聞き取りやすい」を意識した授業を行い、ゆっくりと話す。	・授業総合評価の数値から見ると、 28年度英語Ⅰ平均（4.0）➡29年度（4.9） 28年度英語Ⅱ平均（4.4）➡29年度　（4.8） 28年度英語Ⅲ　　（5.0）➡29年度　（4.5） 29年度は前年度に比べ、0.4～0.9数値が上がり【目標】と【成果の指標】の成果が見られた。 29年度は、履修した学生の質と勉学に対する意欲があり授業の行いやすい学年であった。 「学生のレベル」にいつも目を逸らせないように気を付けて授業を行うことを忘れないようにすることが大切。

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
英語　Ⅱ	幼児教育学科　1年　Aクラス	平成29年10月31日(火) 1限目

自己評価	他者評価
今年度は受講生が13数名という少人数で、真面目で質の良い学生が履修していたこともあり、授業がやりやすいクラスであった。 昨年度から、「復習ノート」記入の時間をGroup Work、Pair Workで行っている。この作業は学生にとって、効果的かつ有効な時間である。この作業の後は、Groupごとに代表者が解答を発表、他のGroupはその答えが正しいか、間違っていれば訂正することで、全員が参加するように促しが必要である。 毎時間、授業のはじめに、本時の計画・内容を簡単に黒板の左端に板書し、一コマの流れを明確に示している。	・学生がノートし易いスピードであった。 ・説明するとき絵を描いたり、色を使い分けるなど、視覚的にも学生の理解を促す板書であった。 ・学生が発言しやすい雰囲気であった。 ・明瞭で聞き取りやすい話し方で、丁寧な説明がなされていた。
	参加教員
	江越和夫教授、重永茂准教授、桜井晋伍助教

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

「29年度に向けての改善策」である「『英語Ⅰ・Ⅱ』の授業の速度を下げ、学生たちの理解度を確認しながら、授業を進める」に合わせ、30年度も、以前の学生からのアンケート記述から、「速度をゆっくり」「ノートに書く時間が欲しい」との要望に応えて、「ノート整理」ができるようにGroup WorkやPair Workの時間を設定。学生同士で「復習ノート」の確認、解答を記入し、お互いに教え合うことによって学びを定着させる。

30年度も学生の理解の速度を把握しながら、学生同士のGroup WorkやPair Workを大切にして授業を進めたいと思う。

平成 30 年度　教育活動計画

平成 30 年度のＦＤ宣言	平成 30 年度の教育力向上のための計画
【目標】 毎時間の授業の目的を明確にして、学生のレベルに合わせた授業を行う 【成果の指標】 アンケート項目問⑧「話し方は明瞭で、聞き取りやすい」を意識した授業を行い、ゆっくりと話す。	・学生の理解度を確認しながら授業を行う。 ・板書して、繰り返し、説明をする。 ・話し方を明瞭にするために、分かりやすい、やさしい言葉を用い、ゆっくり話すように心がける。 （平成 29 年度継続）

平成 29 年度　社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先

その他特記事項

内容	年　月　日

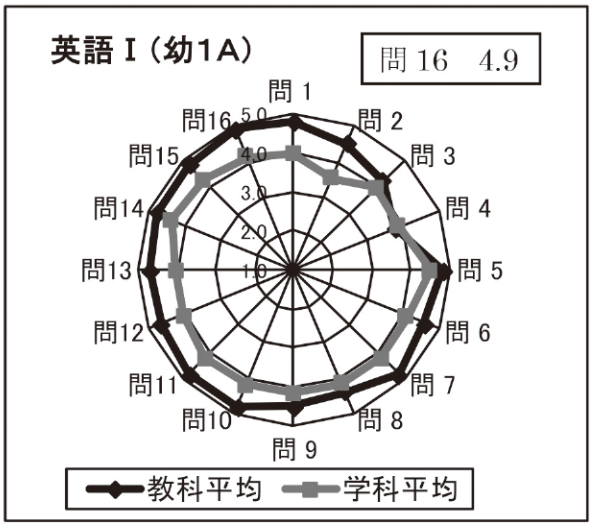
平成 29 年度　社会的活動計画

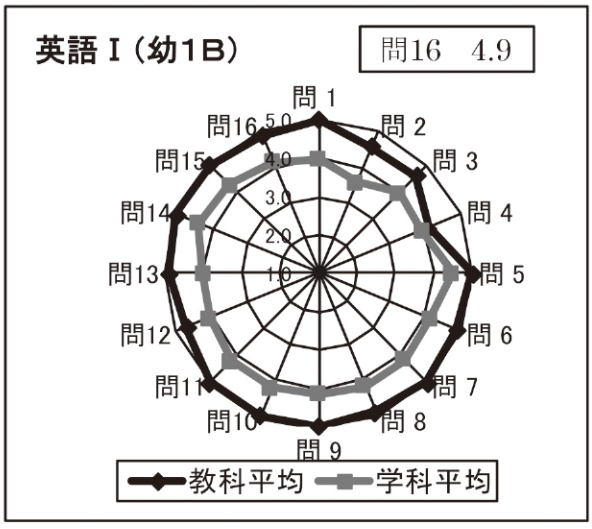
平成２９年度　学生による授業評価アンケート結果

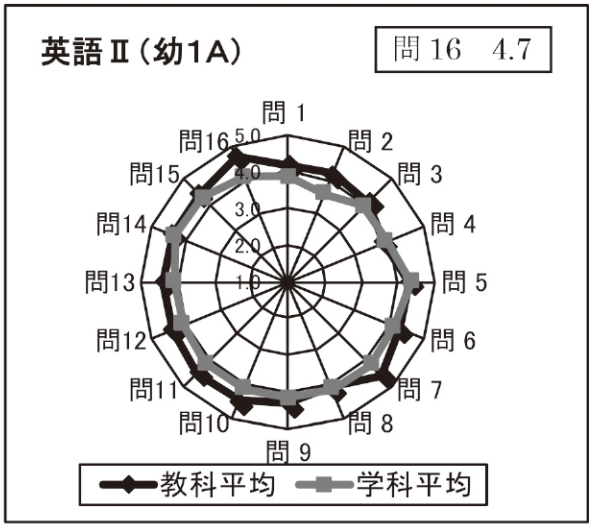
＜質問項目＞

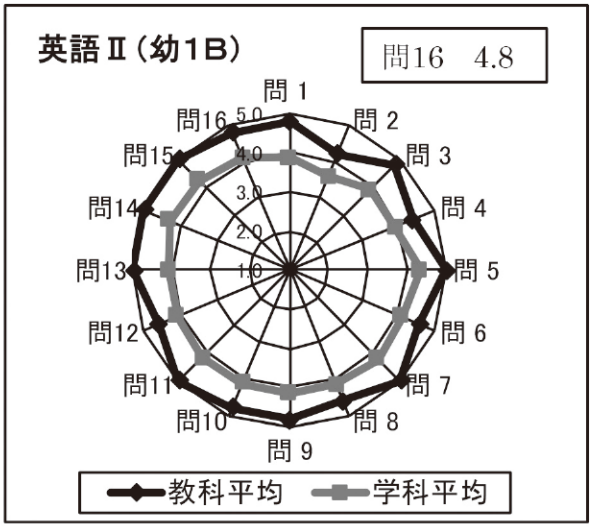
問 1　私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
問 2　私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
問 3　私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
問 4　私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
問 5　授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
問 6　先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
問 7　毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
問 8　先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
問 9　先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
問 10　教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
問 11　この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
問 12　先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
問 13　先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
問 14　先生は、熱意を持って授業を行っていた
問 15　先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
問 16　この授業を総合的に評価すると５点満点で何点になりますか

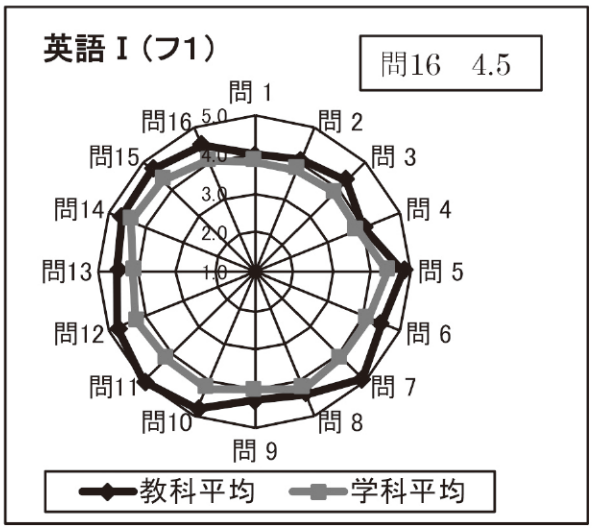
５．そう思う
４．どちらかといえばそう思う
３．どちらともいえない
２．どちらかといえばそう思わない
１．そうは思わない

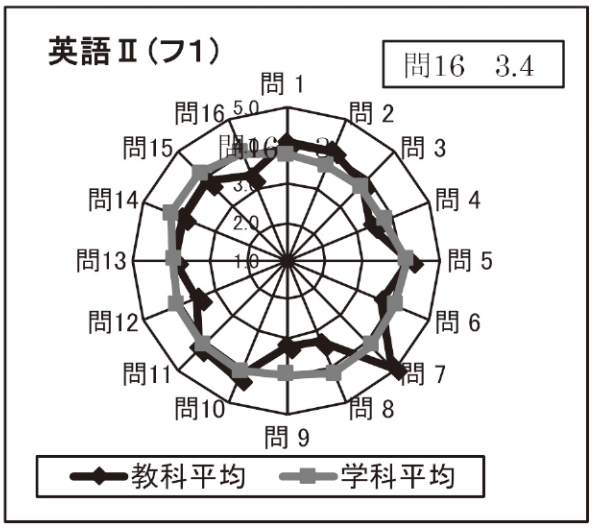


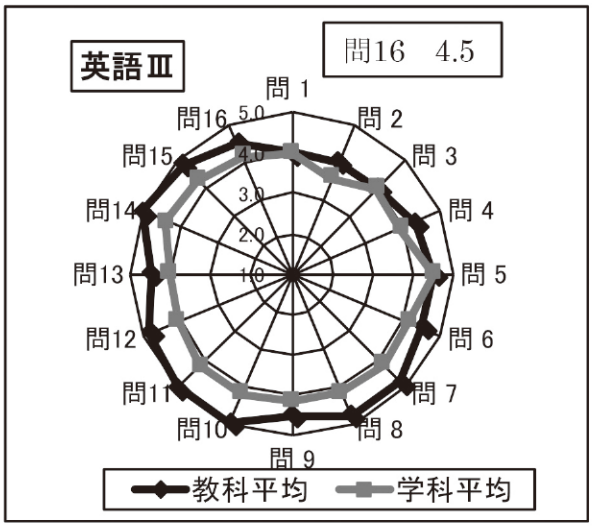


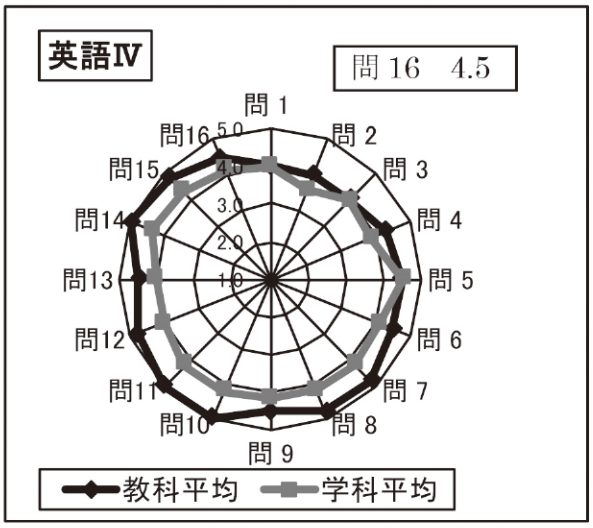

英語Ⅱ（幼1A）
問 16　4.7
問 1
問 2
問 3
問 4
問 5
問 6
問 7
問 8
問 9
問10
問11
問12
問13
問14
問15
問16
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
教科平均
学科平均


英語Ⅱ（幼1B）
問16　4.8
問 1
問 2
問 3
問 4
問 5
問 6
問 7
問 8
問 9
問10
問11
問12
問13
問14
問15
問16
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
教科平均
学科平均


英語Ⅰ（フ1）
問16　4.5
問 1
問 2
問 3
問 4
問 5
問 6
問 7
問 8
問 9
問10
問11
問12
問13
問14
問15
問16
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
教科平均
学科平均


英語Ⅱ（フ1）
問16　3.4
問 1
問 2
問 3
問 4
問 5
問 6
問 7
問 8
問 9
問10
問11
問12
問13
問14
問15
問16
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
教科平均
学科平均


英語Ⅲ
問16　4.5
問 1
問 2
問 3
問 4
問 5
問 6
問 7
問 8
問 9
問10
問11
問12
問13
問14
問15
問16
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
教科平均
学科平均


英語Ⅳ
問 16　4.5
問 1
問 2
問 3
問 4
問 5
問 6
問 7
問 8
問 9
問10
問11
問12
問13
問14
問15
問16
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
教科平均
学科平均

	問17　あなたはこの授業のために一週間当たり何分学習しましたか。				
科目名	0分	1～30分	31～60分	61～90分	91分以上
英語Ⅰ(幼1A)	1	8	3	0	0
英語Ⅰ(幼1B)	0	2	2	0	0
英語Ⅰ(フ1)	1	7	2	0	0
英語Ⅱ(幼1A)	3	6	1	0	0
英語Ⅱ(幼1B)	3	1	1	0	0
英語Ⅱ(フ1)	2	5	2	1	0
英語Ⅲ(幼2)	1	0	2	0	0
英語Ⅳ(幼2)	0	2	2	0	0

	問18　あなたは授業時間以外にどのような学習(技術・技能の習得も含みます)を行いましたか。　(複数回答)					
科目名	予習	復習	課題	試験	自発的	行っていない
英語Ⅰ(幼1A)	0	4	9	9	0	0
英語Ⅰ(幼1B)	0	3	2	4	0	0
英語Ⅰ(フ1)	0	1	8	6	0	0
英語Ⅱ(幼1A)	0	5	5	5	0	0
英語Ⅱ(幼1B)	0	0	3	1	0	1
英語Ⅱ(フ1)	0	1	6	7	0	1
英語Ⅲ(幼2)	1	0	1	2	0	0
英語Ⅳ(幼2)	1	1	0	2	0	1

科目名	対象	必修・選択	教員コメント
英語　Ⅰ	幼児教育学科１年	卒業選択必修 免許・資格選択必修	「復習プリント」を用いて、毎時間毎に復習を行います。グループワークでお互いに授業で学んで事柄を確認してください。「英語Ⅰ」では、授業をなるべくゆっくりと進めます。分からないときは質問してください。
英語　Ⅱ	幼児教育学科１年	卒業選択必修 免許・資格選択必修	「復習プリント」を効果的用いてください。このプリントの復習時間数と成績向上は結果的に正比例していました。頑張ってください。
英語　Ⅰ	フードデザイン学科１年	卒業選択必修	英語が苦手な学生にも「分かりやすい説明」をとの要望に応えて、特に「英語Ⅰ」では、授業をなるべくゆっくりと進めます。分からないときは質問してください。
英語　Ⅱ	フードデザイン学科１年	卒業選択必修	Group Work や Pair Work で易しい英語を身に着けるように練習してください。

英語　Ⅲ	幼児教育学科２年 フードデザイン学科２年	卒業選択必修 免許・資格選択必修	４年生大学編入希望の学生と英語が得意な学生を対象とした４大向きのテキストを使用していますが、学生の理解を確認しながら授業を進めます。　復習・予習の時間を作りましょう。
英語　Ⅳ	幼児教育学科２年 フードデザイン学科２年	卒業選択必修 免許・資格選択必修	分かりやすい説明を行い、学生の理解を確認しながらゆっくりと授業を進めます。　復習・予習の時間を作りましょう。

所属学科	職名	氏名
フードデザイン	教授	江越　和夫

担当科目

科目名	対象	必修・選択
食品学総論	フードデザイン学科１年	卒業必修・免許必修
食品学各論	〃	卒業選択・免許必修
食品学実験	〃	卒業選択・免許必修
食品衛生学	〃	卒業必修・免許必修
食品衛生学実験	〃	卒業選択・免許必修
栄養士基礎演習（３回担当）	〃	卒業必修
食品加工学実習	フードデザイン学科２年	卒業選択・免許必修
栄養士総合演習Ⅰ（６回担当）	〃	卒業選択
卒業セミナー	〃	卒業選択

研究分野

１．食品衛生学分野

変異原性物質（発がん作用を有する）による危害の軽減を目指して、「抗変異原性を有する食品の検索」、「食物繊維や乳酸菌による変異原性物質の吸着」に関する研究を行っている。

さらに、「身体の黄色ブドウ球菌分布」及び「ジャガイモのクロロフィル含量とソラニン・チャコニン量との相関性」を調べている。

２．食品学分野

「食と健康」の観点から、各種食品中の機能性成分（メラトニン、EPA、DHA、ポリアミン等）を分析している。

３．食品加工学分野

「豆腐の食感と凝固剤」について検討している。

４．栄養士養成研究

「基礎学力の向上および栄養士としての意識の高揚」を目指して、フードデザイン学科で FD 活動を行っている。

５．その他

入学者選抜方法（推薦、試験、試験、センター）の妥当性を検証するべく、平成 25・26 年度卒業生の GPA を統計学的に解析している。

平成 29 年度　研究報告

平成 29 年度の研究の概要

平成２９年度の研究計画及び概要を以下に示した。

１．「栄養士養成研究」について研究紀要に投稿する。
→「栄養士養成研究（６）６年間の学習支援の取り組み」の題目で投稿した。

２．「ＨＰＬＣによるジャガイモ芽クロロフィルおよびグリコアルカロイドの定量」について研究紀要に投稿する。
→「ジャガイモにおけるポテトグリコアルカロイドとクロロフィルの相関性」の題目で投稿した。

３．「入学者選抜方法別による成績追跡調査」について研究紀要に投稿する。
→「入学者選考方法別による学業成績の追跡調査（２）」の題目で投稿した。

４．薄層クロマトグラフによる EPA,DHA 分析方法を検討する。
→C18 を吸着剤として、EPA,DHA の定性分析方法を確立した。また、HPLC による定量方法について検討した。

５．豆腐の食感に及ぼす凝固剤及び加熱温度について検討する。
→凝固剤濃度を低くすると食感が向上し、他者評価も良好であった。

６．ジャガイモの表皮や芽のソラニン量とクロロフィル量を調べる。
→鹿児島･佐賀･長崎･熊本県産メークイン 26 検体の表皮を調べた。

平成 29 年度の研究の成果

（論文）

１．「ＨＰＬＣによるジャガイモ芽のクロロフィル及びグリコアルカロイドの定量」（共著）平成２９年７月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要』　第４０号（1~7）

２．「入学者選考方法別による学業成績の追跡調査」（共著）平成２９年７月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要』　第４０号（１９~２４）

３．「栄養士養成研究（５）生活実態が学習支援効果に及ぼす影響－２」（共著）平成２９年７月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要』　第４０号（２５~３４）

平成 28 年度及び 27 年度の研究の成果

（論文）

１．「高速液体クロマトグラフィーによる果実中メラトニンの定量分析」（共著）　平成２７年７月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要』　第３８号（1~6）

２．「栄養士養成研究（３）生活実態が学習支援効果に及ぼす影響」（共著）平成２７年７月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要』　第３８号（２５~３３）

３．「栄養士養成研究（４）学習支援に対する効果の２年間の分析」（共著）平成２８年７月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要』　第３９号（２１~２５）

（その他）

１．「女子短期大学生における黄色ブドウ球菌の分布」（共著）平成２８年７月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要』　第３９号（３９~４３）

本教員の主たる研究の成果（５編以内）

1.「Adsorption of Heterocyclic Amines by Low Molecular Weight Cellulose」（共著）『食品衛生学雑誌（38 巻 6 号)』, 1997 年 12 月
2.「ラット排泄物中での Trp-P1 及びその代謝物の挙動」（共著）『食品衛生学雑誌（42 巻 4 号)』,2001 年 7 月
3.「HPLC による生乳中メラトニンの定量」（共著）『日本食品科学工学会誌（54 巻 3 号』,2007 年 3 月
4.「ラットにおける Trp-P1 の代謝排泄に及ぼすゴボウとキャベツ粉末の影響」（共著）『日本食品科学工学会誌（56 巻 4 号)』, 2009 年 4 月
5.「高速液体クロマトグラフを用いた米飯中メラトニンの定量法」（共著）『日本食品科学工学会誌（59 巻 3 号)』, 2012 年 3 月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
１．日本食品衛生学会	不参加
２．日本食品科学工学会	不参加

平成 30 年度　研究計画

①「ジャガイモにおけるクロロフィルおよびグリコアルカロイドの相関性」について研究紀要に投稿する。
② 学科で共同研究している「栄養士養成研究」について研究紀要に投稿する。
③ 「入学者選抜方法別学業成績の追跡調査」について研究紀要に投稿する。
④ 各種食品の EPA・DHA 量を調べる。
⑤ K 値の測定方法について検討する。

平成29年度　教育活動報告

平成29年度のＦＤ宣言とその評価

ＦＤ宣言	自己評価
目標：学生の理解を確認しながら授業をすすめる。 指標：問い３（授業内容を理解できた）、問い１７（総合評価）	平成 29 年度の問３の評価は（担当６科目の平均）、前年度より 0.1 下がったが、問１７は 0.2 上昇した。

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
食品学実験	フードデザイン学科１年	平成 29 年 7 月 18 日（火） 3 校時

自己評価	他者評価
本授業では、事前に作成した実験風景ビデオを見せて、内容を説明した。そのためか、学生は積極的に実験に参加し、公開授業は順調に進んだ。割合、居眠りや私語をする学生が少なかったようである。平成 29 年度の授業評価では、問３が（内容を理解できたか）、前年度より 0.2 低下した。「内容を理解できない、意欲のない学生にどう対応するか」が今後の課題である。	・担当者の話し方は、声の大きさ、スピード共に適切で聞き取りやすかった。 ・居眠りや私語をする学生もなく、集中して受講していた。 ・実験風景ビデオを見せたことで、学生の理解が深まると思われた。
	参加教員
	山下浩子教授、石井妙子教授、眞部真紀子准教授

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

① 担当６科目（共同講義２科目を除く）の授業評価（問２・３・４・17）を下表に示した。平成 28 年度に比べ、問２の平均は＋0.1、問３ −0.1、問４ −0.1、問１７ +0.2 であった。

② 平成 29 年度の計画に、「実験･実習レポートはコメントや評点を記入し速やかに返却する」を掲げた。そのせいか、実験･実習３科目の問２の評価（平均 4.1）は、講義３科目（平均 3.3）よりも高い値であった。

③ FD 宣言の指標とした、問 17 の評価は６科目中５科目が上昇したが、問３は６科目中４科目が下がり、特に講義科目の食品学総論で大きく低下した（-0.8）。来年度は、問３、４の評価が上昇するように検討する。

科　目	問２（質問） H28→H29	問３（理解） H28→H29	問４（さらに） H28→H29	問１７（総合） H28→H29
食品学総論	3.5→3.3	3.5→2.7	3.4→3.2	3.5→3.8
食品学各論	3.5→3.4	3.5→3.3	3.8→3.4	3.5→3.9
食品衛生学	3.5→3.3	3.5→3.3	3.7→3.4	3.9→3.8
食品学実験	4.0→4.2	3.7→3.5	3.5→3.4	4.0→4.2
食品衛生学実験	3.7→4.1	3.7→3.8	3.6→3.7	3.8→4.1
食品加工学実習	3.6→3.9	3.8→4.1	3.5→4.1	3.9→4.4
平均	3.6→3.7	3.6→3.5	3.6→3.5	3.8→4.0

平成 30 年度　教育活動計画	
平成 30 年度のＦＤ宣言	平成 30 年度の教育力向上のための計画
目標：分かりやすい授業を行う。 指標：問２（質問)、問３（理解)、問４（さらに)、問１７（総合評価）	① 授業の最後 5 分間程重要事項を確認する。 ② 実験･実習レポートはコメントや評点を記入し速やかに返却する。 ③ 重要事項は栄養士実力認定試験問題等を紹介する。 ④ 視覚的な授業を行う。 ⑤ 学会誌等から得た新知見を紹介する。

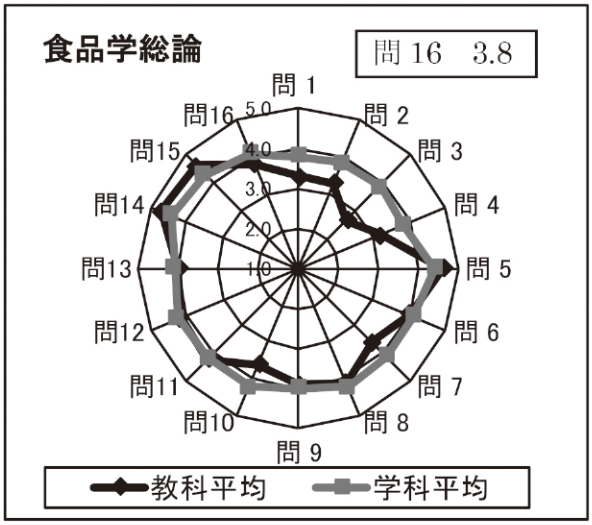
平成 29 年度　社会的活動報告			
講演等			
題名	講演年月日	主催者	場所
他団体等への協力			
協力内容	協力期間	協力先	
他大学への非常勤等			
科目名	期間	出向先	
その他特記事項			
内容		年　月　日	
・コンソーシアム久留米広報交流部会委員 ・「理工系女子の仕事図鑑（久留米男女平等推進センター主催)」での本学担当ポスター作成指導		平成 29 年 4 月～30 年 3 月 平成 30 年 7 月	
平成 30 年度　社会的活動計画			
・コンソーシアム久留米広報交流部会委員			

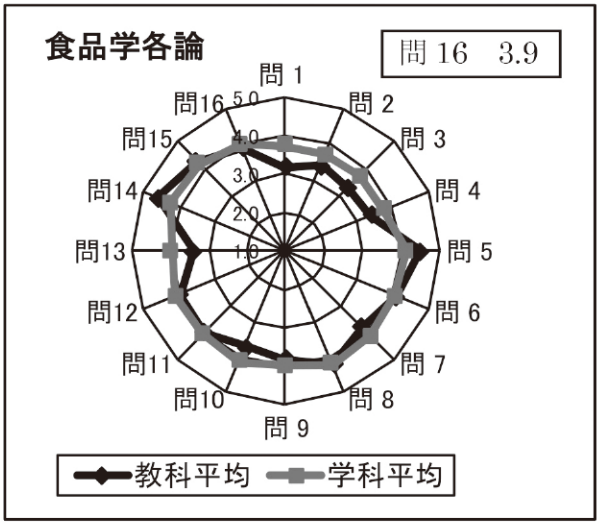
平成２９年度　学生による授業評価アンケート結果

＜質問項目＞

問 1　私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
問 2　私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
問 3　私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
問 4　私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
問 5　授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
問 6　先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
問 7　毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
問 8　先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
問 9　先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
問 10　教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
問 11　この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
問 12　先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
問 13　先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
問 14　先生は、熱意を持って授業を行っていた
問 15　先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
問 16　この授業を総合的に評価すると５点満点で何点になりますか

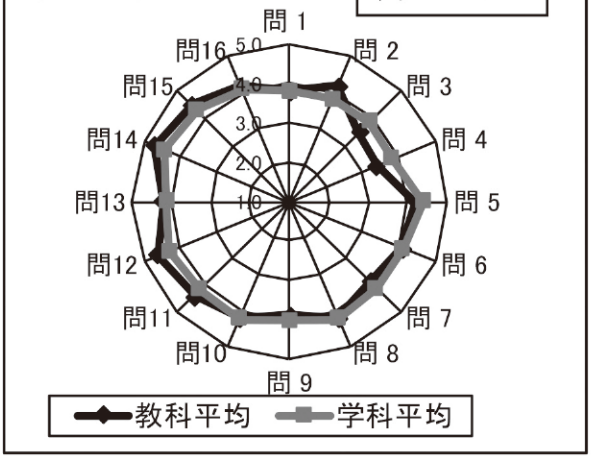
５．そう思う
４．どちらかといえばそう思う
３．どちらともいえない
２．どちらかといえばそう思わない
１．そうは思わない





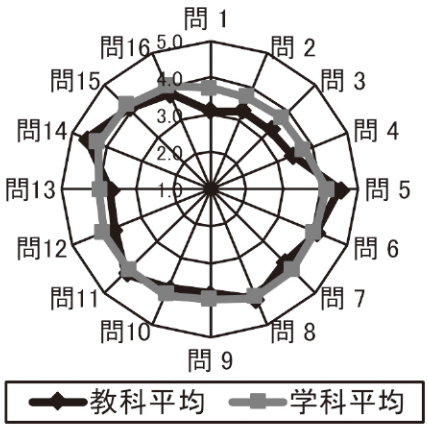
食品学実験

問 16　4.2



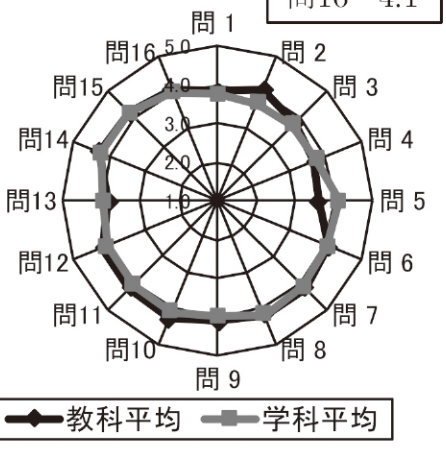
食品衛生学

問 16　3.8



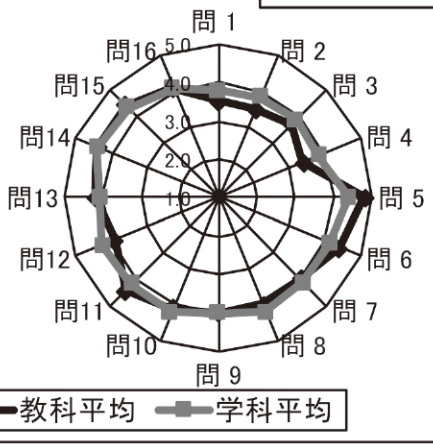
食品衛生学実験

問16　4.1



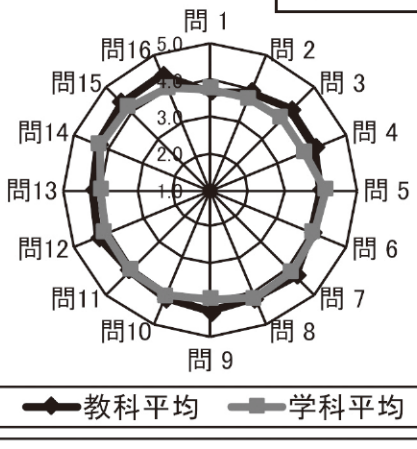
栄養士基礎演習

問16　4.1



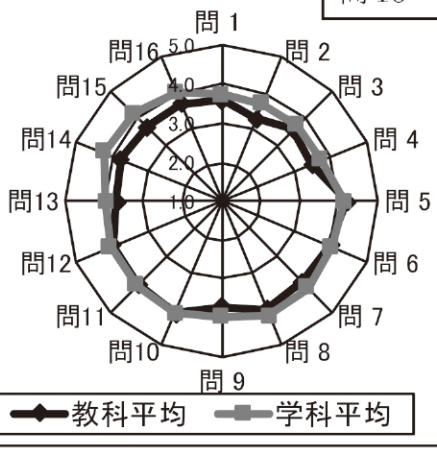
食品加工学実習

問 16　4.4



栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ

問 16　3.7



	問17　あなたはこの授業のために一週間当たり何分学習しましたか。				
科目名	0分	1～30分	31～60分	61～90分	91分以上
食品学総論(フ1)	3	6	6	1	1
食品学各論(フ1)	5	6	4	0	0
食品学実験(フ1)	0	0	1	3	11
食品衛生学(フ1)	6	5	6	0	0
食品衛生学実験(フ1)	3	3	4	5	2
食品加工学実習(フ2)	6	4	2	2	1
栄養士基礎演習(フ1)	3	8	1	1	0
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ(フ2)	6	3	5	1	1

	問18　あなたは授業時間以外にどのような学習(技術・技能の習得も含みます)を行いましたか。(複数回答)					
科目名	予習	復習	課題	試験	自発的	行っていない
食品学総論(フ1)	0	3	1	9	1	4
食品学各論(フ1)	0	1	1	13	0	1
食品学実験(フ1)	2	2	13	0	1	0
食品衛生学(フ1)	0	2	2	14	0	1
食品衛生学実験(フ1)	0	3	2	4	0	0
食品加工学実習(フ2)	1	2	9	0	0	4
栄養士基礎演習(フ1)	1	1	11	1	0	3
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ(フ2)	0	3	4	4	0	3

科目名	対象	必修・選択	教員コメント
食品学総論	フードデザイン学科1年	卒業必修・免許必修	問3（理解）の評価2.7を受け、質問にはできる限り対応します。不明な点をそのままにしておくと、学習意欲が低下するので積極的に質問してほしい。本科目の内容と、同時期開講の「生化学Ⅰ、基礎栄養学Ⅰ」と関連付けると理解が深まります。
食品学実験	フードデザイン学科1年	卒業選択・免許必修	問3（理解）の評価3.5より、内容を理解せずに実験すると、「レポートの結果や考察」が書けないので配布資料をよく読んで取りかかることが重要です。
食品学各論	フードデザイン学科1年	卒業選択・免許必修	問3（理解）の評価3.3を受けて、普段食べている食品（旬の野菜・果物等）と授業で学ぶ栄養成分（注目されている食品の機能性成分等）を関連付けると、興味が出て理解が深まります。
食品衛生学	フードデザイン学科1年	卒業必修・免許必修	問4（さらに）の評価が3.3と低い。本科目で学んだ内容は、同時期に開講している食品衛生学実験で確認することにより、理解が深まり興味がでてくると思います

食品衛生学実験	フードデザイン学科１年	卒業選択・免許必修	問４（さらに）の評価 3.7 を受け、内容を理解せずに実験した場合、例え結果が出たとしても、考察が書けません。同時期開講の食品衛生学と関連付けると理解が深まります。
食品加工学実習	フードデザイン学科２年	卒業選択・免許必修	問１（居眠り・メール）の評価 3.7 を受け、本科目では、原料がどのように変化して加工食品が作られるかをよく観察することが重要です。食品学、食品衛生学で学んだ内容を復習すると、理解が深まり、興味がでてきます。
栄養士基礎演習	フードデザイン学科１年	卒業必修	問３（理解）の評価 3.7 を受け、化学に関する内容は、食品学総論・各論、食品衛生学、実験科目等でてきます。特に、食品学･食品衛生学実験で結果を考察するときに復習すると、よく理解できます。
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ	フードデザイン学科２年	卒業選択	問３（質問）の評価が 3.3 と低い。予習復習すると、分からないところや疑問が出てきます。そのような疑問が明らかになると、脳に刻み込まれます。積極的に質問されることを期待しています。

所属学科	職名	氏名
幼児教育学科	教授	椎山克己

担当科目

科目名	対象	必修・選択
保育内容表現	幼児教育学科１年	卒業選択、免許・資格必修
音楽表現	幼児教育学科２年	卒業選択、免許必修、資格選択必修
器楽合奏	幼児教育学科２年	卒業必修
幼児問題研究セミナー	幼児教育学科２年	卒業選択、資格選択必修
保育・教職実践演習（幼稚園）	幼児教育学科２年	卒業選択、免許・資格必修
音楽保育	幼児教育学科２年	卒業選択、資格選択必修

研究分野

１．音楽教育の分野

① 幼児期の音楽教育についての研究。幼稚園教育要領・保育指針に示される領域「表現」の観点から、教育実践のプログラム研究を行っている。

② 吹奏楽を通した生涯教育としての音楽教育の研究。スクールバンドを主体としたコミュニティーによる吹奏楽活動を通して、生涯教育における音楽教育の在り方、吹奏楽指導法について研究を行っている。

２．保育者養成の分野

保育士および幼稚園教諭の養成に関する研究、カトリック保育について、並びに、子育て支援の活動に対する保育者養成校が果たす役割・課題について研究を行っている。

３．演奏の分野

クラリネットの演奏法についての研究。演奏活動を通してクラリネットの奏法、クラリネット作品の研究を行っている。

平成 29 年度　研究報告

平成 29 年度の研究の概要

1．音楽教育に関する研究

①幼児教育における音楽教育の指導法、マーチングの指導法についての実践研究を行い、教員免許状更新講習、幼稚園の園外研修において、幼稚園教諭に対しての指導を実施した。

②久留米信愛女学院コミュニティー吹奏楽団および久留米児童吹奏楽団の活動を通して、生涯教育における吹奏楽活動に関する実践研究、ならびにマーチング指導に関する実践研究を行った。

2．保育者養成の分野

アクティブラーニングラーニングを用いた授業実践の中で、保育者として必要な表現技術を学生が習得するための効果的方法についての研究を行った。また、保育者養成における課題についての共同研究を行った。

3．クラリネットの演奏法についての実践研究を行った。

平成 29 年度の研究の成果

（論文）

1．「保育・教職実践演習（幼稚園）における能動的学習による授業実践－学生の相互評価における言語表現の変化について－」　単著　平成 30 年 3 月　『国際幼児教育学会　九州・沖縄・山口支部　平成 29 年度発表論文集』（1－5）

（発表）

1．「保育・教職実践演習（幼稚園）における授業実践」　単独　平成 29 年 10 月　国際幼児教育学会　九州・沖縄・山口支部　久留米信愛女学院短期大学

（指揮）

1．「久留米信愛女学院コミュニティー吹奏楽団演奏会」　単独　平成 29 年 8 月　久留米信愛女学院コミュニティー吹奏楽団　石橋文化ホール

2．「マーチング イン 福岡 2017」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮（銀賞受賞）　共同　平成 29 年 9 月　福岡マーチングバンド・バトントワーリング協会　福岡国際センター

3．「マーチング イン 九州 2017」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮（銀賞受賞）　共同　平成 29 年 10 月　九州マーチングバンド・バトントワーリング協会　鹿児島アリーナ

4．「第 17 回マーチングステージ全国大会」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮（優秀賞受賞）　共同　平成 30 年 2 月　オリンパスホール」八王子

（報告）

1．「保育者養成課程におけるアクティブ・ラーニングの実践報告－『保育・教職実践演習（幼稚園）』と『言語表現』における取り組みを中心に－」　共著　平成 29 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学紀要第 40 号』（81－88）

平成 28 年度及び 27 年度の研究の成果

（論文）

1．「地域子育て支援拠点事業『信愛つどいの広場』の現状と課題」　単著　平成 28 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 39 号』（45～50）

（演奏）

1．「音楽の贈り物」　共同　平成 28 年 11 月　久留米連合文化会洋楽部　久留米シティプラザ久留米座

（指揮）

1．「久留米信愛女学院コミュニティー吹奏楽団演奏会」　単独　平成 27 年 8 月　久留米信愛女学院コミュニティー吹奏楽団　石橋文化ホール

2．「マーチング イン 福岡 2015」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮（銀賞受賞）　共同　平成 27 年 9 月　福岡マーチングバンド・バトントワーリング協会　福岡国際センター

3．「マーチング イン 九州 2015」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮（銀賞受賞）　共同　平成 27

年 10 月　九州マーチングバンド・バトントワーリング協会　島原復興アリーナ
4．「第 15 回マーチングステージ全国大会」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮（優秀賞受賞）　共同　平成 28 年 2 月　日本マーチングバンド協会　神奈川県民ホール
5．「久留米信愛女学院コミュニティー吹奏楽団演奏会」　単独　平成 28 年 8 月　久留米信愛女学院コミュニティー吹奏楽団　石橋文化ホール
6．「マーチング イン 福岡 2016」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮（銀賞受賞）　共同　平成 28 年 9 月　福岡マーチングバンド・バトントワーリング協会　福岡国際センター
7．「マーチング イン 九州 2016」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮（銀賞受賞）　共同　平成 28 年 10 月　九州マーチングバンド・バトントワーリング協会　北九州メディアドーム

本教員の主たる研究の成果（５編以内）

1．「日本の幼児教育における音楽教育の方向性について　－アメリカにおける音楽教育からの一考察－」（単著）　『国際幼児教育研究第 6 号』
2．『芸術のコミュニケーション・テクノロジー』（共著）　創言社　平成 13 年 9 月
3．『保育にいかす器楽合奏』（単著）　櫂歌書房　平成 16 年 2 月
4．『保育にいかすマーチング曲集』（単著）　櫂歌書房　平成 17 年 2 月
5．『保育にいかす編曲法』（単著）　櫂歌書房　平成 18 年 3 月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
国際幼児教育学会	常任理事会・支部総会に出席、支部研究会で口頭発表、常任理事・九州・沖縄・山口支部支部長
日本音楽教育学会	大会等不参加
日本管打・吹奏楽学会	大会等不参加
日本保育者養成教育学会	大会等不参加

平成 30 年度　研究計画

1．幼児教育における音楽教育の研究
国際幼児教育学会、日本音楽教育学会に所属し、より幅広い研究に取り組めるよう大会・研究会に参加する。また、国際幼児教育学会九州・沖縄・山口支部の会員での共同研究を進める。
2．保育者養成に関する研究
日本保育者養成教育学会に所属し、保育者養成についての研究を深めていく。具体的には保育・教職実践演習（幼稚園）に関する共同研究を行う。また、保育者養成のための音楽のテキストを作成する。
3．吹奏楽指導法の研究
「スクールバンドを主体としたコミュニティー吹奏楽団の運営」についての実践研究を継続する。また、マーチング作品の創作を行うと共に、指導法について研究を行う。
4．子育て支援に関する研究
本学で行っているつどいの広場での活動を基に、子育て支援に関する共同研究を継続して行い、発表する。
5．クラリネット奏法の研究
グループ“春の声”コンサート、久留米連合文化会コンサート等にて演奏発表を行う。

平成29年度　教育活動報告

平成29年度のＦＤ宣言とその評価

ＦＤ宣言	自己評価
学生の学修意欲を高める。 「私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした」の項目を4.0以上にする。	学生による授業評価の「私はわからないとき」には質問したり、自分で調べたりした」項目の平均評価は「保育内容表現」3.7、「器楽合奏」4.2、「音楽表現」4.1、「保育・教職実践演習（幼稚園）4.3という結果で、おおむね目標を達成した。ただし「保育内容表現」については今後も授業内容・方法の改善が課題である。

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
保育内容表現	幼児教育学科1年Bクラス	1月18日（木）Ⅲ校時

自己評価	他者評価
学生はロールプレイの発表に対しては積極的に意欲をもって取り組んでいた学生もいたが、慣れていないため戸惑いを感じていた学生もいた。個別の指導を強化していくことが今後の課題である。また、相互評価についてもどこに視点を持つかを具体的に示すと共に、表面的な内容にとどまらない相互評価を学生ができるように授業を工夫し、学生の学習意欲をさらに引き出すことが課題である。	和やかな雰囲気が保たれ、教員による問いかけも自然で、学生が自由に発言できる環境が整っていた。 観点を明確に持ちながら相互評価できる仕組みができていて学生も集中して臨んでいた。 表現という分野の中でこそ学生に与えられるものが何か、他の科目にはない角度、深さ、細やかさで学生の表現の目覚め、育ちを丁寧かつ力強くサポートすることが必要である。
	参加教員
	新井真実講師

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

今年の総合的な授業評価の数値は下記に示す通りであり、保育教職実践演習（幼稚園）・器楽合奏・音楽表現については改善できた。※（　　）は昨年度数値

保育内容表現　4.1(4.2)　　保育教職実践演習（幼稚園）　4.5(4.0)

器楽合奏　　4.5(3.8)　　音楽表現　4.4(3.6)

しかし、保育内容表現は0.1ポイント昨年度よりも下回り、「私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした」の項目4.0以上を今年度の目標としていたが、この科目だけはそれを下回る結果となった。この科目については、再度授業内容・方法等を検討し、学生が意欲的に取り組む授業にできるよう改善を図る。

平成30年度　教育活動計画

平成30年度のＦＤ宣言	平成30年度の教育力向上のための計画
学生の学修意欲を高める。 担当する全科目とも「私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした」の項目を4.0以上にする。	保育現場を意識した授業内容を組むと共に、一人ひとりの学生に対応した教授方法の工夫を図り、学生のさらに学びたいという意欲を引き出していく。

平成 29 年度　社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
成田山幼稚園音楽指導講師	平成 29 年 7 月 13 日、8 月 29 日、9 月 22 日	成田山幼稚園	成田山幼稚園

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
国際幼児教育学会理事，九州・沖縄・山口支部長	平成 29 年 4 月～30 年 3 月	国際幼児教育学会
久留米市社会福祉審議会委員（委員長）、同審議会児童福祉専門部会委員（部会長）	同上	久留米市
久留米市社会教育委員（委員長）	同上	久留米市
久留米市障害者問題啓発事業選考委員	同上	久留米市
久留米市子ども・子育て会議委員（会長）	同上	久留米市
大刀洗町子ども・子育て会議委員（副会長）	同上	大刀洗町
久留米学術研究都市づくり推進協議会幹事	同上	久留米市
久留米市中心市街地活性化協議会監事	同上	久留米市
久留米広域連携中枢都市ビジョン懇談会委員	平成 29 年 6 月～30 年 3 月	久留米市
久留米広域産学官連携推進協議会委員	平成 29 年 11 月～30 年 3 月	久留米広域産学官連携推進協議会
高等教育コンソーシアム久留米　運営委員会委員、地域支援部会委員（部会長）	平成 29 年 4 月～30 年 3 月	高等教育コンソーシアム久留米
福岡マーチングバンド協会監事	同上	福岡マーチングバンド協会
特定非営利活動法人　久留米音楽協会理事	同上	特定非営利活動法人久留米音楽協会
久留米吹奏楽連盟常任理事	同上	久留米吹奏楽連盟
久留米連合文化会洋楽部部長	同上	久留米連合文化会
久留米児童吹奏楽団団長・指揮者	同上	久留米児童吹奏楽団

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先

その他特記事項

内容	年　月　日

平成 30 年度　社会的活動計画

○他団体への協力

国際幼児教育学会理事・支部長、久留米市等への委員協力、高等教育コンソーシアム久留米運営・地域支援部会委員、久留米音楽協会（ＮＰＯ）理事、久留米吹奏楽連盟常任理事、福岡マーチングバンド協会監事、久留米連合文化会洋楽部部長，久留米児童吹奏楽団団長

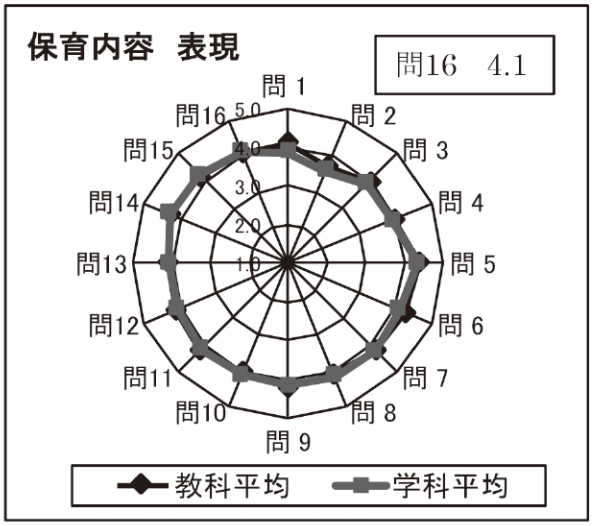
○吹奏楽指導　久留米信愛女学院吹奏楽部（中学・高校・短大）、久留米児童吹奏楽団の指導・指揮

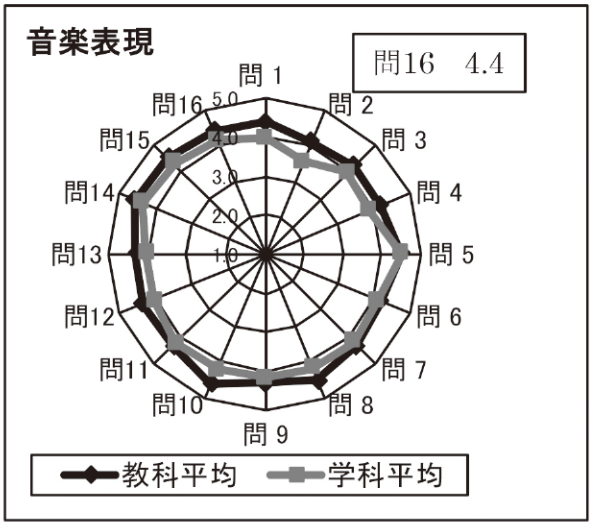
平成２９年度　学生による授業評価アンケート結果

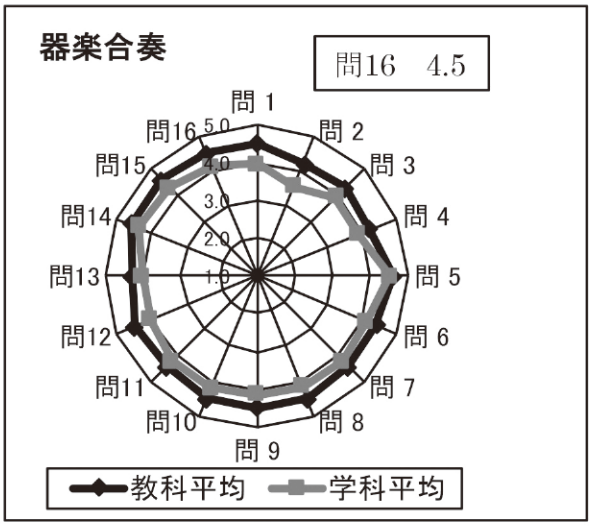
＜質問項目＞

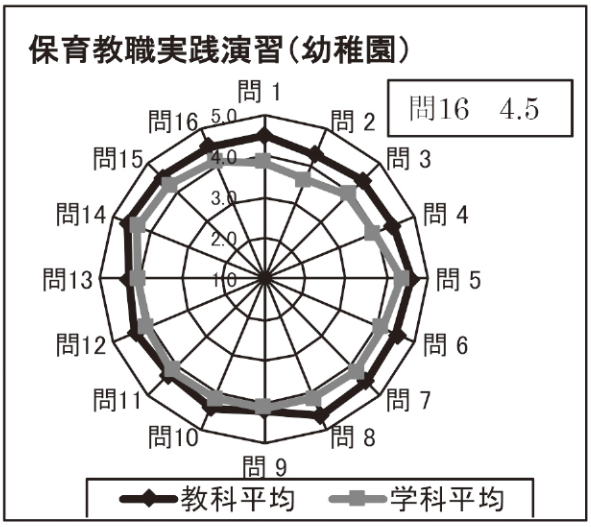
問 1　私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
問 2　私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
問 3　私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
問 4　私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
問 5　授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
問 6　先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
問 7　毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
問 8　先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
問 9　先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
問 10　教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
問 11　この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
問 12　先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
問 13　先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
問 14　先生は、熱意を持って授業を行っていた
問 15　先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
問 16　この授業を総合的に評価すると５点満点で何点になりますか

５．そう思う
４．どちらかといえばそう思う
３．どちらともいえない
２．どちらかといえばそう思わない
１．そうは思わない









	問17　あなたはこの授業のために一週間当たり何分学習しましたか。				
科目名	0 分	1～30 分	31～60 分	61～90 分	91 分以上
保育内容表現（幼 1）	37	12	5	1	1
音楽表現（幼 2）	19	15	5	4	0
器楽合奏（幼 2）	13	13	11	3	3
保育教職実践演習（幼稚園）（幼 2）	19	12	5	5	0

	問18　あなたは授業時間以外にどのような学習（技術・技能の習得も含みます）を行いましたか。（複数回答）					
科目名	予習	復習	課題	試験	自発的	行っていない
保育内容表現（幼 1）	4	4	31	1	1	16
音楽表現（幼 2）	3	3	30	6	3	7
器楽合奏（幼 2）	10	14	30	22	5	5
保育教職実践演習（幼稚園）（幼 2）	12	3	24	1	1	8

科目名	対象	必修・選択	教員コメント
保育内容表現	幼児教育学科１年	免許・資格必修	授業評価の総合評価は 4.1 であるが、「わからない時には質問したり、自分で調べたりした」の項目は 3.7 であった。授業の半分はテキストを使った講義であるので、事例研究・グループワーク等の方法を取り入れて学生がより意欲的に取り組めるように 授業方法の改善を図りたい。
音楽表現	幼児教育学科２年	免許必修	授業評価の総合評価は 4.4 であり、おおむね学生も意欲を持って授業に臨んでいた。ただし、「わからない時には質問したり、自分で調べたりした」の項目は 4.1 の評価であり、より能動的な授業への取り組みができるように授業方法等の改善を図りたい。
器楽合奏	幼児教育学科２年	卒業必修	授業評価の総合評価は 4.5 であり、学生も意欲を持って授業に臨んでいた。楽譜の読み書きが多い授業内容であるので、わからない際には積極的に質問をして理解を図ってほしい。
保育・教職実践演習（幼稚園）	幼児教育学科２年	免許・資格必修	模擬保育のロールプレイを取り入れた授業であるので、授業評価の総合評価も 4.5 であり、能動的な授業への取り組みを学生は行っていた。今後はさらに視聴覚機器等の活用を図り、学生の授業理解の向上を図りたい。

所属学科	職名	氏名
フードデザイン	教授	山下　浩子

担当科目

科目名	対象	必修・選択
応用栄養学Ⅰ	フードデザイン学科１年	卒業・栄養士必修
応用栄養学Ⅱ	フードデザイン学科１年	栄養士必修
栄養指導論	フードデザイン学科１年	卒業・栄養士必修
栄養指導演習	フードデザイン学科１年	卒業・栄養士必修
栄養士基礎演習（4回）	フードデザイン学科１年	卒業必修
栄養指導実習	フードデザイン学科２年	栄養士必修
公衆栄養学概論	フードデザイン学科２年	栄養士必修
栄養士総合演習Ⅱ（6回）	フードデザイン学科２年	卒業選択
フードマネジメント（8回）	フードデザイン学科２年	卒業選択
栄養士実務セミナー（4回）	フードデザイン学科２年	卒業選択
卒業セミナー	フードデザイン学科２年	卒業選択
子どもの食と栄養Ⅰ	幼児教育学科２年	保育士必修
子どもの食と栄養Ⅱ	幼児教育学科２年	保育士必修

研究分野

１．栄養教育・指導論の分野

栄養教育・指導における理論に基づいた方法や技術に関する研究。対象者を自らの意思で行動変容に導くための方法や食育教材について研究している。

２．小児栄養学の分野

小児期の栄養のあり方に関する研究。とくに小児生活習慣病予防のための小児肥満改善について研究している。

３．栄養士養成の分野

栄養士の養成に関する研究。栄養士養成に関するカリキュラム論・方法論について、栄養士養成に携わっている立場から研究を行っている。

平成 29 年度　研究報告

平成 29 年度の研究の概要

1．栄養教育・指導論の分野

食教育をテーマに、久留米市内保育所、幼稚園および認定こども園における食育実践の実態について調査研究を行った。

2．小児栄養学の分野

久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来にて、受診児の肥満改善のための食事・生活（運動・睡眠）について継続指導を行った。

3．栄養士養成の分野

『入学から卒業までのガイドブック』（九訂版）作成に向けて、内容・構成を検討した。

学科内 FD 活動の一環として、「栄養士養成研究」を継続した。

4．地域企業等との連携事業

平成 30 年度から取組む「新・信愛菓子」開発に向けて、地元菓子店への相談および食材検討など準備を行った。

平成 29 年度の研究の成果

（論文）

1．「栄養士養成研究（5）生活実態が学習支援効果に及ぼす影響 - 2」共著　平成 29 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 40 号』（25～34）

（その他）

1．『入学から卒業までのガイドブック第 8 号』共著　平成 29 年 4 月　フードデザイン学科（総頁 64）

2．「調理学関連科目の習熟度について　第 1 報」共著　平成 29 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 40 号』（95～101）

平成 28 年度及び 27 年度の研究の成果

（論文）

1．「栄養士養成研究（3）生活実態が学習効果に及ぼす影響」共著　平成 27 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 38 号』（25～33）

2．「栄養士養成研究（4）学習支援に対する効果の 2 年間の分析」共著　平成 28 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 39 号』（21～25）

（報告）

1．「子育て支援講座における食育の取り組み」共著　平成 27 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 38 号』（91～97）

（その他）

1．『入学から卒業までのガイドブック第 6 号』共著　平成 27 年 4 月　フードデザイン学科（総頁 79）

2．「久留米市の保育所・幼稚園・認定こども園における食育推進の実際　第 1 報」共著　平成 27 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 38 号』（53～58）

3．『入学から卒業までのガイドブック第 7 号』共著　平成 28 年 4 月　フードデザイン学科（総頁 64）

4．「久留米市の保育所・幼稚園・認定こども園における食育推進の実際　第 2 報」共著　平成 28 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 39 号』（51～56）

5．『子どもの食と栄養　第 2 版』分担執筆　平成 28 年 9 月　保育出版社

本教員の主たる研究の成果（５編以内）

１.『子どもの健康』共著　開成出版　平成 16 年 3 月
２.『くるめの元気！食育やさいかるた』食育教材製作　平成 18 年 6 月
３.「総説 子どもの肥満」共著　『久留米醫學會雑誌第 73 巻第 5・6 号別冊』　平成 22 年 6 月
４.『子どもの食と栄養　第 2 版』分担執筆　保育出版社　平成 28 年 9 月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本栄養・食糧学会	大会等不参加。
日本栄養改善学会	大会等不参加。
日本家政学会	大会等不参加。
日本調理科学会	大会等不参加。平成 28・29 年度代議員
日本小児保健学会	大会等不参加。

平成 30 年度　研究計画

１．栄養教育・指導論の分野
　久留米市内保育所、幼稚園および認定こども園における食教育研究を継続し、調査・研究に携わる。
２．小児栄養学の分野
　久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来にて、受診児の肥満改善のための食事・生活指導を継続する。
３．栄養士養成の分野
　『入学から卒業までのガイドブック』（十訂版）作成に向けて、内容・構成を検討する。
　学科内 FD 活動の一環として、「栄養士養成研究」を継続する。
４．地域企業等との連携事業
　平成 30 年度教育改革推進事業および「フードプロジェクト」活動と兼ねて、地域企業等との連携事業を継続する。

平成29年度　教育活動報告

平成29年度のＦＤ宣言とその評価

ＦＤ宣言	自己評価
【目標】 わかりやすい授業法の工夫 学生の理解度確認 【成果の指標】 担当科目（輪講科目除く）の学生による授業評価アンケート、問2「質問実行」、問3「授業内容の理解」、問 6「本科目目標・他科目との関連理解」、問 7「毎時のテーマ・目的理解」、問9「板書等の利用効果」の平均ポイントを指標とする。	○「質問実行」 平成28年度3.3　平成29年度3.4　＋0.1ポイント ○「授業内容の理解」 平成28年度3.5　平成29年度3.7　＋0.2ポイント ○「本科目目標・他科目との関連理解」 平成28年度3.7　平成29年度4.1　＋0.4ポイント ○「毎時のテーマ・目的理解」 平成28年度3.7　平成29年度3.9　＋0.2ポイント ○「板書等の利用効果」 平成28年度3.4　平成29年度3.9　＋0.5ポイント

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
公衆栄養学概論	フードデザイン学科2年	平成29年11月7日（火）1校時

自己評価	他者評価
本科目は前年度総合評価2.7と極めて低く、授業改善対象科目である。本時の内容は「栄養士実力認定試験」に向けての学習も含め、「わが国の健康・栄養問題の現状と課題」について、質問形式による復習および学習を行った。授業前にテキストにある演習問題を複習・予習を行っている学生は、学生による解答および解説が容易であったと考える。さらに学生各自の理解習得へ導く教授法を工夫しなければならない。	1．話し方は明瞭で聞き取りやすかった。 2．指名された学生が解答・解説するだけでなく、グループ学習形式でアクティブラーニングが導入できないか検討されるとよい。 3．時間配分として復習時間が長いように感じた。
	参加教員
	江越和夫教授　山村涼子教授　眞部真紀子准教授

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

○「総合評価」が上がった科目（前年度評価比）

担当（輪講除く）8科目全てにおいて上がった。前年度評価比＋0.5ポイント以上の科目は高い順に挙げると、「栄養指導実習」（総合評価3.8）＋1.4、「栄養指導論」（4.2）＋1.0、「栄養指導演習」（3.9）＋0.8、「公衆栄養学概論」（3.4）＋0.7、「応用栄養学Ⅰ」（4.2）＋0.6の5科目であった。

【課題】

担当全科目において上がったのは前年度の総合評価が低かったためである。中でも「栄養指導実習」、「公衆栄養学概論」は極めて低かった。よって、29年度は授業改善に意識的に臨んだ結果と考える。全科目総合評価4.0以上を目標に、さらなる「学生の学習意欲を引き出す配慮と工夫」が必須である。

平成30年度　教育活動計画

平成30年度のＦＤ宣言	平成30年度の教育力向上のための計画
【目標】 わかりやすい授業法の工夫 学生の理解度を確認 【成果の指標】 学生による授業評価の問2、3、6、7、9により、①復習②目標明示③要点板書④質問・考察時間確保⑤理解度向上の成果をみる。	授業において①前回の復習②今回の目標明示③要点の板書④質問・考察時間の確保⑤まとめと理解度の確認を行う。「わかりやすい授業法の工夫」は①復習、②目標明示、③要点板書、⑤まとめを行う。「学生の理解度確認」は毎時の目標に合わせた④質問・考察時間を定時確保および小テストによって⑤理解度の確認に努める。

平成 29 年度　社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
魅力あるおいしい学校給食にするために ～だしで変わる料理のおいしさ～	29・07・25 29・08・09	公益財団法人福岡県学校給食会	公益財団法人福岡県学校給食会

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来にて栄養指導	平成 29 年 4 月～30 年 3 月（週 1 回）	久留米大学医療センター小児科

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
食と健康（a）	平成 29 年度前期	久留米大学
食と健康（b）	平成 29 年度後期	久留米大学
子どもの食と栄養（1）	平成 29 年度前期	西南学院大学
子どもの食と栄養（2）	平成 29 年度後期	西南学院大学

その他特記事項

内容	年　月　日
平成 29 年度学校給食調理技術講習会講師（福岡県学校給食会）	平成 29 年 7 月 25 日、8 月 9 日
平成 29 年度学校給食料理コンクール審査委員長（福岡県学校給食会）	平成 29 年 10 月 17 日

平成 30 年度　社会的活動計画

１．他団体等への協力

①久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来・栄養指導

（平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月毎週金曜日午後の予定）

②久留米市食育推進会議副会長（委員任期：平成 29 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

２．他大学への非常勤等

①久留米大学「食と健康（ａ）」・「食と健康（ｂ）」（平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月前期・後期）

３．その他

①平成 30 年度学校給食調理技術講習会講師（福岡県学校給食会）（平成 30 年 7 月 24 日、27 日）

②平成 30 年度食生活改善推進員養成教室講師（久留米市）（平成 30 年 8 月 7 日）

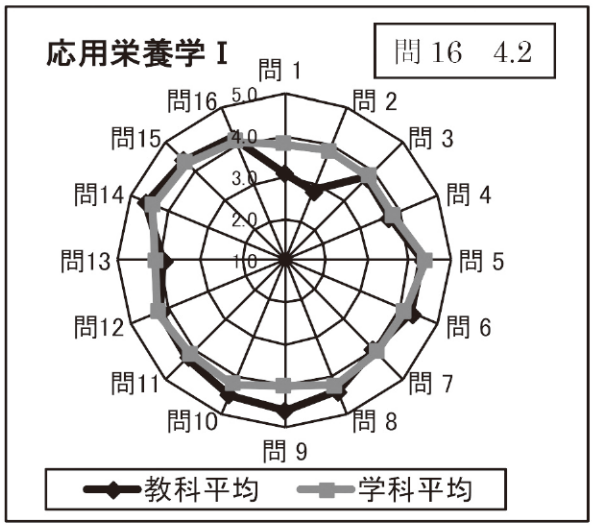
③食育の推進実践セミナー講師（福岡県栄養士会）（平成 30 年 9 月 11 日）

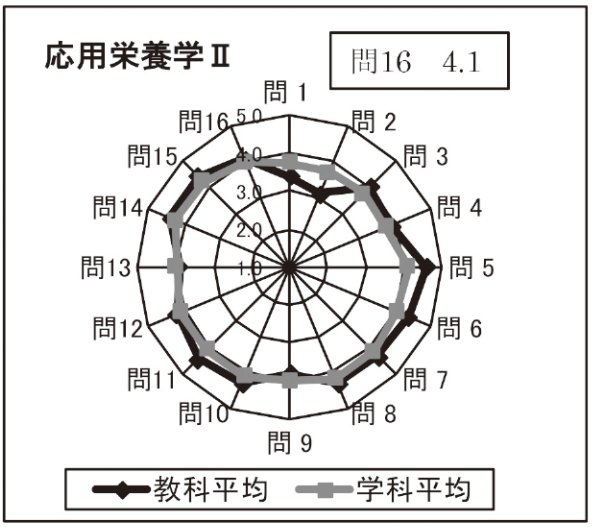
平成２９年度　学生による授業評価アンケート結果

＜質問項目＞

問 1　私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
問 2　私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
問 3　私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
問 4　私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
問 5　授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
問 6　先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
問 7　毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
問 8　先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
問 9　先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
問 10　教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
問 11　この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
問 12　先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
問 13　先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
問 14　先生は、熱意を持って授業を行っていた
問 15　先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
問 16　私は、この授業のために一週間あたり（　　）分、予習・復習した
問 17　この授業を総合的に評価すると５点満点で何点になりますか

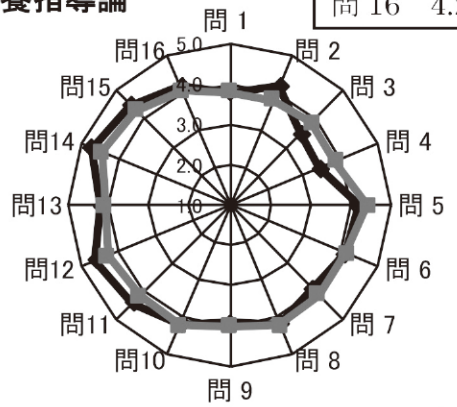
５．そう思う
４．どちらかといえばそう思う
３．どちらともいえない
２．どちらかといえばそう思わない
１．そうは思わない





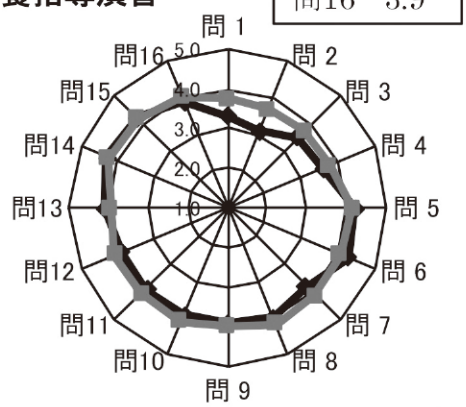
栄養指導論

問 16　4.2



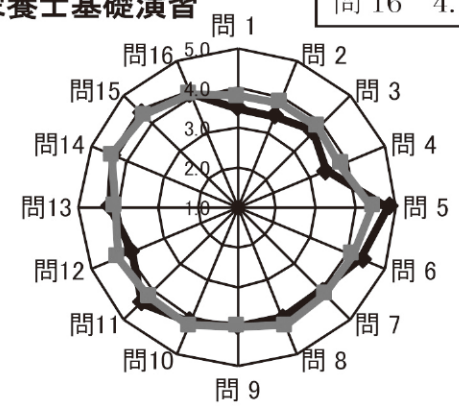
栄養指導演習

問16　3.9



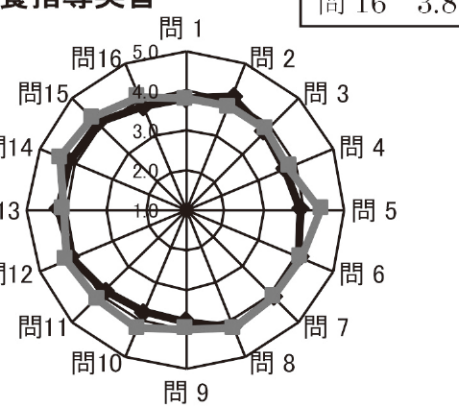
栄養士基礎演習

問 16　4.1



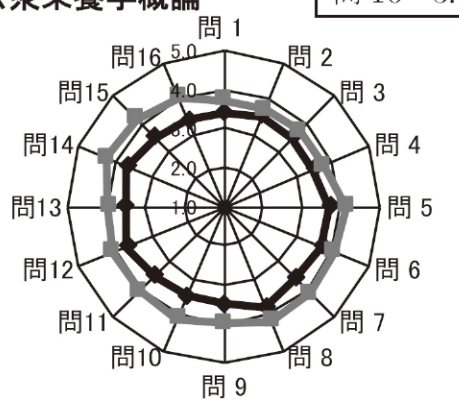
栄養指導実習

問 16　3.8



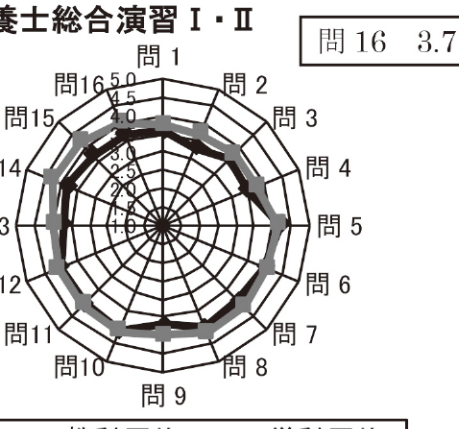
公衆栄養学概論

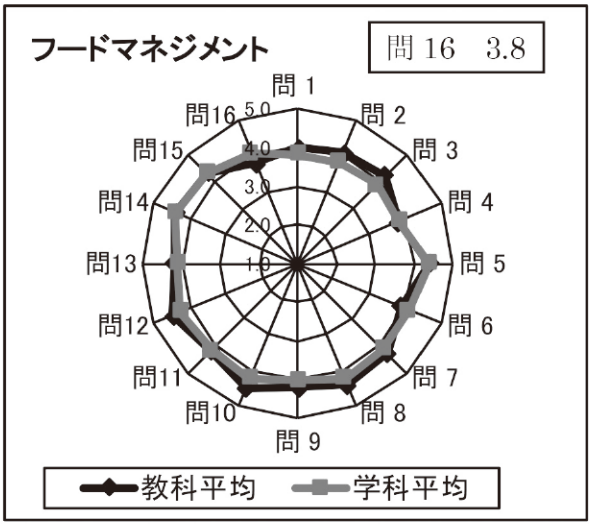
問 16　3.4

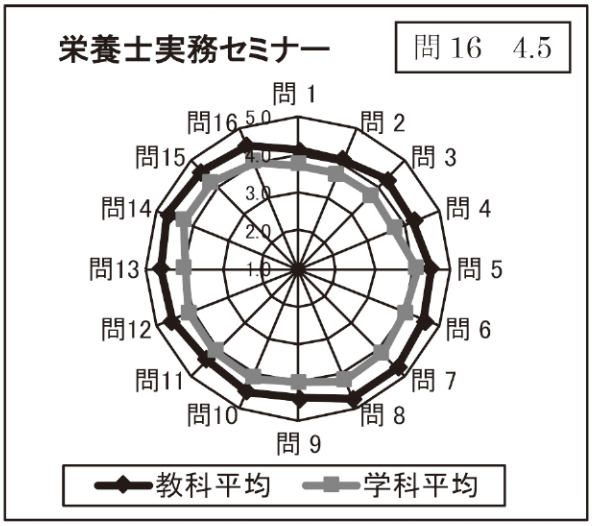


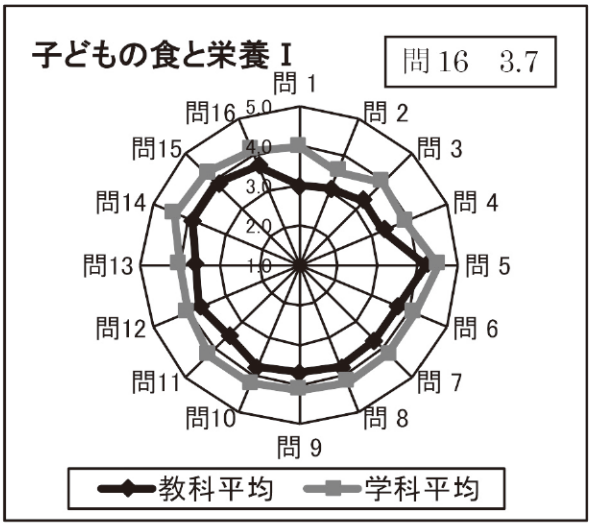
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ

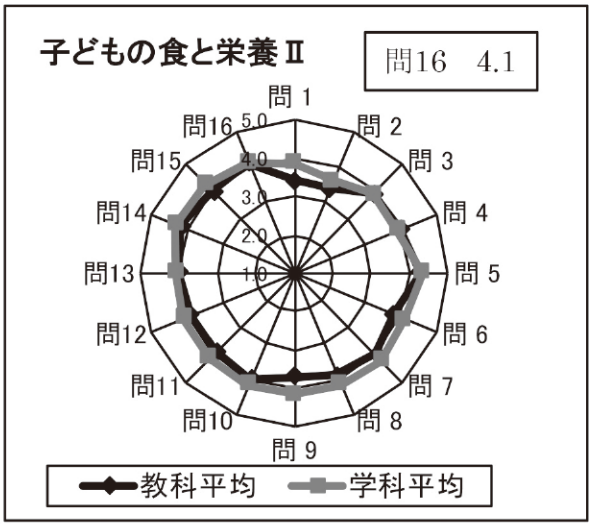
問 16　3.7











	問17　あなたはこの授業のために一週間当たり何分学習しましたか。				
科目名	0 分	1～30 分	31～60 分	61～90 分	91 分以上
応用栄養学Ⅰ(フ1)	4	9	4	0	0
応用栄養学Ⅱ(フ1)	4	7	5	1	0
栄養指導論(フ1)	0	0	1	3	11
栄養指導演習(フ1)	5	7	1	1	1
栄養士基礎演習(フ1)	3	8	1	1	0
栄養指導実習(フ2)	8	5	2	1	1
公衆栄養学概論(フ2)	8	4	4	1	0
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ(フ2)	6	3	5	1	1
フードマネジメント(フ2)	5	6	0	0	0
栄養士実務セミナー(フ2)	5	1	2	1	0
子どもの食と栄養Ⅰ(幼2)	32	9	1	0	0
子どもの食と栄養Ⅱ(幼2)	29	13	3	0	0

	問18　あなたは授業時間以外にどのような学習（技術・技能の習得も含みます）を行いましたか。（複数回答）					
科目名	予習	復習	課題	試験	自発的	行っていない
応用栄養学Ⅰ（フ1）	0	5	5	10	0	2
応用栄養学Ⅱ（フ1）	1	2	1	12	1	1
栄養指導論（フ1）	2	2	13	0	1	0
栄養指導演習（フ1）	0	1	7	5	2	3
栄養士基礎演習（フ1）	1	1	11	1	0	3
栄養指導実習（フ2）	0	3	10	0	2	4
公衆栄養学概論（フ2）	0	2	4	5	1	7
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ（フ2）	0	3	4	4	0	3
フードマネジメント（フ2）	1	3	3	1	0	6
栄養士実務セミナー（フ2）	0	2	1	0	1	4
子どもの食と栄養Ⅰ（幼2）	0	1	3	13	1	25
子どもの食と栄養Ⅱ（幼2）	0	2	10	19	1	16

科目名	対象	必修・選択	教員コメント
応用栄養学Ⅰ	フードデザイン学科１年	卒業・栄養士必修	総合評価 4.2（前年度比＋0.6）。問 2「わからない時に質問または自分で調べた」（－0.7）の結果を受け、わからない点をそのままにせず、授業時や終了時直ぐに、またはオフィスアワーを活用して、いつでも質問してほしい。逆に「わかりやすく丁寧な講義だった」のコメントを受け、質問が挙がらなかったのかと想像する。
応用栄養学Ⅱ	フードデザイン学科１年	栄養士必修	総合評価 4.1（＋0.2）および問 9「板書の仕方や配布資料が効果的」4.6（＋0.8）の結果を受けて、「応用栄養学Ⅰ」同様に要点明示により理解度が上がったと考える。講義回数が 8 回なのでシラバスを参照し準備学習を続けてほしい。
栄養指導論	フードデザイン学科１年	卒業・栄養士必修	総合評価 4.2（＋1.0）の結果を受けて、学習意欲が上がるよう、双方向の授業改善に努める。「応用栄養学Ⅰ」と同様、「わかりやすく丁寧な講義だった」のコメントを受けたが、少しでもわからない点は、気兼ねなく質問してほしい。
栄養指導演習	フードデザイン学科１年	卒業・栄養士必修	総合評価 3.9（＋0.8）の結果を受けて、前年度よりもわかりやすい演習指導法の工夫に努めた効果があったかと考えた。しかし、わからない点は一人ひとり異なると思うので、演習時に積極的に質問してほしい。
栄養士基礎演習	フードデザイン学科１年	卒業必修	総合評価 4.1（＋0.7）および問 2「わからない時に質問または自分で調べた」3.5（＋0.3）結果を受けて、栄養士養成課程の導入科目として、前年度より全項目の評価が上がる授業改善

			に努めた効果があったかと考えた。わからない点、苦手な内容はそのままにせず、各担当教員に積極的に質問してほしい。
栄養指導実習	フードデザイン学科２年	栄養士必修	総合評価 3.8（＋1.4）の結果と「丁寧な指導」とのコメントを受けて、授業改善に取り組んだ効果の表れかと考える。実習テーマが各学生にあったため、より学習意欲が上がったのかもしれない。今後の栄養指導においても課題と目標を設定して取組んでほしい。
公衆栄養学概論	フードデザイン学科２年	栄養士必修	総合評価 3.4（＋0.7）および問 3「授業の内容を理解することができた」3.5（＋0.7）の結果を受け、本科目は栄養士実力認定試験対策も兼ねているので学習成果が試験結果にも反映することを期待する。また「復習時間が長く、進度が遅い」とのコメントを受け、授業展開の改善に取り組む。
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ	フードデザイン学科２年	卒業選択	総合評価 3.7（＋0.6）および問 17「この授業のための一週間当たりの予習・復習時間」0 分が 4 割弱、1～60 分が 5 割の結果を受け、栄養士養成課程の総復習科目（栄養士実力認定試験対策）として、もっと積極的な姿勢で臨んでほしい。
フードマネジメント	フードデザイン学科２年	卒業選択	総合評価 3.8（－0.5）と前年度より下がったが、問 2「わからない時には質問したり、自分で調べたりした」4.1（＋1.3）の項が上がった。一人ひとりの学習意欲は高かったと考える。
栄養士実務セミナー	フードデザイン学科２年	卒業選択	総合評価 4.5（－0.3）と前年度より下がったが、授業目的（新人栄養士に必要な基本的技術の習得）に対し、受講者の学習意欲と各担当教員（輪講）の熱意（コメントにもあり）は合致していたと受け止める。卒業後、各職場においてもこの姿勢で臨んでほしい。
子どもの食と栄養Ⅰ	幼児教育学科２年	保育士必修	総合評価 3.7（＋0.1）の結果と「わかりやすい」、「話し方が眠くなる、わかりにくい」のコメントを受けて、話し方を含め授業展開の難しさを痛感している。一方向になりがちな講義形式の授業改善に努める。わからない点は、授業時や終了時直ぐに、またはオフィスアワーを活用して、いつでも質問してほしい。
子どもの食と栄養Ⅱ	幼児教育学科２年	保育士必修	総合評価 4.1（＋0.2）の結果と「初めて作る料理もあり、学べて楽しかった」、「食への興味がたかまった」、「学んだことをこれからに活かしたい」のコメントを受けて、さらに授業内容の充実に努める。また、助手の先生の「丁寧な授業準備」に対する感謝のコメントは特筆したい。

所属学科	職名	氏名
フードデザイン学科	教授	石井妙子

担当科目

科目名	対象	必修・選択
臨床栄養学概論	フードデザイン学科２年	卒業選択・免許必修
臨床栄養学実習	フードデザイン学科２年	卒業選択・免許必修
給食計画論	フードデザイン学科１年	卒業必修・免許必修
給食管理実習Ⅰ	フードデザイン学科１年	卒業選択・免許必修
給食管理実習Ⅱ	フードデザイン学科２年	卒業選択・免許必修
校外給食管理実習Ⅱ	フードデザイン学科２年	卒業選択
栄養士基礎演習	フードデザイン学科１年	卒業必修
栄養士総合演習Ⅱ	フードデザイン学科２年	卒業選択
栄養士実務セミナー	フードデザイン学科２年	卒業選択

研究分野

１．糖尿病の分野

糖尿病療養支援のために糖尿病療養指導士会（CDEJ と LCDE）の組織運営を通じてその方法や対策について研究。対象者を自らの意思で行動変容に導くための方法や医療従事者相互の連携について研究している。

２．高齢者栄養の分野

高齢者の低栄養や重症化予防対策のための多職種連携や摂食・嚥下についての研究。とくに在宅高齢者支援について研究している。

３．栄養士養成の分野

栄養士の養成に関する研究。栄養士養成に関する方法論について、栄養士養成に携わっている立場から研究を行っている。

４．栄養士会活動

福岡県栄養士会理事（福岡支部支部長）としての活動を再開し、地域包括ケアシステムに栄養士が組織の一員として位置付けられるようにしたい。

平成 29 年度　研究報告

平成 29 年度の研究の概要

１．糖尿病の分野

「福岡糖尿病療養指導士会（LCDE)」の中央認定委員として、“ふくおか市民糖尿病教室”の実行委員として中心的活動。“ウォークラリー”や“糖尿病フェアー”の企画運営、「福岡 LCDE」認定試験の試験官として活動。「日本糖尿病療養指導士（CDEJ）連絡会」では、顧問として定期講演会の企画運営に携わり、グループワークのファシリテーターを務めた。平成 29 年は 2 回実施。

２．高齢者栄養の分野

糸島市の地域ケア会議と訪問 C 事業の栄養士会総括責任者。コーディネータの調整・育成・事例検討会などを企画・実施した。在宅訪問歯科診療に同行し VE による摂食・嚥下評価に基づいて栄養食事指導を実施。「日本在宅栄養管理学会」の九州・沖縄ブロック長補佐として認定栄養士の指導や連絡会や症例検討会を開催。「福岡食支援の会」「在宅ネットワーク福岡中央」の世話人として企画運営に携わる。講演会では講師・コメンテーターを務める。多職種との連携を図る。「中央区医療と介護のまちづくりプロジェクト」は行政と医師会と多職種連携で高齢者や民生員対象に講演会実施。

３、栄養士会活動

福岡県栄養士会理事（福岡支部支部長）として、県栄養士会運営については理事会（2 か月に 1 回開催)、総会、栄養士大会並びに栄養改善学会など。福岡支部長として企画運営会議（2 か月に 1 回）を主催。今年度は糸島市事業の発展と充実ならびに多職種連携に勤めた。

４、栄養士養成の分野

栄養士界についての情報とその魅力について学生に伝え、就職支援や援助を積極的に実施。

平成 29 年度の研究の成果

（論文）

1.「栄養士養成研究（５）生活実態が学習支援効果に及ぼす影響」共著　平成 29 年 7 月
『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 40 号』(25～34)

２.「調理学関連科目の習熟度について　第 1 報」共著　平成 29 年 7 月
『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 40 号』(95～101)

平成 28 年度及び 27 年度の研究の成果

食塩摂取量「見える化」研究…2 年間実施した調査結果を解析して、高血圧学会、日本栄養改善学会で発表。(共著)

本教員の主たる研究の成果（５編以内）

１「K-2S に変更後、難治性下痢が改善した重症肺炎」共著平成 23 年 3 月日本病態栄養学会雑誌

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本病態栄養学会	学術集会参加。学術評議員。
日本静脈・経腸学会	学術集会不参加。
日本在宅栄養管理学会	学術集会参加。九州・沖縄ブロック研修会２回参加。
日本栄養士会	総会参加。(公社)福岡県栄養士会理事（福岡支部支部長）
日本糖尿病学会・九州地方会	参加。
福岡摂食嚥下カンファレンス	年２回講演会に参加。世話人
沖縄リハビリテーション栄養研	参加。

在宅ネットワーク福岡中央 中央区医療と介護のまちづくり プロジェクト	講演会参加。コメンテーター。世話人 研修会講師。委員。

平成 30 年度　研究計画

（論文）

１、「栄養士養成研究（６）」

５年間の取り組みの総括。

（その他）

１、研究ノート「「学生の成長」の可視化のこころみ―フードプロジェクト活動を通じて―」

２、研究ノート「調理関学関連科目の習熟度について」第 2 報

３、糖尿病の分野

糖尿病療養指導士活動の継続。とくに「ふくおか市民糖尿病教室」は栄養士だけではなく、医師・歯科医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・運動指導士など多職種との連携事業で、実行委員長の医師とともにコメイデカル間の調整を図る立場であるので、昨年より洗練された内容になるように、充分な検討と準備をしたいと考えている。

４、高齢者栄養の分野

地域連携多職種ケア会議参加と活動継続。在宅高齢者に対する地域ケアの一員としての位置づけが定着できるように努力したい。「日本在宅栄養管理学会」活動の継続。

５、栄養士会活動

今年度も理事としての活動を継続。世代交代のため福岡支部長は退く。栄養士界の活性化と繁栄のために努力する。

平成 29 年度　教育活動報告

平成 29 年度のＦＤ宣言とその評価

ＦＤ宣言	自己評価
【目標】 わかりやすい授業法の工夫 学生の理解度確認 【成果の指標】 担当科目の学生による授業評価アンケート、問１、「居眠り」問 2「質問実行」、問 3「授業内容の理解」、問 6「本科目目標・他科目との関連理解」、問 7「毎時のテーマ・目的理解」の平均ポイントを指標とする	○「居眠り」 平成 29 年度 4.26　　平成 28 年度 3.9 ○「質問実行」 平成 29 年度 4.02　　平成 28 年度 3.6 ○「授業内容の理解」 平成 29 年度 4.12　　平成 28 年度 3.8 ○「本科目目標・他科目との関連理解」 平成 29 年度 4.32　　平成 28 年度 4.0 ○「毎時のテーマ・目的理解」 平成 29 年度 4.42　　平成 28 年度 4.1 成績の指標とした項目すべてのポイントが上がり、授業の工夫が功を奏し学生が「わかった」と実感することが増えたと思う。更なる努力をしていきたい。

公開授業とその評価		
公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
給食計画論	フードデザイン学科１年	平成 28 年 7 月 24 日 １校時

自己評価	他者評価
山村涼子先生の「給食実務論」と合同で２年生の校外実習報告を聞いて、特定給食施設の種類と特徴についてより具体的にイメージし理解することをねらいとした。ひいては自己の将来の進路についても考えを深める機会とした。学生には事前に質問できるようにしっかりと学習し質問することを課題にして臨んだ。活発な質疑応答によりアクティブラーニングを経験して積極的に能動的に授業に参加し理解が深まり授業に対して学生全体が集中することを期待した。一人最低一回は質問することとしたが、一回質問するとそれで終わった感じがする学生が居たことは残念だと思った。半面、質問を想定して発表を聞いていたので、学習効果は上がったとも感じた。双方向の授業の取り組みは、今後ともに工夫しながら模索していきたいと思った。	アクティブラーニング形式の報告会の設定で両学年の学生が集中関与していた。本時のテーマ・目的の確認を其々が行っていたが、双方で進行の役割分担など擦り合わせした方がよかったと思う。皆の前での発表や質問することで程よく緊張していて、授業の集中に繋がり昨年と比べてかなり活発で能動的に授業に関わっていると思う。 時間があれば、グループディスカッションで話し合いができたらよかったと思う。担当者の話し方は明瞭で聞き取りやすかったが、学生に対してはマイクを必要本数準備するなど工夫が必要。
	参加教員
	山下浩子教授、江越和夫教授、眞部真紀子准教授、生地暢准教授

学生の授業評価に対する自己評価と改善策
昨年度に比べて総合評価は上がった。課題にしていた授業への集中を高めるために「携帯電話は机の上に出さない」を徹底したためか問１のポイントが上昇した。また双方向の授業に取り組み、更に授業の最後と次回授業の冒頭に「まとめ」と「振り返り」を実施したので、問２が「給食計画論」以外は上がった。「給食管理実習Ⅰ」の授業で、問５の授業時間について評価が低いのは実習になると授業時間を超過するのが原因と思うが、実習時以外の日と調整するとともに、オリエンテーション時に説明をして学生に納得させる工夫が必要だと思った。今後も、学習意欲を高める工夫と理解を深める工夫を、授業時並びにオフィスアワーで仕掛けをしていきたい。

平成 30 年度　教育活動計画

平成 30 年度のＦＤ宣言	平成 30 年度の教育力向上のための計画
【目標】 わかりやすい授業法の工夫 学生の理解度確認 双方向の授業の工夫 【成果の指標】 担当科目の学生による授業評価アンケート、問１、「居眠り」問２「質問実行」、問３「授業内容の理解」、問６「本科目目標・他科目との関連理解」、問７「毎時のテーマ・目的理解」の平均ポイントを指標とする	わかりやすい授業法の工夫として、レジュメを学生独自のノート作成が出来るように仕掛けをし、重要事項が一目瞭然となるように工夫する。学生の理解度確認については小テストの実施と授業中の質問において、双方向の授業としては学生に考えさせる授業展開を工夫する。双方向の授業を盛り込もうとすると、授業時間の制約がありままならぬ点があるが、随所に取り入れたいと思う。例えば事前課題を課し活発な質疑応答ができるような授業計画を立てたいと思う。

平成29年度　社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
「在宅で栄養士ができること」	2017年5月19日	新吉塚病院	新吉塚病院
「健康寿命を延ばす食生活」 ～噛むのが難しい方のための調理の工夫～	2017年6月17日	久留米信愛女学院短期大学	久留米信愛女学院短期大学
「健康寿命を延ばす食生活」 ～飲みこみにくい方のための調理の工夫～	2017年7月8日	久留米信愛女学院短期大学	久留米信愛女学院短期大学
出前講座「フレイルって何？」	2017年7月21日	福岡市中央区衛生連合会	あいれふ
「在宅訪問における栄養士」	2017年9月6日	中央区医療と介護のまちづくりプロジェクト	あいれふ
「高齢者糖尿病と症例」	2017年9月23日	日本在宅栄養管理学会九州・沖縄研修会	中村学園大学 ももちパレス
「在宅で栄養士ができること」	2017年11月19日	那珂川病院研修会 福岡県栄養士会	那珂川病院
「有料高齢者施設で看取りを経験して」 (※コメンテーター)	2017年11月10日	在宅ケアネット福岡中央	浜の町病院
「高齢者栄養と在宅」	2017年11月17日	佐賀県栄養士会	アバンセ
「高齢者栄養」	2017年12月9日	福祉祭り	ふくふくプラザ
「在宅で栄養士ができること」	2017年12月16日	中央区医療と介護のまちづくりプロジェクト	あいれふ
「高齢者よ！肉を食べよう」 ～パッククッキングでスペアリブを～	2018年1月14日	福岡食支援の会	南区鶴田公民館
「要介護者等への口腔管理研修会」	2018年1月19日	福岡県歯科医師会	大牟田文化会館
「チーム医療について」 グループデイスカッションファシリテーター	2018年3月11日	福岡ＣＤＥＪ連絡会	電気ビル

他団体等への協力		
協力内容	協力期間	協力先
福岡県栄養士会（理事～福岡支部長として企画・運営） 福岡市民の健康を歯と口から守る集い CDEJ（日本糖尿病療養指導士）連絡会（講演など） 福岡 LCDE（糖尿病療養指導士）…中央認定委員、試験官など ふくおか市民糖尿病教室 福岡在宅食支援の会（講演１回） 在宅ケアネットワーク福岡中央勉強会（世話人） 日本在宅栄養管理学会（福岡支部長） 糸島市地域ケア会議 福岡摂食嚥下カンファレンス（世話人、研修会年２回） 就学支援の料理教室	通年 4 月～6 月 4 日 通年 通年 6 月～11 月 5 日 通年 通年 通年 通年 通年 年２回	福岡県栄養士会 福岡市歯科医師会 CDEJ 連絡協議会 福岡 LCDE 福岡市医師会 福岡在宅食支援の会 在宅ケアネットワーク福岡中央 日本在宅栄養管理学会 糸島市 福岡摂食嚥下カンファレンス キャリアリード「私と僕の夢」

他大学への非常勤等		
科目名	期間	出向先
なし		

その他特記事項	
内容	年　月　日
なし	

平成 30 年度　社会的活動計画

栄養士会理事としての活動に伴って、多くの社会的活動の要請も多々あると思う。とりわけ高齢者栄養に関してはライフワークとしているところもあり、意欲的に取り組みたいと思っている。

また、糖尿病療養指導士の立場としてはリーダーシップを発揮して、啓蒙・予防活動を推進していきたいと思う。

学会関連でも研鑽を積みつつ、研究の分野でも実績を残したいと思っている。

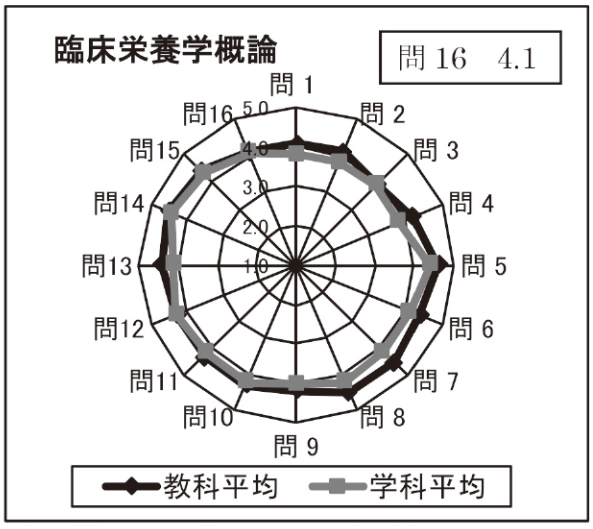
具体的計画としては、例年恒例の歯のイベントや糖尿病教室については、本年度も実施の先頭に立って貢献するつもりである。

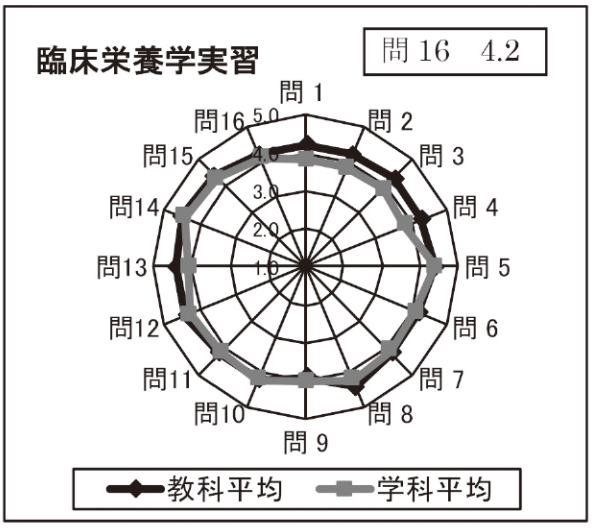
平成２９年度　学生による授業評価アンケート結果

＜質問項目＞

問 1　私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
問 2　私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
問 3　私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
問 4　私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
問 5　授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
問 6　先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
問 7　毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
問 8　先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
問 9　先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
問 10　教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
問 11　この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
問 12　先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
問 13　先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
問 14　先生は、熱意を持って授業を行っていた
問 15　先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
問 16　この授業を総合的に評価すると５点満点で何点になりますか

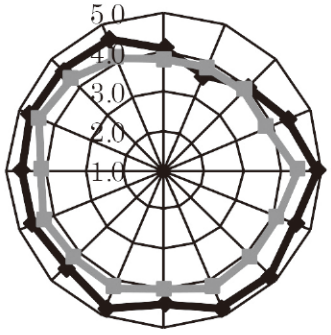
５．そう思う
４．どちらかといえばそう思う
３．どちらともいえない
２．どちらかといえばそう思わない
１．そうは思わない





給食計画論

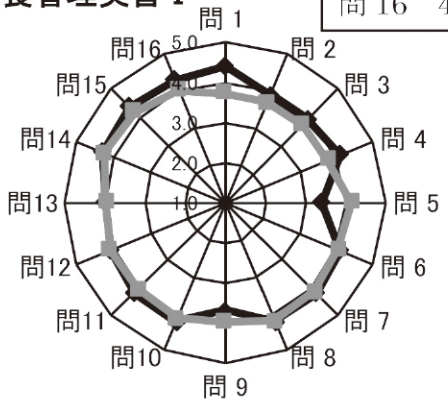
問 16　4.6



教科平均　学科平均

給食管理実習Ⅰ

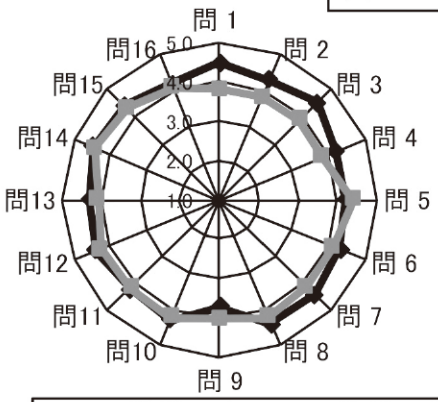
問 16　4.3



教科平均　学科平均

給食管理実習Ⅱ

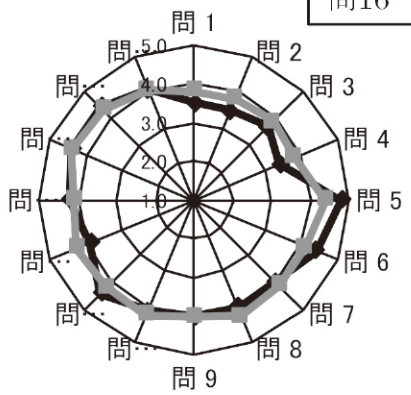
問 16　4.2



教科平均　学科平均

栄養士基礎演習

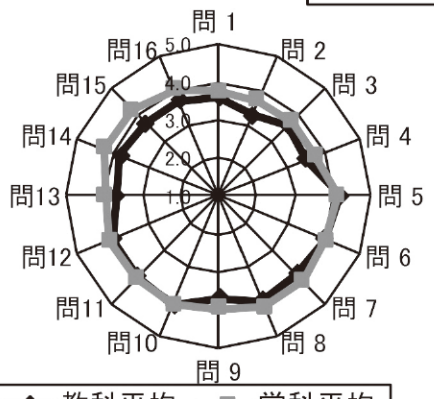
問16　4.1



教科平均　学科平均

栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ

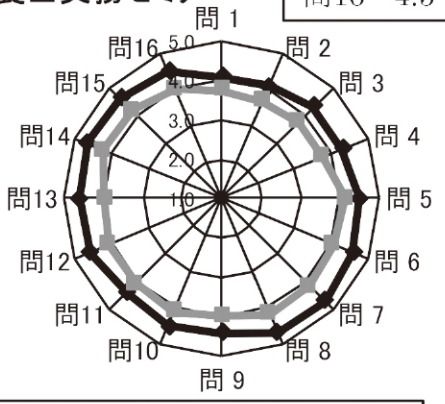
問16　3.7



教科平均　学科平均

栄養士実務セミナー

問16　4.5



教科平均　学科平均

	問17　あなたはこの授業のために一週間当たり何分学習しましたか。				
科目名	0分	1～30分	31～60分	61～90分	91分以上
臨床栄養学概論(フ2)	5	3	6	5	0
臨床栄養学実習(フ2)	8	5	0	1	2
給食計画論(フ1)	7	8	1	0	0
給食管理実習Ⅰ(フ1)	2	15	0	0	0
給食管理実習Ⅱ(フ2)	5	5	8	0	0
栄養士基礎演習(フ1)	3	8	1	1	0
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ(フ2)	6	3	5	1	1
栄養士実務セミナー(フ2)	5	1	2	1	0

	問18　あなたは授業時間以外にどのような学習(技術・技能の習得も含みます)を行いましたか。(複数回答)					
科目名	予習	復習	課題	試験	自発的	行っていない
臨床栄養学概論(フ2)	2	6	3	5	2	4
臨床栄養学実習(フ2)	0	6	5	1	1	6
給食計画論(フ1)	0	6	0	1	0	8
給食管理実習Ⅰ(フ1)	4	1	10	5	2	3
給食管理実習Ⅱ(フ2)	8	5	9	0	2	0
栄養士基礎演習(フ1)	1	1	11	1	0	3
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ(フ2)	0	3	4	4	0	3
栄養士実務セミナー(フ2)	0	2	1	0	1	4

科目名	対象	必修・選択	教員コメント
臨床栄養学概論	フードデザイン学科２年	卒業・栄養士必修	総合評価4.1（前年度比+0.１）と微増であった。殆どの項目が上がっており、下がった項目はなかった。その中でも問２は4.1（前年比+0.6）と上がり、昨年憂慮していた項目の改善がみられた。今後とも理解を深め学生が興味を持つように授業の工夫していきたい。
臨床栄養学実習	フードデザイン学科２年	卒業.栄養士必修	総合評価4.2（昨年度比+0.2）の結果だった。殆どの項目が上がっており、下がった項目はなかった。病院栄養士のみならず、栄養士としての実務に関わる教科なので、わからないところはそのままにせず積極的に質問してほしい。
給食計画論	フードデザイン学科１年	卒業・栄養士必修	総合評価4.6（前年度比＋0.7）と伸びていたが、問２質問の項目3.6（前年度比-0.3）と下っていて工夫を要すると思った。質問しやすく仕掛けをしたが、時間に追われて成果が出ていない。学生の学習意欲につながる項目なので再度挑戦したい。他の項目は殆ど上がっていた。

給食管理実習Ⅰ	フードデザイン学科１年	卒業・栄養士必修	総合評価 4.3（前年度比＋0.3）と少し上がっている。昨年実習の授業にも関わらず、問１居眠り、私語、メールの項目が 3.9 であったので、対策を講じた結果 4.4（昨年度比+0.5）と上がった。しかし、問５授業時間についての項目で 3.4（前年度比-0.7）と低い評価であり実習時はどうしても時間超過してしまうので、実習ではない時と調整をするなど学生に事前に説明をして納得してもらう必要を感じた。
給食管理実習Ⅱ	フードデザイン学科２年	卒業・栄養士必修	総合評価 4.2（前年度比+0.1）と微増であった。１年生の時の実習Ⅰと比べて、運営の仕方を工夫して学生の意欲を高めたい。
栄養士基礎演習	フードデザイン学科１年	卒業必修	総合評価 4.1（昨年度比+0.7）とかなり上がった。昨年、栄養士養成課程の導入科目として、全項目の評価が上がる授業改善に努めるとしたが成果が上がったと思う。わからない点、苦手な内容はそのままにせず、各担当教員に積極的に質問してほしい。
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ	フードデザイン学科２年	卒業選択	総合評価 3.7（昨年度比+0.6）とかなり上がった。栄養士養成課程の総復習科目（実力認定試験対策）として、学生自らも積極的な姿勢で臨んでほしい。
栄養士実務セミナー	フードデザイン学科２年	卒業選択	総合評価４．５であり、学生が新人栄養士として求められる基本的な技能を習得することを目的としている授業の性質上、喫緊の課題を取り上げ集中して受講し、卒業後の自信へ繋がればよいと思う。

所属学科	職名	氏名
幼児教育学科	教授	原　浩美

担当科目

科目名	対象	必修・選択
ピアノⅠ	幼児教育学科１年	卒業必修・免許選択必修
ピアノⅡ	幼児教育学科１年	卒業必修
ピアノ演奏法	幼児教育学科２年	卒業選択・資格選択必修
音楽保育	幼児教育学科２年	卒業選択・資格選択必修
幼児問題研究セミナー	幼児教育学科２年	卒業選択・資格選択必修
教育実習事前事後指導	幼児教育学科１年・２年	卒業選択・免許必修資格選択必修

研究分野

1. ピアノ音楽教育の分野
   こどもピアノコンクールの審査を通して、ピアノ演奏が音楽教育に果たす役割を考え、ピアノで表現するための演奏技術を子どもに指導し、どのような情緒が生じるのか研究する。
2. ピアノ演奏法の分野
   演奏活動を通して自己の表現・技術を深める研究。奏法の研究、作品のアナリーゼ、演奏準備（練習）という一連の流れを実践し、演奏の機会を設けて研究する。
3. 保育者養成における音楽表現の分野
   保育士および幼稚園教諭の養成において、ピアノが関わる表現分野を研究。保育指導や保育生活の中で必要とされるピアノ演奏を習得させるための有効な指導法や表現を研究する。

平成 29 年度　研究報告

平成 29 年度の研究の概要

1. ピアノ音楽教育に関する研究
　ピアノコンクールの審査員として、こどものピアノ演奏・表現技術を聴き取り、評価した。
2. ピアノ演奏法に関する研究
　久留米において 2 回、筑紫野市において 1 回、東京において 1 回の合計 4 回の演奏会に出演し、それぞれの演奏会の主旨、意図する内容に応じた演奏曲目を選曲し、その作品の意図する内容を充分に表現する手法を研究し演奏した。
3. 保育者養成に関する研究
　①全国大学音楽教育学会第 33 回岐阜大会において、共同研究者として発表した。

平成 29 年度の研究の成果

（口頭発表）

1. 全国大学音楽教育学会第 33 回岐阜大会
　学生のデジタル音への反応　共同　　平成 29 年 8 月 25 日
　　ホテルグランヴェール岐山

（演奏）

1.「久留米連合文化会総会オープニングセレモニー」　共同
　ファリャ作曲　「スペイン舞曲」　　平成 29 年 5 月 27 日
　　ホテルマリターレ創世

2.「午後のコンサート」　独奏
　田村　徹作曲「プレリュード」と「トッカータ」　　平成 29 年 6 月 3 日
　　石橋文化会館小ホール

3.「ファミリーコンサート」　創作音楽劇　　共同
　～冒険好きのペール、彼が繰り広げる未知の世界へ～　　平成 29 年 11 月 24 日
　　筑紫野市生涯学習センター

4.「岡村弘バリトンリサイタル」　独奏
　ショパン作曲「エチュード」　　平成 30 年 2 月 3 日
　シューマン＝リスト編曲「献呈」　　汐留ベヒシュタイン・サロン

（審査）

1. Kawai　Music　Competition
　カワイこどもピアノコンクール　　平成 29 年 12 月 23 日
　カワイピアノコンクール　　平成 29 年 12 月 24 日
　　石橋文化センター共同ホール

平成 28 年度及び 27 年度の研究の成果

平成 28 年度

（発表）

1.「音楽胎教の効果について」―保育園における発達測定の結果から―　　平成 28 年 5 月 7、8 日
　第 69 回日本保育学会　東京学芸大学小金井キャンパス

（演奏）

1. 久留米市民オーケストラ第 28 回定期演奏会　　平成 28 年 5 月 21 日
　久留米シティプラザ・グランドホール
2. 東日本大震災・熊本地震復興支援公演「緑の追想」　　平成 28 年 6 月 26 日

久留米シティプラザ・グランドホール
3. アルビレオ音楽展ＸＸⅧ　独奏　平成 28 年 6 月 28 日
東京すみだトリフォニーホール小ホール
4. ひびきの会定期演奏会　独奏　平成 28 年 9 月 11 日
えーるピア久留米視聴覚ホール
5. 教員研究会　平成 28 年 9 月 14 日
本学音楽室
6. 北筑後ブロック音楽祭　独奏　平成 28 年 10 月 30 日
久留米シティプラザ・久留米座
7. 久留米連合文化会洋楽部コンサート　独奏　平成 28 年 11 月 23 日
久留米シティプラザ・久留米座
（審査）
1. Kawai Music Competition　平成 28 年 12 月 23, 25 日
石橋文化センター共同ホール

平成 27 年度
（演奏）
1.「ムジカ耳納　もみじコンサート」　独奏　平成 27 年 11 月
音楽家集団「ムジカ耳納」
田村音楽スタジオ
2.「La Serata Musicale ～音楽の夕べ～」　独奏　平成 27 年 11 月
クララザール
（発表）
1.「子どもの歌の弾き歌いにおける調性の問題」　共同　平成 27 年 5 月
日本保育学会第 68 回大会　椙山女子大学（名古屋）
（審査）
１.「 2016 Kawai Music Competition こどもコンクール」　単独　平成 27 年 12 月
カワイ音楽コンクール委員会
石橋文化センター共同ホール
２.「 2016 Kawai Music Competition 音楽コンクール」　単独　平成 27 年 12 月
カワイ音楽コンクール委員会
文化センター共同ホール
（その他）
１．学生のピアノ演奏学習がより充実するように、授業時に活用できるサブテキストを非常勤講師と考案したものを２７年度から使用。
２．全国大学音楽教育学会　下関大会に参加。

本教員の主たる研究の成果（５編以内）

1．原浩美久留米市芸術奨励賞　特別賞受賞記念ピアノリサイタル　　単独
文化センター共同ホール　　平成５年２月24日

2．『芸術のコミュニケーションテクノロジー　創造理論とその展開』共著　　創元社
平成13年９月

3．「近・現代日本の「子どもの歌」における特徴的傾向」単著　　『国際幼児教育研究　第14号』
平成19年３月

4．「邦人作品のピアノ曲についての一考察」単著　　『九州公私立大学音楽学会音楽研究　創刊号』
平成23年10月

5．原浩美ピアノリサイタル～クラヴィーア　アーベントvol．4～　単独
原浩美ピアノリサイタル実行委員会　えーるピア久留米視聴覚ホール
平成25年９月７日

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
国際幼児教育学会	沖縄・九州支部会参加
九州公私立大学音楽学会	不参加
日本保育学会	参加
全国大学音楽教育学会	参加

平成30年度　研究計画

１．ピアノ音楽教育に関する研究
ピアノコンクールの審査を通して、こどもの演奏・表現技術を習得するための指導方法の研究を継続する。

２．ピアノ演奏法に関する研究
地域に根差した演奏活動を継続する。

３．保育者養成に関する研究
①共同研究を継続する。全国大学音楽教育学会等で、研究発表する。
②保育指導の中で必要とされるピアノ演奏技術を、ピアノ経験初心者に習得させるための有効な指導法の共同研究を継続する。
③音楽表現に関して本学職員と共同研究する。

平成 29 年度　教育活動報告

平成 29 年度のＦＤ宣言とその評価

ＦＤ宣言	自己評価
【目標】 学習意欲・技術の向上 【成果の指標】 学生による授業評価の問 3、問 4、問 16 の項目の評価を上げる。	前期ピアノⅠから後期ピアノⅡへの問 3，4，16 の評価が下がってしまった。特に問 16 の総合評価が厳しい結果であったのを受け、次年度に向けて反省し改善しなければならない。音楽保育とセミナーとピアノ演奏法は、技術と表現力拡大を掲げ学生はよく頑張り身についたと思う。評価はどれも 4.0 以上であった。

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
音楽保育	幼児教育学科 2 年生	平成 30 年 1 月 29 日（月） 4 校時

自己評価	他者評価
本科目は選択授業で興味のある学生が履修しているため、学生による授業評価の問 3、問 4、問 16 の項目は概ね 4.5、4.8、4.5 と評価は高い。さらに少人数であったので双方向のやりとりは行いやすかった。学生の意欲を充分に認め合い、発表の組み立ても自由にしたので、学習意欲を高められたのではないかと思う。また各々の技術も高められ、特に幼児音楽を苦手とする学生が、発表時に堂々と発表し演奏し終えたことは非常に喜ばしい事でした。	少人数であったので集中、関与、理解はあったと思われ少人数演習の良さを感じられる授業でした。教員による指導のもとに学生の主体的な活動があり、双方向の授業展開になっていたと思います。学生の発表は工夫をして PPT を使っていました。 **参加教員** 重永茂准教授、生地暢准教授、櫻井晋伍助教

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

「総合評価」が前年と比較して下がった科目は、「ピアノⅠ」「ピアノⅡ」であった。2 クラスずつの指導で 29 年度の学生が非常に低い評価であったので、学生のレベルを超えたところで指導しすぎたのではないかと反省している。改善策として、学生の現状をしっかり見極め、そこから向上するための方策が個人個人細やかに必要だという事を改めて意識し言動にも充分注意し指導に当たっていく事に努力する。「ピアノⅡ」も同じく、卒業必修で基礎技能を身につける科目であるので年間を通し努力する。学生が理解しているかを確認する、質問を推奨し考える時間を確保する、習熟度表の更なる活用で学生の理解度を計ることを改善策として次年度に生かし、常に工夫を試みる努力を重ねる。

平成 30 年度　教育活動計画

平成 30 年度のＦＤ宣言	平成 30 年度の教育力向上のための計画
【目標】 学習意欲を高める工夫 【成果の指標】 学生による授業評価の問 3、問 10、問 12 の項目の評価を上げること。	理解できているかを見極めるための習熟度表の活用をさらに進める。口調は「ゆっくりめで早口にならないよう」努力する。学生からの質問を推奨し、学生が理解して演奏できる力を付け、楽譜を読み解く時間をつくる。 保育現場の音楽活動を意識した演奏の様々な方法を知らせ、学びながら楽しめる工夫をする。

平成 29 年度　社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
久留米市文化芸術振興審議会委員	平成 29 年 4 月 ～平成 30 年 3 月	久留米市
久留米音楽協会 NPO 理事	平成 29 年 4 月 ～平成 30 年 3 月	特定非営利活動久留米音楽協会
カワイこどもコンクール審査・講評	平成 29 年 12 月	カワイ音楽コンクール委員会
久留米連合文化会理事	平成 29 年 4 月 ～平成 30 年 3 月	久留米連合文化会
高等教育コンソーシアム広報交流部会部員	平成 29 年 4 月 ～平成 30 年 3 月	高等教育コンソーシアム久留米

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
音楽Ⅰ・音楽Ⅱ・表現Ⅰ	平成 29 年 4 月 ～平成 30 年 3 月	近畿大学九州短期大学通信教育部
ピアノレッスン	平成 29 年 4 月 ～平成 30 年 3 月	共生館国際福祉医療カレッジ

その他特記事項

内容	年　月　日

平成 30 年度　社会的活動計画

1．他団体への協力
　①久留米市芸術振興審議会委員
　②久留米音楽協会 NPO 理事
　③カワイこども・音楽コンクール審査
　④久留米連合文化会理事
　⑤高等教育コンソーシアム広報交流部会員
　⑥久留米市都市計画審議会委員

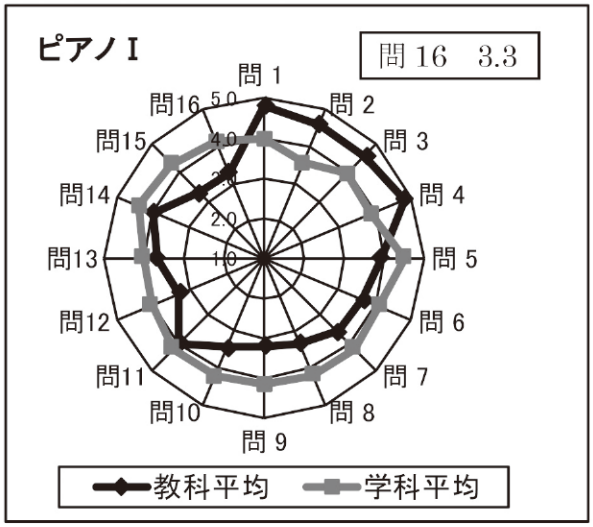
2．他大学への非常勤等
　①近畿大学九州短期大学通信教育部
　②共生館国際福祉医療カレッジ

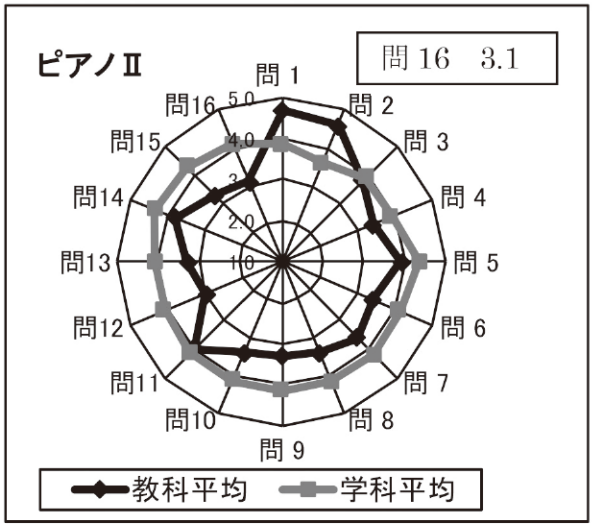
平成２９年度　学生による授業評価アンケート結果

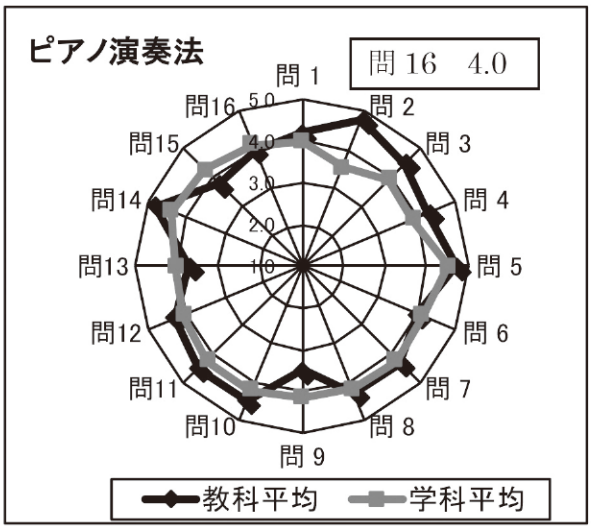
＜質問項目＞

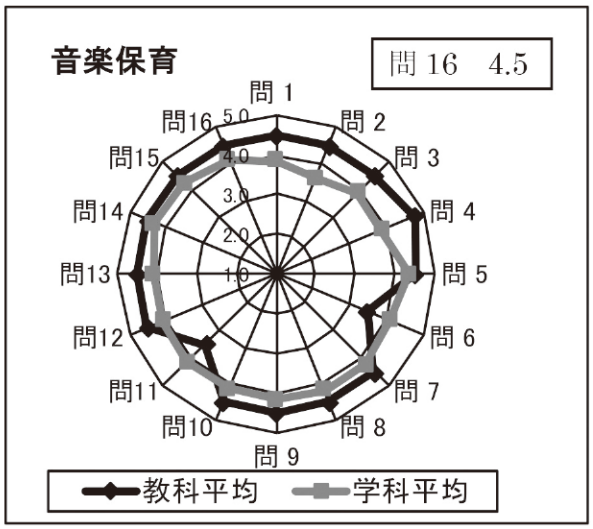
問 1　私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
問 2　私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
問 3　私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
問 4　私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
問 5　授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
問 6　先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
問 7　毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
問 8　先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
問 9　先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
問 10　教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
問 11　この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
問 12　先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
問 13　先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
問 14　先生は、熱意を持って授業を行っていた
問 15　先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
問 16　私は、この授業のために一週間あたり（　　）分、予習・復習した
問 17　この授業を総合的に評価すると５点満点で何点になりますか

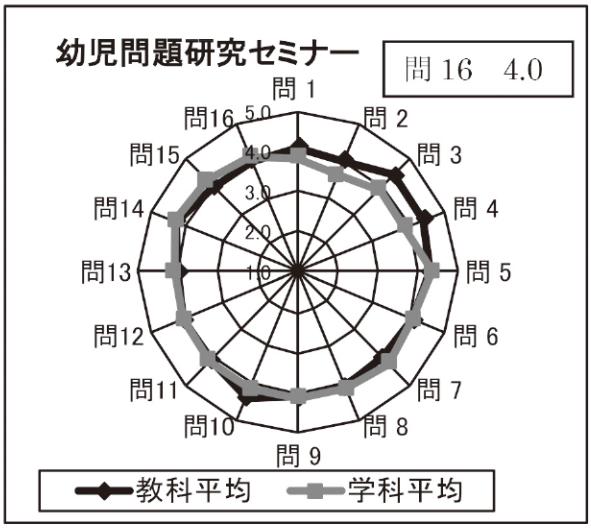
５．そう思う
４．どちらかといえばそう思う
３．どちらともいえない
２．どちらかといえばそう思わない
１．そうは思わない











	問17　あなたはこの授業のために一週間当たり何分学習しましたか。				
科目名	0 分	1～30 分	31～60 分	61～90 分	91 分以上
ピアノⅠ(幼 1)	0	1	3	0	2
ピアノⅡ(幼1)	0	0	2	4	2
ピアノ演奏法(幼 2)	0	0	4	1	1
音楽保育(幼2)	0	0	1	1	2
幼児問題研究セミナー(幼 2)	3	0	2	0	2

	問18　あなたは授業時間以外にどのような学習（技術・技能の習得も含みます）を行いましたか。（複数回答）					
科目名	予習	復習	課題	試験	自発的	行っていない
ピアノⅠ（幼 1）	5	4	1	4	1	0
ピアノⅡ（幼1）	5	6	2	4	1	0
ピアノ演奏法（幼 2）	3	3	2	3	2	0
音楽保育（幼2）	0	1	1	1	2	0
幼児問題研究セミナー（幼 2）	2	3	3	0	2	0

科目名	対象	必修・選択	教員コメント
ピアノⅠ	幼児教育学科１年	卒業必修	個々の学生に応じた指導を行う中で、ピアノを苦手とする学生への配慮や具体的練習方法を分かりやすく教示する。
ピアノⅡ	幼児教育学科１年	卒業必修	保育の音楽の重要性を理解させることに配慮し、ピノ演奏技術を個々に応じて向上させる。
ピアノ演奏法	幼児教育学科２年	卒業選択資格選択	保育現場で活かせる幼児の歌や子どもの活動に合わせた音楽を演奏する技術を、学生自身も楽しみを感じながら修得させる
音楽保育	幼児教育学科２年	資格選択必修	学生と十分に話し合い、どのような演奏技術をめざすか目標をしっかり定めた結果、授業に集中し学習意欲も途切れることなく充実していた。

所属学科	職名	氏名
フードデザイン	教授	山村　涼子

担当科目

科目名	対象	必修・選択
調理学	フードデザイン学科１年	卒業・栄養士必修
栄養士基礎演習（３回）	フードデザイン学科１年	卒業必修
献立デザイン演習	フードデザイン学科１年	卒業必修
基礎調理学実習Ⅰ	フードデザイン学科１年	卒業・栄養士必修
基礎調理学実習Ⅱ	フードデザイン学科１年	卒業・栄養士必修
フードプロジェクト	フードデザイン学科１年	卒業必修
製菓・製パン演習	フードデザイン学科１年	卒業選択
キャリアガイダンスⅠ	フードデザイン学科１年	卒業選択
応用調理学実習Ⅰ	フードデザイン学科２年	栄養士必修
応用調理学実習Ⅱ	フードデザイン学科２年	栄養士必修
給食実務論	フードデザイン学科２年	卒業・栄養士必修
校外給食管理実習Ⅰ	フードデザイン学科２年	栄養士必修
栄養士総合演習Ⅱ（２回）	フードデザイン学科２年	卒業選択
卒業セミナー	フードデザイン学科２年	卒業選択
栄養士実務セミナー（５回）	フードデザイン学科２年	卒業選択
キャリアガイダンスⅡ	フードデザイン学科２年	卒業選択

研究分野

１．調理学の分野
　学生に対して、食品素材の知識や取り扱い方、調理機能を生かした基本的な調理操作などを習得させるにあたり、師範や指導方法、また指標となるための資料作成などの研究を行っている。
２．食教育の分野
　管理栄養士という立場から、健康的な食生活、生活習慣病予防などを観点に、食教育についての研究を行っている。
３．栄養士養成の分野
　栄養士養成に関する研究。栄養士養成という立場から、カリキュラム論・方法論について研究を行っている。
４．キャリア教育の分野
　学生のキャリア形成、就業力育成に向け、キャリア教育系の科目について、より効果的な授業内容や方法等を研究している。

平成 29 年度　研究報告

平成 29 年度の研究の概要

１．調理学に関する研究

・調理学関連科目について、より効果的な授業内容や方法等の研究を行い、本学研究紀要第 40 号に発表した。

２．食教育に関する研究

・久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来にて、患者への食生活指導を継続して行った。

３．栄養士養成に関する研究

・「入学から卒業までのガイドブック八訂版」作成に向け、見直し等を学科の教員間で行い、内容・構成を検討した。

・新規開講演習科目について初年度の実施内容を見直し、次年度に向けて科目名・内容の検討を重ねた。

４．キャリア教育に関する研究

・学生のキャリア形成、就業力育成に向け、キャリア教育系科目について、より効果的な授業内容や方法等の研究を行った。

平成 29 年度の研究の成果

（論文）

１．「栄養士養成研究（５）生活実態が学習支援効果に及ぼす影響－２」共著　平成 29 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学紀要第 40 号』(25～34)

（研究ノート）

１．「調理学関連科目の習熟度について　第１報」共著　平成 29 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学紀要第 40 号』(95～101)

（その他）

１．「入学から卒業までのガイドブック八訂版」発行　共著　平成 29 年 4 月　フードデザイン学科

２．「キャリア形成支援ＢＯＯＫ　2017」発行　共著　平成 29 年 4 月　キャリア形成支援推進室

平成 28 年度及び 27 年度の研究の成果

（論文）

１．「栄養士養成研究（３）生活実態が学習支援効果に及ぼす影響」共著　平成 27 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学紀要 38 号』(25～33)

２．「栄養士養成研究（４）学習支援に対する効果の２年間の分析」共著　平成 28 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学紀要第 39 号』(21～25)

（研究ノート）

１．「久留米市の保育所・幼稚園・認定こども園における食育推進の実際　第１報」共著　平成 27 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学紀要第 38 号』(53～58)

２．「久留米市の保育所・幼稚園・認定こども園における食育推進の実際　第２報」共著　平成 28 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学紀要第 39 号』(51～56)

（報告）

１．「子育て支援講座における食育の取り組み」共著　平成 27 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学紀要第 38 号』(91～97)

（その他）

１．「入学から卒業までのガイドブック六訂版」発行　共著　平成 27 年 4 月　フードデザイン学科

２．「キャリア形成支援ＢＯＯＫ　2015」発行　共著　平成 27 年 4 月　キャリア形成支援推進室

３．「入学から卒業までのガイドブック七訂版」発行　共著　平成 28 年 4 月　フードデザイン学科

４．「キャリア形成支援ＢＯＯＫ　2016」発行　共著　平成 28 年 4 月　キャリア形成支援推進室

本教員の主たる研究の成果（５編以内）

（論文）

・「小児肥満における腹部ＣＴの有用性」共著『筑後小児科医会会報第　12号別冊』　平成10年10月

・「保護者の肥満認識と小児の生活背景」共著『小児保健研究第58巻第2号』　平成11年3月

・「子どもの肥満」共著　『久留米醫學會雑誌　第73巻 第5･6号 別冊』　平成22年6月

（発表）

・「小児生活習慣病外来における肥満改善は可能か」共同　第55回日本小児保健学会　於：札幌　平成20年9月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本栄養改善学会	大会等不参加
日本小児保健協会	大会等不参加
日本調理科学会	平成29年度全国大会参加（於：お茶の水女子大学） 平成29年度九州支部学会不参加

平成30年度　研究計画

１．調理学に関する研究

・調理学関連科目について、より効果的な授業内容や方法等の研究を行う。

２．食教育に関する研究

・久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来にて、患者への食生活指導を継続して行う。

・健康的な食生活、生活習慣病予防などを観点に、食教育についての研究を行う。

３．栄養士養成に関する研究

・「入学から卒業までのガイドブック」の見直し、および学生への学習支援についての検討を学科の教員間で行う。

・新規開講の演習科目について、学科の教員間でアクティブラーニングを導入した授業内容や方法等の研究を行う。

４．キャリア教育に関する研究

・学生のキャリア形成、就業力育成に向け、キャリア教育系科目について、より効果的な授業内容や方法等の研究を行う。

平成29年度　教育活動報告

平成29年度のＦＤ宣言とその評価

ＦＤ宣言	自己評価
【目標】 学生の学習意欲、理解度、技術の向上とともに双方向の授業を行う。 【成果の指標】 学生による授業評価の問2、問3、問4、問12の項目の評価を向上させる。	栄養士専門科目について、学生による授業評価の問2、問3、問4、問12の前年度との比較は、問2は3.9→4.0（＋0.1）問3は4.2→4.1（-0.1）、問4は4.2→4.2（±0.0）、問12は4.2→4.4（+0.2）であり、目標達成とまではいかなかった。学生の学習意欲を引き出し、理解度や技術の向上につながるような授業ができるよう努力したい。

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
給食実務論	フードデザイン学科2年	平成29年7月24日（月） 1校時

自己評価	他者評価
「校外給食管理実習Ⅰ」の事後指導として、学生の実習先10施設の実習報告会を2週に分けて行う授業の1週目で、1年生との合同授業とし、次年度も実習に行く予定の施設の実習報告を中心に報告会を行った。校外実習を終えて自己評価を行い、報告書を作成し、聞き手にわかりやすいような発表を質疑応答も交え、アクティブラーニング形式で行うことをねらいとした。クラスメイトの実習報告を受け、各施設による給食業務の違いや栄養士業務の実際について知り、実習で学んできた知識を共有することも目的としていたが、自分たちの発表で手一杯になっていたり、発表に当たっていない学生や終わった学生は、集中力が切れたような場面もあった。学生一人一人が授業に参加し、リーダー任せや受け身にならないような配慮が必要であると考える。	・教員の話すスピードや声の大きさ、ともに明瞭で聞き取りやすかった。 ・学生による報告はパワーポイントを使用し、わかりやすく良かった。 ・1年生から活発に質問が出て、2年生もうまく対応しており、「学生が能動的に授業に関わっている」ことを感じた。皆の前で発表したり、質問したりする場合、各人が程よく緊張し、授業への集中にもつながっているように思われた。 ・学生の発表に際して、報告書を読み上げるパターンになっていたので、発表の練習をしておくと、もっと良かったと思う。
	参加教員
	江越和夫教授　山下浩子教授 眞部真紀子准教授　生地暢准教授

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

栄養士専門科目の授業評価の問2、問3、問4、問12の平均値は前年度と大差なく、学生の学習意欲、理解度、技術の向上については目標達成とまではいかなかった。前年度と同様に課題や提出物の設定を行い、学生の自主学習の機会を与えたつもりであったが、結果につながらなかったと考えられる。

総合評価の平均値について前年度と比較すると4.0→4.4（+0.4）であった。特に前年度低かった「給食実務論」は3.7→4.1（+0.4）に上昇しており、この科目に関しては問2が3.2→4.2（＋1.0）、問4が3.3→3.9（+0.6）となり、前年度の反省が生かされた結果となった。改めて学生の学習意欲を引き出し、理解度や技術の向上につながるような授業内容をさらに検討していく必要があると考える。

平成30年度　教育活動計画

平成30年度のＦＤ宣言	平成30年度の教育力向上のための計画
【目標】 学生の学習意欲、理解度、技術の向上 【成果の指標】 学生による授業評価の問2、問3、問4の項目の評価を向上させる。	小テスト・実技テストの実施、課題や提出物を設定して自主学習の機会を与え、誠意を持って評価する。学生が能動的に授業に参加できるような授業内容を検討する。

平成29年度　社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
乳幼児食の基本	29・8・24	筑後地方保育協会	久留米職業訓練センター
食を通して子育てを考える～家族みんなの食育～	29・11・17	久留米市生きがい健康づくり財団	えーるピア久留米
楽しく食べる子どもに～新保育所保育指針をふまえた保育所等における食育のとりくみ～	30・3・12	糸島保健福祉事務所	糸島総合庁舎

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
小児生活習慣病外来にて栄養指導（週1回）	29・4・1～30・3・31	久大医療ｾﾝﾀｰ小児科
ＪＡくるめ広報誌「With　You」　レシピ掲載	29・4月号～30・3月号	ＪＡくるめ
西日本新聞くるメディア　レシピ掲載	29・4月号～30・3月号	西日本新聞社
生活協同組合ｸﾞﾘｰﾝｺｰﾌﾟ連合　レシピ掲載	29・4月号～30・3月号	生活協同組合ｸﾞﾘｰﾝｺｰﾌﾟ連合
久留米市食育推進委員会　地産地消部会員	29・4・1～30・3・31	久留米市
久留米市中央卸売市場　青果取引委員会委員	29・4・1～30・3・31	久留米市
高等教育コンソーシアム久留米小中高連携部会委員	29・4・1～30・3・31	高等教育コンソーシアム久留米

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
「健康教育実習」	29・5～29・6（前期6回）	久留米大学

その他特記事項

内容	年　月　日
なし	

平成30年度　社会的活動計画

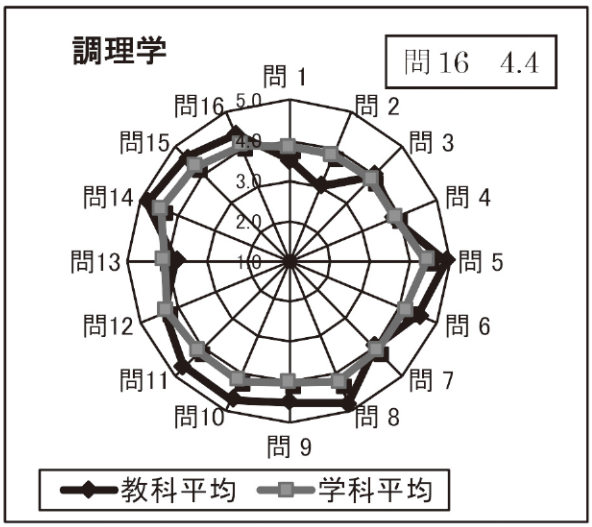
○講演等
・筑後地方保育協会からの依頼によるもの２日
○他団体等への協力
・久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来・栄養指導（30・4～31・3　毎週金曜日午後）
・久留米市中央卸売市場取引委員会　青果取引委員会委員（30・4・1～30・11・30）
・高等教育コンソーシアム久留米小中高連携部会委員（30・4～31・3）
・ＪＡくるめ広報誌「With　You」、西日本新聞くるメディア、生活協同組合グリーンコープ連合 商品カタログへのレシピ掲載（30・4月号～31・3月号）
○他大学への非常勤
・久留米大学「健康教育実習」（30・5～30・6　前期6回）

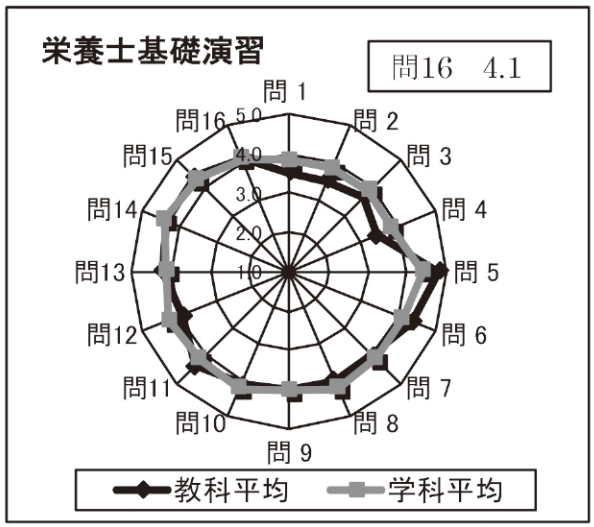
平成 29 年度　学生による授業評価アンケート結果

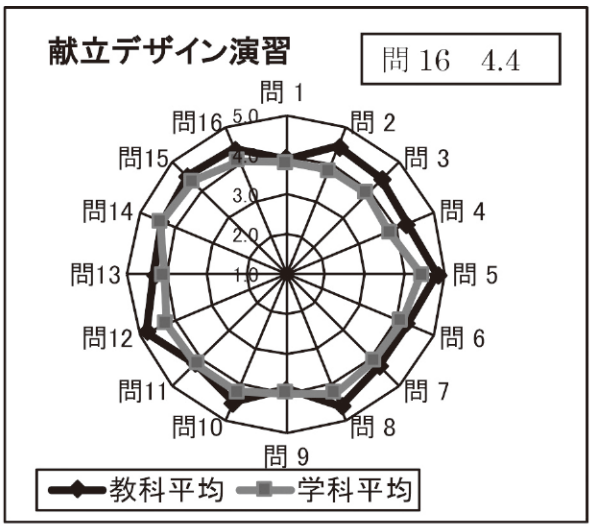
＜質問項目＞

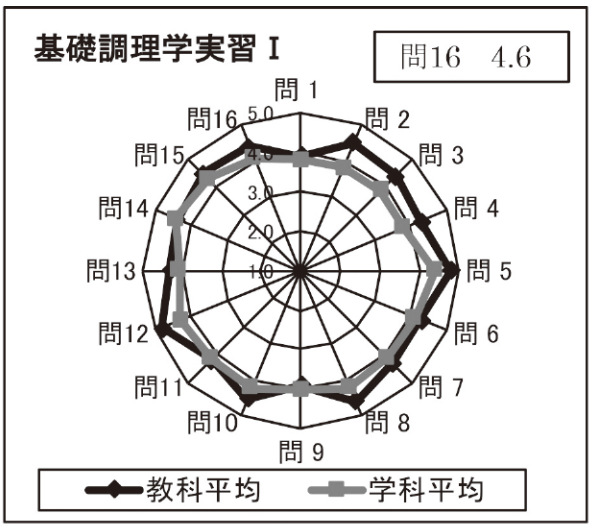
問 1　私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
問 2　私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
問 3　私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
問 4　私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
問 5　授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
問 6　先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
問 7　毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
問 8　先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
問 9　先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
問 10　教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
問 11　この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
問 12　先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
問 13　先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
問 14　先生は、熱意を持って授業を行っていた
問 15　先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
問 16　この授業を総合的に評価すると５点満点で何点になりますか

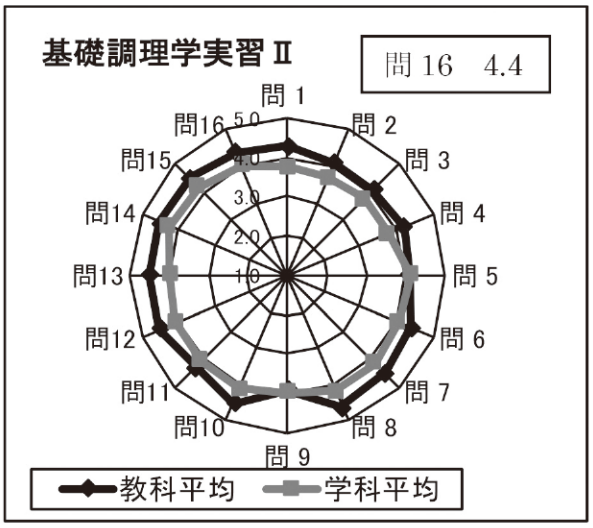
５．そう思う
４．どちらかといえばそう思う
３．どちらともいえない
２．どちらかといえばそう思わない
１．そうは思わない

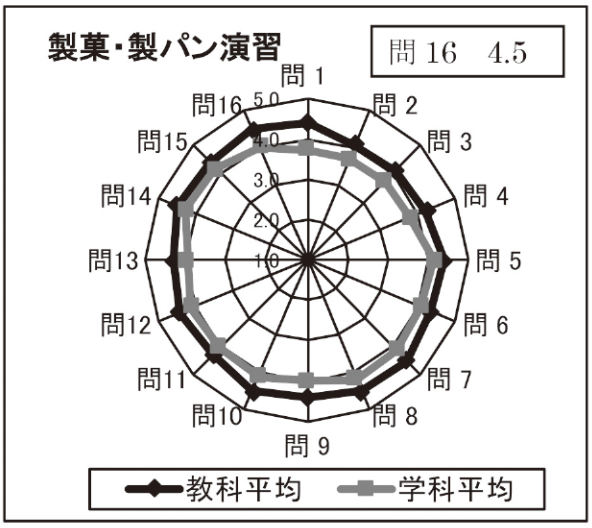


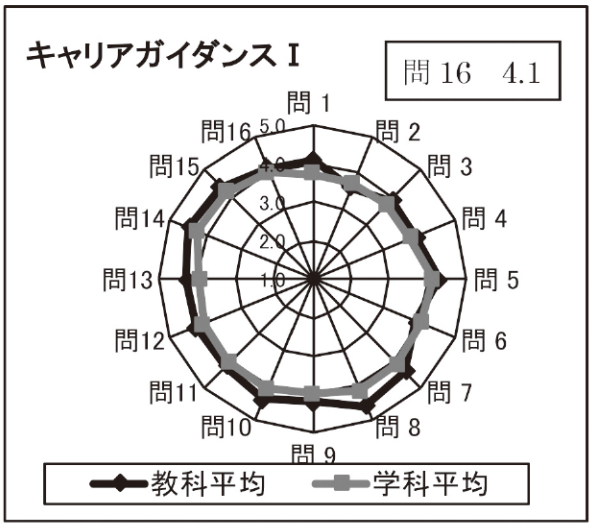


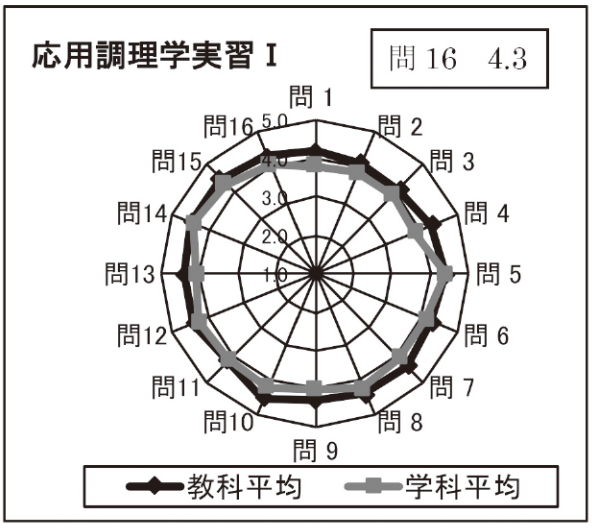

献立デザイン演習
問 16　4.4
問 1
問 2
問 3
問 4
問 5
問 6
問 7
問 8
問 9
問10
問11
問12
問13
問14
問15
問16
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
教科平均
学科平均


基礎調理学実習Ⅰ
問16　4.6
問 1
問 2
問 3
問 4
問 5
問 6
問 7
問 8
問 9
問10
問11
問12
問13
問14
問15
問16
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
教科平均
学科平均


基礎調理学実習Ⅱ
問 16　4.4
問 1
問 2
問 3
問 4
問 5
問 6
問 7
問 8
問 9
問10
問11
問12
問13
問14
問15
問16
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
教科平均
学科平均

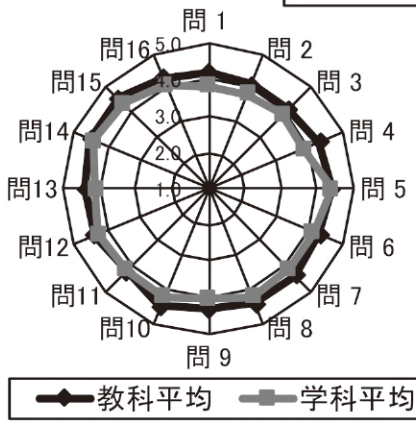

製菓･製パン演習
問 16　4.5
問 1
問 2
問 3
問 4
問 5
問 6
問 7
問 8
問 9
問10
問11
問12
問13
問14
問15
問16
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
教科平均
学科平均


キャリアガイダンスⅠ
問 16　4.1
問 1
問 2
問 3
問 4
問 5
問 6
問 7
問 8
問 9
問10
問11
問12
問13
問14
問15
問16
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
教科平均
学科平均


応用調理学実習Ⅰ
問 16　4.3
問 1
問 2
問 3
問 4
問 5
問 6
問 7
問 8
問 9
問10
問11
問12
問13
問14
問15
問16
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
教科平均
学科平均

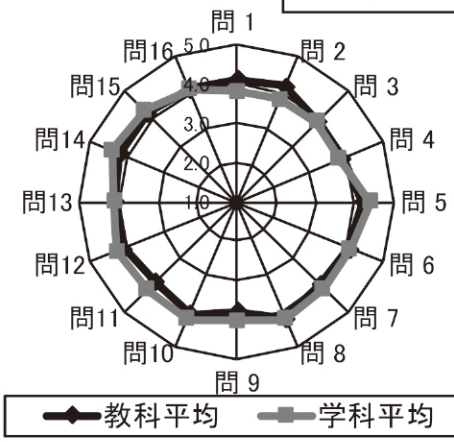
応用調理学実習Ⅱ

問16　4.1



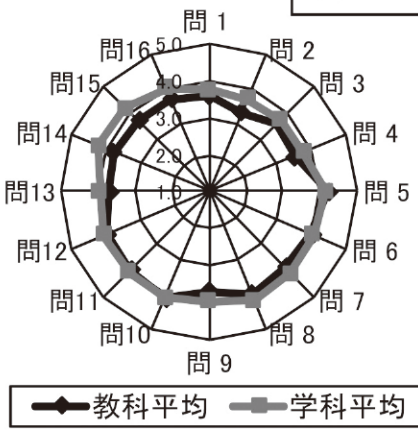
給食実務論

問 16　4.1



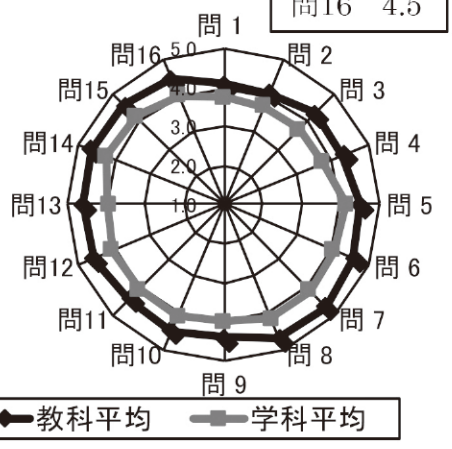
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ

問 16　3.7



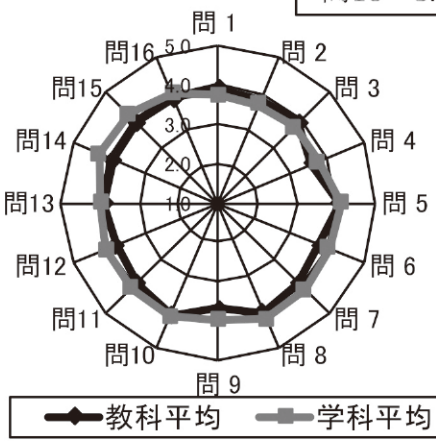
栄養士実務セミナー

問16　4.5



キャリアガイダンスⅡ

問16　3.9



	問17　あなたはこの授業のために一週間当たり何分学習しましたか。				
科目名	0分	1～30分	31～60分	61～90分	91分以上
調理学(フ1)	4	8	5	0	0
栄養士基礎演習(フ1)	3	8	1	1	0
献立デザイン演習(フ1)	0	2	3	7	5
基礎調理学実習Ⅰ(フ1)	0	1	4	9	3
基礎調理学実習Ⅱ(フ1)	2	3	7	5	1
製菓・製パン演習(フ1)	9	5	3	0	0
キャリアガイダンスⅠ(フ1)	8	3	2	1	1
応用調理学実習Ⅰ(フ2)	3	4	7	1	2
応用調理学実習Ⅱ(フ2)	7	2	3	3	2
給食実務論(フ2)	11	5	0	0	0
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ(フ2)	6	3	5	1	1
栄養士実務セミナー(フ2)	5	1	2	1	0
キャリアガイダンスⅡ(フ2)	8	5	1	1	0

	問18　あなたは授業時間以外にどのような学習(技術・技能の習得も含みます)を行いましたか。(複数回答)					
科目名	予習	復習	課題	試験	自発的	行っていない
調理学(フ1)	0	5	5	13	0	1
栄養士基礎演習(フ1)	1	1	11	1	0	3
献立デザイン演習(フ1)	0	1	13	0	0	1
基礎調理学実習Ⅰ(フ1)	1	1	15	4	1	1
基礎調理学実習Ⅱ(フ1)	1	0	16	6	0	0
製菓・製パン演習(フ1)	1	1	9	1	0	5
キャリアガイダンスⅠ(フ1)	0	2	8	1	1	5
応用調理学実習Ⅰ(フ2)	1	6	11	1	2	1
応用調理学実習Ⅱ(フ2)	1	6	8	5	2	6
給食実務論(フ2)	0	0	1	4	1	9
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ(フ2)	0	3	4	4	0	3
栄養士実務セミナー(フ2)	0	2	1	0	1	4
キャリアガイダンスⅡ(フ2)	1	1	6	0	1	5

科目名	対象	必修・選択	教員コメント
調理学	フードデザイン学科 １年	卒業・栄養士必修	「わかりやすかった」という感想もあれば、「進行が早く、ついていけない」との意見もあり、授業方法の見直しを図りたい。また「わかりやすいテキストはないのか」との意見より、テキストの変更も検討したが、ひとまず参考資料を準備することで対処したいと考える。
栄養士基礎演習（３回）	フードデザイン学科 １年	卒業必修	授業評価の問 1・2（3.5）、問 4（3.4）の結果を受け、学習意欲を引き出せるような工夫を検討したい。
献立デザイン演習	フードデザイン学科 １年	卒業必修	「毎週課題に追われて大変だったけど、楽しくて役に立った」との意見や、「事前の説明がなく、役に立たなかった」との意見もあった。説明不足で不明な点があれば、早めに質問してほしかった。
基礎調理学実習Ⅰ	フードデザイン学科 １年	卒業・栄養士必修	「栄養価計算レポートの正解を見せてほしい」との意見があったが、一人一人添削をし、間違った箇所にはチェックを入れているので、不明な点があれば直接質問に来てほしい。
基礎調理学実習Ⅱ	フードデザイン学科 １年	卒業・栄養士必修	授業評価の問 2・3（4.1）の結果を受け、実習内容の見直しを図りたい。学生も自主的な学びや技術の向上に努めてほしい。
製菓・製パン演習	フードデザイン学科 １年	卒業選択	授業評価の問 2・3（4.1）の結果を受け、実習内容の見直しを図りたい。学生も自主的な学びや技術の向上に努めてほしい。
キャリアガイダンスⅠ	フードデザイン学科 １年	卒業選択	授業評価の問 2（3.6）の結果を受け、授業内容や方法を見直し、学習意欲を引き出せるような工夫を検討したい。
応用調理学実習Ⅰ	フードデザイン学科 ２年	栄養士必修	授業評価の問 2・3（4.1）の結果を受け、実習内容の見直しを図りたい。学生も自主的な学びや技術の向上に努めてほしい。
応用調理学実習Ⅱ	フードデザイン学科 ２年	栄養士必修	2 年次後期の授業ということで、行事食や外部講師による実習など、多種多様な内容を行ったので勉強になったとの意見もあり良かった。今後の授業の参考にしていきたい。
給食実務論	フードデザイン学科 ２年	卒業・栄養士必修	授業評価問 3・4（3.9）の結果を受け、授業内容や方法の見直しを検討したい。学生も授業で学んだことが校外実習で生かせるよう、目的意識をもって取り組んでほしい。

栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ（２回）	フードデザイン学科２年	卒業選択	授業評価の問２（3.3）の結果を受け、栄養士必修科目の総まとめという意図を理解してもらうとともに、学習意欲を向上させるような工夫を検討したい。
栄養士実務セミナー（５回）	フードデザイン学科２年	卒業選択	前年度より受講生も増え、就職を前に栄養士実務関連科目の復習を中心に行った。次年度は別科目での対応になるので、今回の結果を参考に授業内容を担当者間で検討したい。
キャリアガイダンスⅡ	フードデザイン学科２年	卒業選択	「面接の練習を就活前の早い時期から何回も出来たら良かった」との意見を受け、次年度は時期を早めた。就職部主催の講座にも積極的に参加してほしい。

所属学科	職名	氏名
幼児教育	准教授	重永　茂

担当科目

科目名	対象	必修・選択
社会的養護内容	幼児教育学科２年	保育士必修
社会的養護	幼児教育学科１年	保育士必修
社会福祉論	幼児教育学科１年	保育士必修
相談援助	幼児教育学科２年	保育士必修
社会福祉概論	フードデザイン学科２年	栄養士必修
幼児問題研究セミナー	幼児教育学科２年	卒業選択

研究分野

・児童問題への福祉的アプローチ
・障がい児をめぐる動向
・ボランティア活動実践の意義
・公的扶助の動向

平成 29 年度　研究報告

平成 29 年度の研究の概要

施設実習に関する学生の意識の変化をもとにした実践課題の考察

平成 29 年度の研究の成果

なし

平成 28 年度及び 27 年度の研究の成果

なし

本教員の主たる研究の成果（５編以内）

1.「幼児教育学科学生のボランティア活動に対する意識と課題」共著　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 34 号』（85－96）平成 23 年 9 月
2.「東日本大震災の幼児教育学科学生のボランティア活動に対する意識の変化」共著　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 35 号』（67－81）平成 24 年 7 月
3.「施設実習に関する本学幼児教育学科学生の意識調査」共著『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 36 号』（55－56）平成 25 年 7 月
4.「施設実習の前後での本学幼児教育学科学生の意識調査」共著『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 37号』（69－76）　平成26年7月
5.「本学社会人学生とその支援制度に対するアンケート調査」共著　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 38 号』（69－78）平成27年7月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本地域福祉学会	不参加

平成 30 年度　研究計画

・ボランティア活動の社会的意義
・公的扶助の在り方をめぐる動向
・施設実習を通した意識の変化及び背景

平成 29 年度　教育活動報告

平成 29 年度のＦＤ宣言とその評価

ＦＤ宣言	自己評価
・双方向授業への工夫 ・理解状況の確認の徹底	・科目間により上下はあるが「質問」に低下傾向がみられた。質問しやすい雰囲気への配慮等、工夫した取り組みの必要性を感じた。 ・「理解」は全科目にわたり、改善を要する項目と感じている。理解度確認の為のレポート提出等の工夫により、個々の学生、学生共通の理解不足と思える点を中心に補足・再説明等を実施していく。 ・授業開始・終了時の質問タイム、理解度確認は不十分であった。必要に応じた再説明は実践できた。

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
社会福祉概論	フードデザイン学科２年	平成 29 年１１月６日（月） １校時

自己評価	他者評価
日本国憲法 25 条の理念に基づき、「生活保護法」の原理・原則の理解に向け、考える時間を共有出来たと思われる。	生活保護制度の概要について、よく理解できた。
	参加教員
	Sr. 阿久根政子教授、原浩美教授

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

学生にとってタイムリー、又身近なテーマ等についての関心に基づく理解は得られたと思われる。しかしながら、当該授業内容との関連の説明が十分でなく、その点の工夫・改善の必要性を感じた。

平成 30 年度　教育活動計画

平成 30 年度のＦＤ宣言	平成 30 年度の教育力向上のための計画
【目標】 ・双方向授業への工夫 ・理解状況の確認の徹底 【成果の指標】 問 2「私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした。」と問 3「私は、授業内容を理解することができた。」の項目の評価を上げる。	前週の要点を説明と共にふり返り、当該週との関連のもと確かな把握、深い理解へ結びつける。

平成 29 年度　社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
共同講義「久留米市の未来を考える～地方創生の視点から～」 「久留米市における子どもの福祉環境」	2017 年 11 月 4 日（土）	高等教育コンソーシアム久留米	くるめりあ六ツ門 6F みんくる会議室

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
なし		

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
児童福祉論 社会福祉援助技術論Ⅳ	４月１日～９月３０日 １０月１日～３月３１日	熊本大学 熊本大学

その他特記事項

内容	年　月　日
なし	

平成 30 年度　社会的活動計画

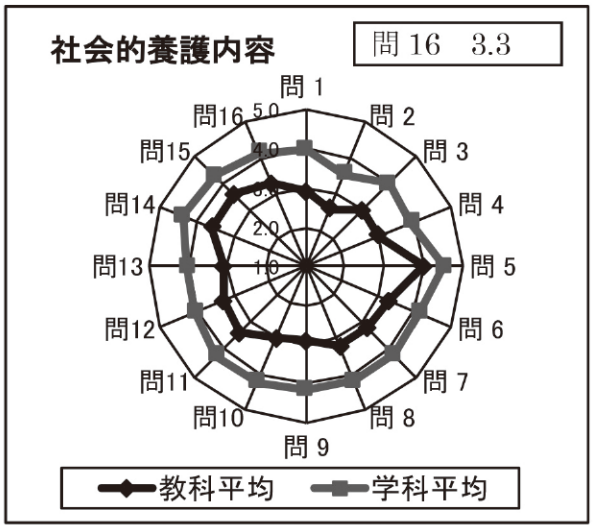
なし

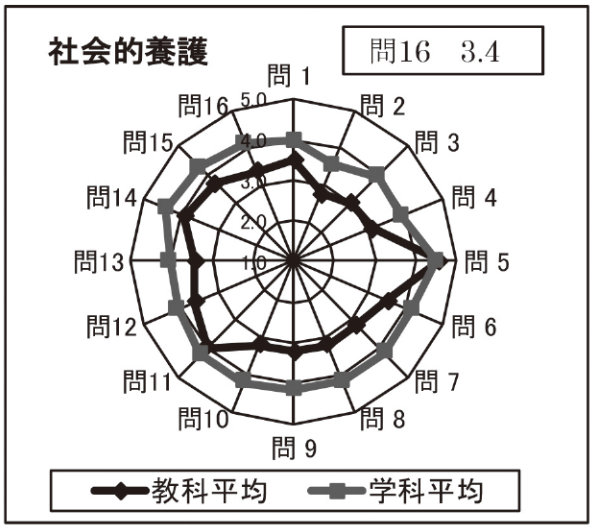
平成２９年度　学生による授業評価アンケート結果

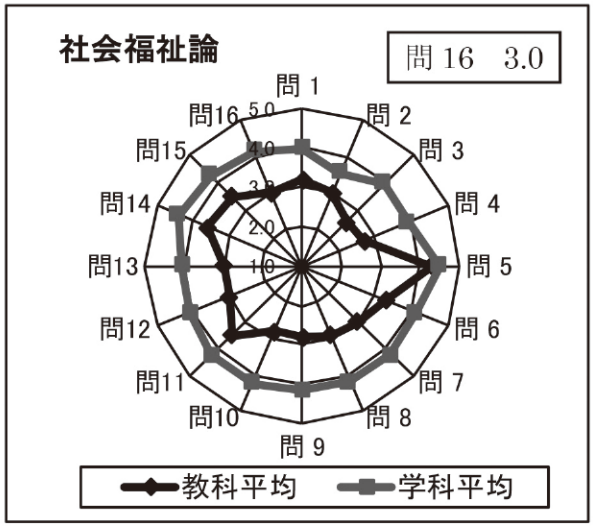
＜質問項目＞

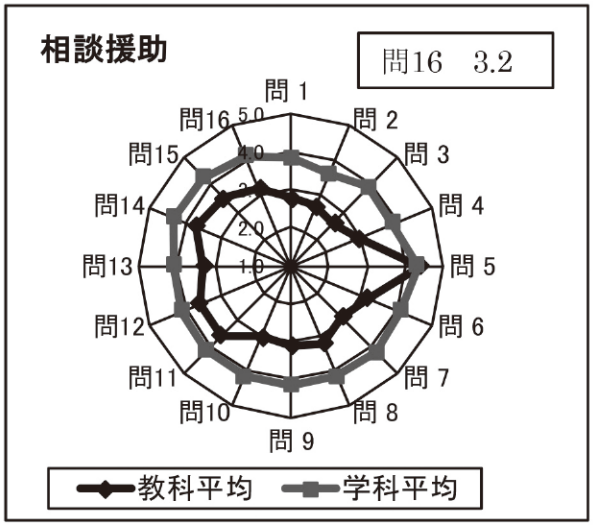
問 1　私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
問 2　私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
問 3　私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
問 4　私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
問 5　授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
問 6　先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
問 7　毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
問 8　先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
問 9　先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
問 10　教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
問 11　この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
問 12　先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
問 13　先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
問 14　先生は、熱意を持って授業を行っていた
問 15　先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
問 16　この授業を総合的に評価すると５点満点で何点になりますか

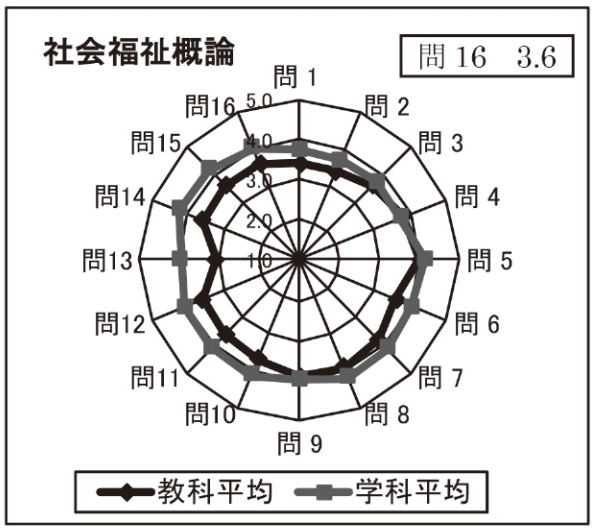
５．そう思う
４．どちらかといえばそう思う
３．どちらともいえない
２．どちらかといえばそう思わない
１．そうは思わない











	問17　あなたはこの授業のために一週間当たり何分学習しましたか。				
科目名	0 分	1～30 分	31～60 分	61～90 分	91 分以上
社会的養護内容（幼2）	35	4	1	0	0
社会的養護（幼1）	40	9	7	3	1
社会福祉論（幼1）	46	9	4	2	0
相談援助（幼2）	36	3	1	1	0
社会福祉概論（フ2）	8	6	2	1	0

	問18　あなたは授業時間以外にどのような学習（技術・技能の習得も含みます）を行いましたか。（複数回答）					
科目名	予習	復習	課題	試験	自発的	行っていない
社会的養護内容（幼2）	1	0	1	7	1	25
社会的養護（幼1）	1	3	2	26	0	27
社会福祉論（幼1）	2	8	2	15	2	36
相談援助（幼2）	1	1	1	16	0	16
社会福祉概論（フ2）	0	3	2	6	0	4

科目名	対象	必修・選択	教員コメント
社会的養護内容	幼児教育学科２年	資格必修	質問項目の改善として、質問紙記入時間を設けたが、効果的とはいかず、グループによる質問提出といった方法等を試みたい。
社会的養護	幼児教育学科１年	資格必修	質問に関する平均値の改善として、質問時間、グループによる話し合い等の導入により、確かな理解の機会としたい。
社会福祉論	幼児教育学科１年	資格必修	日常生活の身近で自身も関連する課題の意識化に向け、質問、話し合いの設定により、確実な理解をすすめていきたい。
相談援助	幼児教育学科２年	資格必修	他の質問項目に比して、質問に関する数値が低いことから質問紙等の方法、工夫により確実な理解へつなげていきたい。
社会福祉概論	フードデザイン学科２年	免許資格必修	質問に関する平均値の改善として、質問紙記入を通して、振り返りつつ確認を行い、確実な理解への機会としていきたい。

所属学科	職名	氏名
フードデザイン学科	准教授	眞部　真紀子

担当科目

科目名	対象	必修・選択
栄養士情報処理演習	フードデザイン学科１年	卒業選択・資格必修
フードプロジェクト	フードデザイン学科 １年・２年	卒業必修
フードインターンシップ	フードデザイン学科２年	卒業選択
医療事務総論	フードデザイン学科１年	卒業選択・資格必修
情報処理演習	フードデザイン学科１年	卒業選択・資格必修
医療秘書実務実習	フードデザイン学科２年	卒業選択・資格必修
情報科学	幼児教育学科１年	卒業選択・資格必修

研究分野

１．食と感性について
　料理は彩りや盛り付け、器などの見た目の美しさも大事である。また嗅覚や視覚に左右される味の印象や味わいも変化する影響について研究する。
２．学生の成長の可視化について
　学生の成長を把握する手法について、研究する。
３．栄養士養成分野について
　栄養士養成に関する研究。

平成 29 年度　研究報告

平成 29 年度の研究の概要

１．食と感性について
　嗅覚や視覚に左右される味の印象について、先行研究や資料を収集する。
２．学生の成長の可視化について
　学生の成長を評価できるような手法を検討する。

平成 29 年度の研究の成果

１．食と感性について
　成果なし
２．学生の成長の可視化について
　学生の成長の可視化を目的に「フードプロジェクト」のルーブリックを作成し、調査した。
３．栄養士養成分野について
　『入学から卒業までのガイドブック』（九訂版）に向けて、内容の検討を行った。

平成 28 年度及び 27 年度の研究の成果

（その他）
『入学から卒業までのガイドブック』（八訂版）共著　平成 29 年 4 月　フードデザイン学科

本教員の主たる研究の成果（５編以内）

１．『社会人に必要な Office2007 の基礎 Word2007, Excel2007, PowerPoint2007 編』共著　開成出版　平成 21 年 4 月
２．「A Study of Prosodic Features of Emotional Speech Based on the Auditory Impressions」『近畿大学生物理工学部紀要第 23 号』　平成 21 年 3 月
３．「Accent-Type-Dependency of Agreement Rates of Emotions in Japanese Word Speech」『International Journal of Affective Engineering V01.12 No.2 pp.185-190』　平成 25 年 6 月
４．「種々の度合の感情音声における発話者の意図と聞き手の受容の一致率と韻律的特徴との関係」『日本感性工学会論文誌第 13 号 2 号』平成 26 年 7 月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本感性工学会	第 19 回日本感性工学会大会参加（筑波大学）
日本音響学会	参加実績なし
日本家政学会	参加実績なし
福岡県栄養改善学会	参加

平成 30 年度　研究計画

１．食と感性について

２．学生の成長の可視化について
　学生自身が自分の成長を認識することができるように、科目のルーブリックを作成する。まずは、評価が測定しやすい技術的な科目で導入する。
３．栄養士養成分野について
　『入学から卒業までのガイドブック』の見直しおよび信愛栄養士の育成に向けて学科で検討する。

平成 29 年度　教育活動報告

平成 29 年度のＦＤ宣言とその評価

ＦＤ宣言	自己評価
・毎回の授業のねらいを明確にする。 指標]授業評価問 7 を 4.2 とする。 ・成績評価を明確に伝える。 指標]授業評価問 11 を 4.2 とする。 ・内容の理解度を把握する。 指標]授業評価問 15 を 4.2 とする。	・1 科目が 4.0 で目標に達しなかったが、それ以外は目標達成できた。平均して 4.3 であった。 ・1 科目が 4.1 で目標に達しなかったが、それ以外は目標達成できた。平均して 4.2 であった。 ・すべての科目で目標が達成できた。平均して 4.4 であった。しかし、学生の理解度の把握と、評価問 15 が関連しているのか不明な点があるので、別の指標が必要となる。

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
医療事務総論	フードデザイン学科 1 年	10 月 17 日（火）3 校時

自己評価	他者評価
2 年生の医療秘書実務士の病院実習の報告を聞いた。実習先ごとに発表を聞いて、その都度の質疑応答の時間を設けず、その後、グループに分かれた中で行った。 これまでの全体的な質疑応答と異なり、グループにしたことで、1 年生が積極的に質問していた。2 年生もより自分の言葉で回答している姿が見られたので、グループに分けてのアクティブラーニングは効果的だったと思われる。しかし、他者評価にあるように、報告を聞いている間の居眠り学生の対策をとる必要があると感じた。	・学生の報告が不十分なところは、質問という形で内容の補足になっていてよかったと思います。報告の後のグループディスカッションは有意義だったと思います。 ・報告時は、発表者以外は聞くだけだったので、居眠りが多かったように思う。途中で質問を受けてもよかったかなと思いました。 ・報告資料の綴じ順と、発表順が違っていたので、どの資料をみたらいいのかわからない学生もいたようだ。 ・後半のグループディスカッションの内容を発表形式にしてもよかったかも。 ・学生が質問する時間を設定されていた。状況から、本授業に対する受講者の意欲が感じられた。
	参加教員
	江越和夫教授 石井妙子教授 山村涼子教授

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

「医療事務総論」の問 1 ～問 4（居眠りや質問などの学生の姿勢）が 3 点台であり、特に問 1（居眠りや私語・メール）が最も低く 3.2 であった。これは問 3（実力がついた）の 3.4 という結果に表れている。学生自身が成長したと自覚できなかったのは大いに反省すべき点である。改善策として、学ぶべき内容を毎回の授業で提示して確認できるようにする。

29 年度に初めてもった「情報科学」では、毎回の授業の目的を「今日できるようになること」と板書して授業の最初に説明した。結果、問 7（テーマや目的が分かりやすかった）については 4.5 と高い平均であった。すると、問 3（内容の理解）についても 4.5 となり、学生が「わかった」と思えたことが私の喜びでもある。引き続き、実践することと、他の科目でも実践することを改善策の一つとする。

平成30年度　教育活動計画	
平成30年度のＦＤ宣言	平成30年度の教育力向上のための計画
・毎回の授業の「今日できるようになること」または「理解すること」を板書する。 ・幼児教育学科の学生の名前と顔が一致でき、名前で呼びかけることが出来るようにする。 ・学生ひとり一人の話をよく聞くようにする。また聞く姿勢が伝わるようにする。	・板書の文字を読みやすく書けるように心がける。 ・フードデザイン学科に所属しているので、栄養士業務について再勉強する。

平成29年度　社会的活動報告			
講演等			
題名	講演年月日	主催者	場所
他団体等への協力			
協力内容	協力期間	協力先	
他大学への非常勤等			
科目名	期間	出向先	
情報処理入門	平成29年4月～平成30年3月	久留米大学	
その他特記事項			
内容	年　月　日		

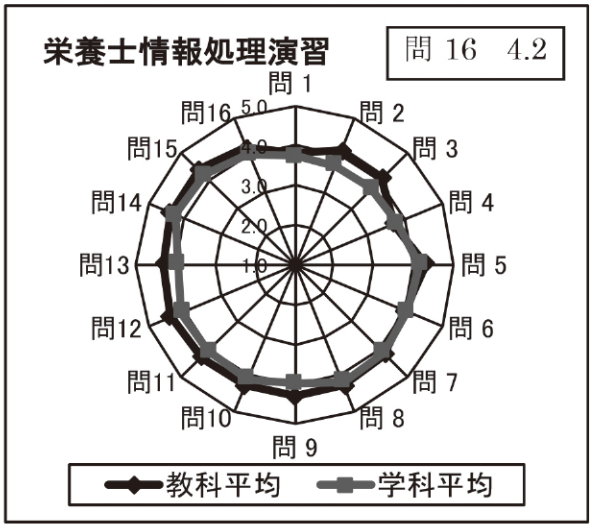
平成30年度　社会的活動計画
「高等教育コンソーシアム久留米」ｅキャンパス部会の委員を務める。

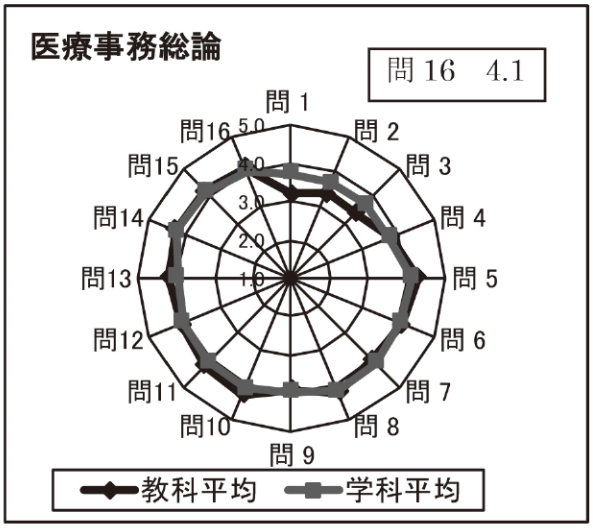
平成２９年度　学生による授業評価アンケート結果

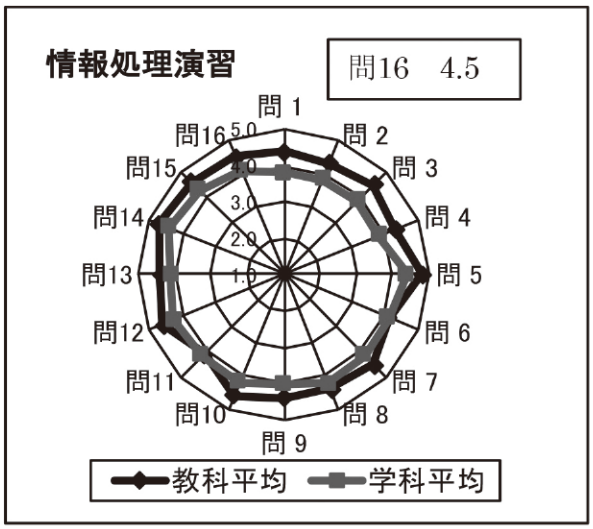
＜質問項目＞

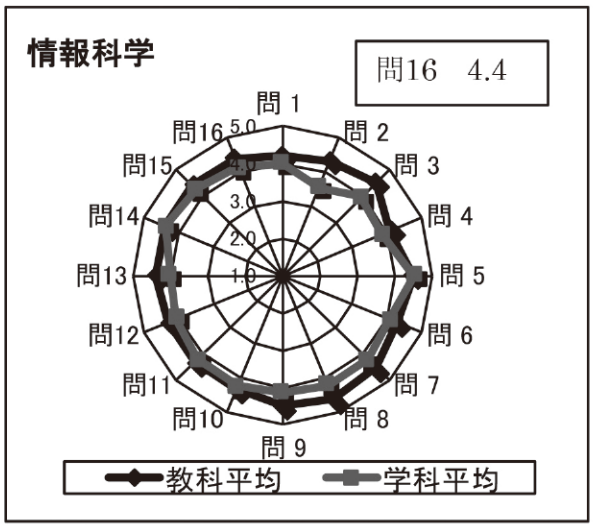
問 1　私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
問 2　私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
問 3　私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
問 4　私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
問 5　授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
問 6　先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
問 7　毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
問 8　先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
問 9　先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
問 10　教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
問 11　この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
問 12　先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
問 13　先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
問 14　先生は、熱意を持って授業を行っていた
問 15　先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
問 16　この授業を総合的に評価すると５点満点で何点になりますか

５．そう思う
４．どちらかといえばそう思う
３．どちらともいえない
２．どちらかといえばそう思わない
１．そうは思わない









	問17　あなたはこの授業のために一週間当たり何分学習しましたか。				
科目名	0 分	1～30 分	31～60 分	61～90 分	91 分以上
栄養士情報処理演習（フ 1）	12	3	3	0	0
医療事務総論（フ 1）	9	2	0	0	0
情報処理演習（フ 1）	4	2	6	1	2
情報科学（幼 1）	35	14	5	1	1

	問18　あなたは授業時間以外にどのような学習（技術・技能の習得も含みます）を行いましたか。（複数回答）					
科目名	予習	復習	課題	試験	自発的	行っていない
栄養士情報処理演習（フ 1）	0	0	10	5	0	5
医療事務総論（フ 1）	0	0	6	1	0	4
情報処理演習（フ 1）	0	0	12	1	0	3
情報科学（幼 1）	3	4	26	3	1	21

科目名	対象	必修・選択	教員コメント
栄養士情報処理演習	フードデザイン学科 1 年	資格必修	「この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う」という問 4 が 3.7 と低かったので、栄養士業務を連想させるような内容をさらに増やし、今後の学びを深めたいと思ってもらえるように努めます。 また、パワーポイントの内容で、学生の作成中のスライドを中間モニタに表示させ、教室内での共有を図ったが、これをあまり好まない学生もいるようである。このことについて、授業の中できちんと説明するようにします。

医療事務総論	フードデザイン学科１年	資格必修	「授業中の居眠りや私語」、「質問したり、自分で調べた」、「実力がついた」そして「さらに進んだ勉強をしたい」という質問項目が３点台と低かったので、毎回の授業で「今日理解すること」を確認し、進めていくようにします。
情報処理演習	フードデザイン学科１年	資格必修	情報スキルに個人差があり、進度について、少し遅いと感じる人がいるかもしれませんが、授業評価の中では「ちょうどいい」というコメントがありました。しかし「さらに進んだ勉強をしたい」という質問が4.1だったので、情報処理で学んだスキルを「他の科目で利用したい」、「こんなことができるといいな」と思ってくれる学生が一人でも増えるよう例題を紹介したいと思います。
情報科学	幼児教育学科１年	資格必修	「パワーポイントでスライドを作成できるようになってよかったです」や「よくわかりました。もっとパソコンが上手くなりたい」というコメントがありました。学んだスキルが身についたことを喜んでいる学生がいることをうれしく思いました。一方で「学ぶ項目が多すぎた」というコメントもありました。確かにWord、Excel、PowerPoint、メールを15回にギューッとまとめているので、内容的には盛りだくさんだったと思います。授業外でもわからないことがあったらいつでも質問してください。

所属学科	職名	氏名
幼児教育	講師	新井　真実

担当科目

科目名	対象	必修・選択
生活とスポーツⅠ	幼児教育学科１年	卒業必修　免許・資格必修
生活とスポーツⅡ	幼児教育学科１年	卒業必修　免許・資格必修
体育	幼児教育学科２年	卒業必修　免許必修・資格選択必修
身体表現	幼児教育学科２年	卒業選択　免許必修・資格選択必修
教育実習事前・事後指導	幼児教育学科１年	卒業選択　免許必修・資格選択必修
教育実習	幼児教育学科１年	卒業選択　免許必修・資格選択必修
幼児問題研究セミナー （からだあそび研究会）	幼児教育学科２年	卒業選択　資格選択必修

研究分野

１．舞踊・身体表現の分野

上演型舞踊、民俗舞踊等の舞踊文化について、それぞれの舞踊が根差す社会における価値の理念型やパフォーマーの表現意識に着眼した研究を行っている。

２．保育者養成の分野

保育士及び幼稚園教諭の養成に関して、特に身体表現分野についてその目的と意義、方法について研究を行っている。

３．子育て支援の分野

子育て中の母親が抱えがちな身体的・精神的なマイナートラブルの緩和、ボディ・ワークの構築に向けた研究を行っている。特に産後の母親と乳児を対象としたメソッドの検討を行っている。

４．レクリエーション・生涯スポーツの分野

現代社会における身体教育活動の意義・目的について、レクリエーションや「ゆるスポーツ」等の各種運動を活用した教育プログラムの検討を行っている。

５．コミュニティアート、ソーシャル・エンゲージド・アートの分野

地域社会における芸術活動のあり方と意義について研究している。特にコミュニティダンスを通じた多様な人々の出会い、中心市街地活性化のプロセスと教育的効果に着目している。

平成 29 年度　研究報告

平成 29 年度の研究の概要

１．保育者養成課程における「身体表現」とレクリエーションの活用に関する研究

保育者養成課程の学生たちが「コピペ思考」を脱却し創造的表現活動を行うことの意義と方法に関する先行研究（拙著,2017）に基づく、実践研究を行った。特に身体表現教育におけるインプロ（即興）の有効性に着眼して展開した。

２．ダンスを通じた中心市街地活性化に関する研究

幼児教育学科からだあそび研究会として、赤ちゃんとママ、子ども、お年寄りまで無理なく楽しめる、信愛オリジナル・コミュニティダンス「ココ、カラダ。」（2017～）の活用・普及を行った。久留米市、久留米市教育委員会、久留米商工会議所等と連携することにより、ワークショップやイベント等に多数参画し、中心市街地の新たな魅力と賑わいの創出と、健康教育の普及に取り組んだ。また一連の取り組みを通じ、学生のコミュニティダンスやソーシャルインクルージョンの理念理解の促進を試みた。

３．子育て支援に関する研究

主に産後 5 ヶ月～12 か月頃の母親を対象とした、ストレッチ・骨盤ケア・体幹トレーニングクラスの検討を行った。文献研究等による基礎研究、及び本学子育て支援講座における実践、受講者アンケートの実施等を行った。

４．保育者のためのパフォーマンス理論

保育者対象講習会講師（身体表現分野）及びアンケート調査等、基礎研究を行った。

５．女子短期大学生のボディ・イメージの変容に関する研究

文献研究、保育者養成課程学生へのアンケート調査等、基礎研究を行った。

平成 29 年度の研究の成果

（論文）

１．「コピペからのアレンジ力」としての 「re-creation スキル」に着眼したからだあそび試論
—身体表現教育とレクリエーション教育の融合を目指して—
（公益財団法人日本レクリエーション協会　課程認定校研究連絡連絡協議会
「自由時間研究」第 43 号）
※【公益財団法人日本レクリエーション協会平成 29 年度研究助成事業】採択

２．ダンスが拓くソーシャル・インクルージョンの地平（１）
—学生とつくる生涯スポーツ的コミュニティ・ダンスの試み—
（久留米信愛女学院短期大学研究紀要　第 40 号）

３．「コピペ思考」の脱却と「rec-reation スキル」の有効性について
—保育者養成課程における「身体表現」に関する一考察—
（久留米信愛女学院短期大学研究紀要　第 40 号）

（報告）

１．「プロジェクト HOTM！X（ホトミクス）2017」平成 29 年度活動報告
久留米信愛女学院短期大学からだあそび研究会（新井セミナー）
※【平成 29 年度＜久留米市キラリ輝く市民活動活性化補助金事業＞（主催：久留米市・協働推進部協働推進課）事業】採択

平成 27 年度及び 28 年度の研究の成果

（論文）

１．保育者養成課程における「身体表現」に関する一考察

―「コピペ思考」の脱却と「re-creation スキル」の有効性に着目して―
（公益財団法人日本レクリエーション協会　課程認定校研究連絡連絡協議会
「自由時間研究」第 42 号）
※【公益財団法人日本レクリエーション協会平成 28 年度研究助成事業】採択

（報告）
1．「プロジェクト HOTM！X（ホトミクス）」平成 28 年度活動報告
久留米信愛女学院短期大学からだあそび研究会（新井セミナー）
※【平成 28 年度＜まちなか万博！＞（主催：(株）ハイマート／後援：久留米市　久留米商工会議所）事業】採択

本教員の主たる研究の成果（５編以内）

（論文）
・「「晒す」身体表現の位相」お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科 人文学専攻論文要録，2006
・「戦略的パフォーマンスとしてのストリップ試論」第 16 回舞踊学会例会，2011
・「保育者養成課程における「身体表現」に関する一考察－「コピペ思考」の脱却と「re-creation スキル」の有効性に着目して－」公益財団法人日本レクリエーション協会　課程認定校連絡協議会　平成 28 年助成研究，2017

（報告）
・「エイブル・アート・オン・ステージ（障害のある人との舞台芸術活動支援事業）に関する活動報告」日産自動車 日産 NPO ラーニング奨学金制度活動報告会，2005
・「プロジェクト HOTM！X（ホトミクス）平成 28 年度活動報告（久留米信愛女学院短期大学からだあそび研究会／新井セミナー)」平成 28 年度＜まちなか万博！＞（主催：(株）ハイマート／後援：久留米市・久留米商工会議所）採択事業報告書,2017

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
舞踊学会	不参加
日本子ども学会	不参加
全国保育士養成協議会	不参加
日本レクリエーション協会課程認定校研究連絡協議会	全国大会（京都）参加 助成研究成果発表（京都学園大学）参加

平成 30 年度　研究計画

1．保育者養成の分野
前年度に継続して、保育士及び幼稚園教諭の養成に関し特に身体表現分野についてその目的と意義、方法に関して、より精緻な分析・研究を進める。

2．子育て支援の分野
前年度に継続して、子育て中の母親が抱えがちな身体的・精神的なマイナートラブルの緩和、ボディ・ワークの構築に向けた研究を行う。特に産後の母親と乳児を対象としたメソッドの検討を精緻に行う。

4．レクリエーション・生涯スポーツの分野
前年度に継続して、現代社会における身体教育活動の意義・目的について、特にレクリエーションや「ゆるスポーツ」等の各種運動を活用した教育プログラムの検討を行う。

5．コミュニティアート、ソーシャル・エンゲージド・アートの分野
前年度に継続して、地域社会における芸術活動のあり方と意義について研究する。特にダンスを通じた多様な人々の出会い、中心市街地活性化についてより精緻に研究する。

平成 29 年度　教育活動報告

平成 29 年度のＦＤ宣言とその評価

ＦＤ宣言	自己評価
【目標】 学生の積極的学修を促進する。 【成果の指標】 授業評価アンケートの「問 16」（予習・復習関連）および「問 17：総合評価」の項目に関して、その評価を向上させる。	自主的な学修を促すため、以下を実行した。 ・身体を使った実技授業における「予習・復習」のあり方・意義について説明を行った。 ・授業外での学修方法の丁寧な説明を行った（図書館の活用、参考書の紹介等）。 ・質問しやすい雰囲気づくりに努めた。 その結果、学生の授業評価における「予習・復習」の評価が１ポイント台から３ポイント台に上昇した。

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
生活とスポーツⅡ	幼児教育学科１年Ａクラス	平成 29 年 10 月 19 日（木） Ⅱ校時

自己評価	他者評価
【本授業について】 対象授業は幼児教育学科１年生の実技科目であると同時に、大牟田北高等学校＜キャンパス３デイズ＞の体験授業にも位置づけられていた。対象回はパラバルーンの活用についての授業であったが、在学生・高校生が共に学びあえる雰囲気づくりに配慮し、受講者の発言・提案を引き出す声掛けを積極的行いながら展開した。 【他の授業を参観して】 保育者養成課程の教員として、「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく」学生たちに伝えることができているのか。今一度自省し、共に高め合う必要性を感じた。専門性を活かす方法の模索はもとより、専門性を高め、磨く努力を怠らないこと。そして、それを正しく評価し合い支え合える体制づくりで、学科、短大の未来を拓きたい。	・授業の進行の仕方がとても良いと思った。パワーポイントを適切に利用し、説明・演習される方法は講義や実習の事業においても導入したいと思った。大変参考になった。 ・学生の集中が継続していることに感動した。 ・学生、高校生（体験授業生）ともどもに声かけを心がけられ、学生たちからの随時の質問に対応していた。 ・随時、質問・確認・相互意見交換等の様子が見られ、良い意味で自由な雰囲気のもと、双方向の授業であったように思う。 ・動き方の説明もわかりやすい言葉と動作で明確に行われていた。 ・他の（身体表現以外の）表現領域との関連付けもされていて保育者養成における体育の授業として効果的な内容と感じた。
	参加教員
	椎山克己 教授　山下浩子 教授　重永茂　准教授

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

【総合評価平均】
「生活とスポーツⅠ」(4.7)、「生活とスポーツⅡ」(4.4)、「体育」(4.5)、「身体表現」(4.5)

【課題】
昨年度全体的に低かった「予習・復習」についての評価が、平均１ポイント台から３ポイント台後半に上昇した。これは、身体を使った実技科目における予習・復習のあり方について、丁寧な説明を心掛けた成果と捉えられる。また、体育系実技科目の場合、実際には授業に向けた準備や振り返り学習をしていても、学生自身が「予習・復習」という意識を持っていない可能性があったため、意識づけを行った成果とも考えられる。とはいえ、依然として他の項目に比べ評価が低いため、ひきつづき課題に向けた自主的な学習を促進する環境を整えていきたい。

平成 30 年度　教育活動計画

平成 30 年度のＦＤ宣言	平成 30 年度の教育力向上のための計画
【目標】 学生の積極的学修を促進する。 【成果の指標】 授業評価アンケートの「問 16」（予習・復習関連）および「問 17：総合評価」の項目に関して、その評価を向上させる。	自主的な学修を促すため、以下を実行する。 ・身体を使った実技授業における「予習・復習」のあり方・意義について説明する。 ・授業外での学修方法を説明する（図書館の活用、参考書の紹介等）。 ・質問しやすい雰囲気づくりに努める。

平成 29 年度　社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
１．ガイアの時間 「子どもと楽しむからだあそび」	平成 29 年 11 月 18 日	福岡海星女子学院高等学校	福岡海星女子学院高等学校
２．南筑ライフデザインカレッジ 「子どもと楽しむからだあそび」	平成 29 年 9 月 11 日	久留米市立南筑高等学校	久留米信愛女学院短期大学
３．信愛接続プログラム 「子どもと楽しむからだあそび」	平成 29 年 6 月 24 日	久留米信愛女学院高等学校	久留米信愛女学院短期大学
４．信愛女学院高等学校 「ミ・ラ・イ　フィールド」体験授業	平成 29 年 9 月 14 日	久留米信愛女学院高等学校	久留米信愛女学院短期大学
５．大牟田北高等学校 「キャンパス３デイズ」体験授業	平成 29 年 10 月 19 日	福岡県立大牟田北高等学校	久留米信愛短期大学
６．久留米市立牟田山中学校　総合学習 「保育・幼児教育フィールド」体験授業	平成 29 年 10 月 31 日	久留米市立牟田山中学校	久留米市立牟田山中学校
７．久留米信愛女学院短期大学オープンキャンパス　幼児教育学科体験授業 「子どもと楽しむからだあそび」	平成 29 年 8 月 30 日	久留米信愛女学院短期大学	久留米信愛女学院短期大学
８．信愛つどいの広場子育て支援講座 「産後ママと赤ちゃんに効く 抱っこ de エクササイズ」	平成 30 年 1 月 20 日	久留米信愛女学院短期大学	久留米信愛女学院短期大学
９．夏の芸術教育学校 「３・４・５歳児の表現活動入門セミナー　カラダほぐしココロはずむ　からだあそび」講師	平成29年8月3日木曜日	芸術と遊び想創造協会	福岡県中小企業振興センター
※その他ワークショップ講師等については次項に記載			

他団体等への協力		
協力内容	協力期間	協力先
【委員】 1．久留米市スポーツ振興会委員	平成 30 年 1 月～	久留米市
2．久留米市中心市街地活性化協議会委員・幹事	平成 30 年 4 月～	久留米市
3．久留米広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会委員 分科会（都市機能・生活関連機能サービス検討分科会）会長	平成 30 年 4 月～	久留米商工会議所
【地域参画活動】 1．「SOLA－IRO 広場（久留米岩田屋屋上） 4 周年感謝祭」ステージ招聘	平成 29 年 5 月 3 日	久留米岩田屋
2．「久留米まちゼミ Kids」参画 （「ダンス and からだあそびワークショップ」講師）	平成 29 年 8 月 17 日 18 日	久留米商工会議所
3．「第 9 回　久留米まちゼミ」Kids　参画 （「ダンス and からだあそびワークショップ 秋の巻」講師）	平成 29 年 11 月 26 日	久留米商工会議所
4．「第 9 回　久留米まちゼミ」アフター５　参画 （「美姿（びし）っと！ ダンス and エクササイズ」講師）	平成 29 年 11 月 15 日 22 日	久留米商工会議所
5．セーフコミュニティフェスタ　ステージ招聘	平成 29 年 10 月 22 日	久留米市
6．クリスマスマーケット in KURUME　ステージ招聘	平成 29 年 12 月 16 日	久留米市

他大学への非常勤等		
科目名	期間	出向先
なし		

その他特記事項	
内容	年　月　日
1．教員免許状更新講習会 「幼児の身体表現」講義及び実技講習を担当	平成 29 年 8 月 24 日木曜日

平成 30 年度　社会的活動計画

１．非常勤講師
・平成 30 年度後期　久留米大学 人間健康学部 スポーツ医科学科「体育実技（ダンス）」非常勤講師
・平成 30 年 5 月 7 日　武蔵野大学 教育学部「体育講義」特別講師

２．教員免許状更新講習会講師
・平成 30 年 8 月 23 日　教員免許状更新講習会「幼児の身体表現」講師

３．出前講座・公開講座講師
・平成 30 年 7 月 22 日　久留米信愛女学院短期大学オープンキャンパス体験授業　講師
・平成 30 年 5 月 21 日　南筑高等学校　南筑ライフデザインカレッジ　講師
・平成 30 年 5 月 24 日　明光学園高等学校　チャレンジプログラムキャンパスデザイン講座　講師
・平成 30 年 6 月 15 日　久留米市立北野中学校　出前授業（久留米信愛高校より依頼）　講師
・平成 30 年 10 月 27 日　福岡海星女学院高等学校　ガイアの時間　講師
・平成 30 年（期日未定）久留米信愛女学院高等学校　ミ・ラ・イフィールド　講師
・平成 30 年（期日未定）久留米信愛女学院高等学校　信愛接続プログラム　講師

４．子育て支援講座講師
・平成 30 年 12 月 1 日　信愛つどいのひろば子育て支援講座
「産後ママと赤ちゃんに効く　抱っこ de エクササイズ」　講師

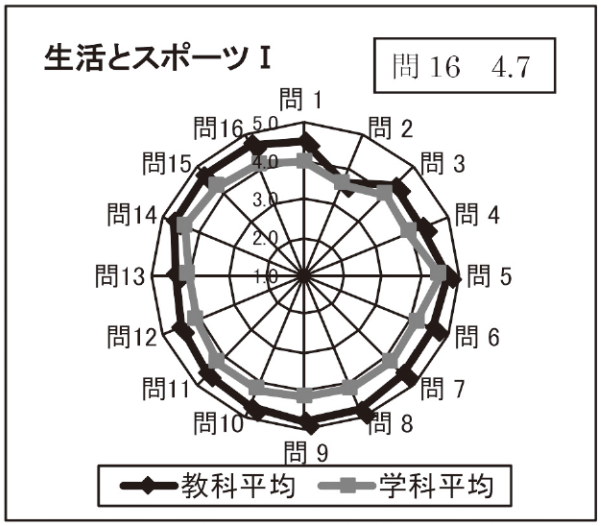
５．地域参画活動（中心市街地活性化　等）
・平成 30 年 4 月 29 日＜第３回　久留米楽衆国まつり＞ステージ出演および
久留米商工会議所との共同企画参画
・平成 30 年 6 月～7 月＜第 10 回　久留米まちゼミ　アフター５＞講師
・平成 30 年 7 月～　久留米市農政部農政課　久留米農産物 PR ムービー　振付
・平成 30 年 8 月 11 日　〈久留米まちゼミ Kids〉講師
・平成 30 年 10 月＜セーフコミュニティフェスタ＞ステージパフォーマンス招聘
・平成 30 年 10 月 6 日　第１回ひらくフォーラム＜ココロおどるカラダうたう
みんなつながるコンサート＞企画運営

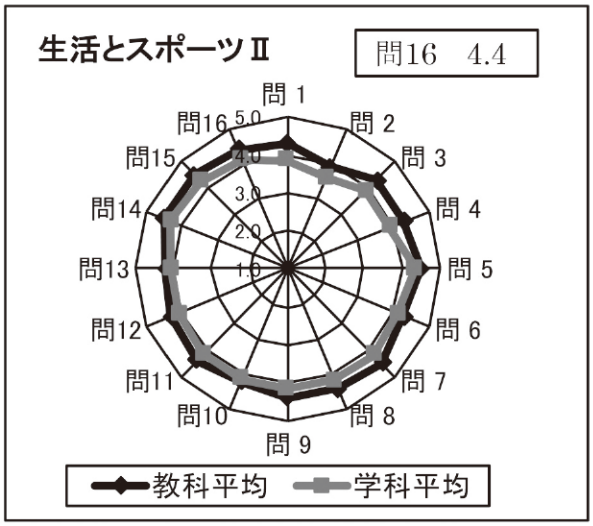
平成２９年度　学生による授業評価アンケート結果

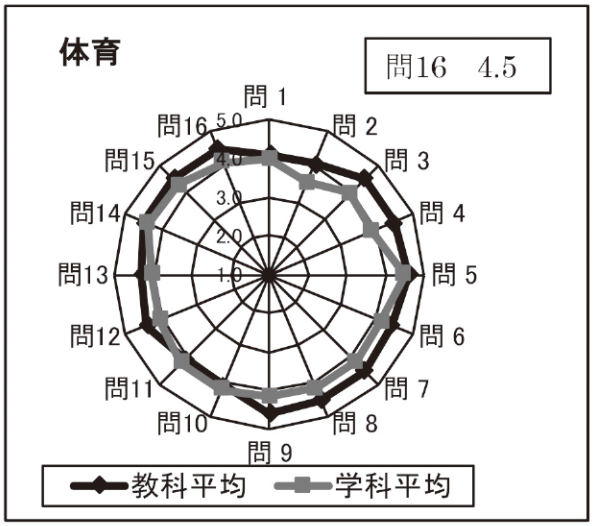
＜質問項目＞

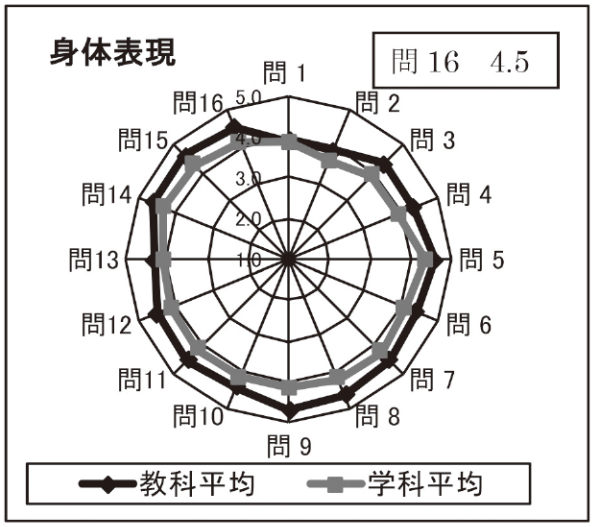
問 1　私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
問 2　私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
問 3　私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
問 4　私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
問 5　授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
問 6　先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
問 7　毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
問 8　先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
問 9　先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
問 10　教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
問 11　この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
問 12　先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
問 13　先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
問 14　先生は、熱意を持って授業を行っていた
問 15　先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
問 16　この授業を総合的に評価すると５点満点で何点になりますか

５．そう思う
４．どちらかといえばそう思う
３．どちらともいえない
２．どちらかといえばそう思わない
１．そうは思わない









	問17　あなたはこの授業のために一週間当たり何分学習しましたか。				
科目名	0 分	1～30 分	31～60 分	61～90 分	91 分以上
生活とスポーツⅠ（幼1）	35	13	7	2	0
生活とスポーツⅡ（幼1）	28	21	6	1	0
体育（幼2）	18	8	9	2	0
身体表現（幼2）	17	15	7	3	2

	問18　あなたは授業時間以外にどのような学習（技術・技能の習得も含みます）を行いましたか。（複数回答）					
科目名	予習	復習	課題	試験	自発的	行っていない
生活とスポーツⅠ（幼1）	1	2	10	31	0	19
生活とスポーツⅡ（幼1）	15	13	37	11	0	10
体育（幼 2）	6	1	17	5	1	9
身体表現（幼 2）	6	5	25	1	2	5

科目名	対象	必修・選択	教員コメント
生活とスポーツⅠ	幼児教育学科１年	卒業必修 免許・資格必修	学生の授業評価における「問２　私はわからないときに質問したり、自分で調べたりした」の数値3.6から、昨年度の課題であった学生の積極的学修の促進の成果が確認できた（昨年度１ポイント台）。ひきつづき学生たちに働きかけると共に、学生の方からも積極的に質問に来てほしい。

生活とスポーツⅡ	幼児教育学科１年	卒業必修免許・資格必修	学生の授業評価における「問２　私はわからないときに質問したり、自分で調べたりした」の数値3.9から、昨年度の課題であった学生の積極的学修の促進の成果が確認できた(昨年度１ポイント台)。ひきつづき学生たちに働きかけると共に、学生の方からも積極的に質問に来てほしい。
体育	幼児教育学科２年	卒業必修免許必修・資格選択必修	学生の授業評価において「問１　私はこの授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった」の数値が4.1と他項目に比べ低かった。これは、授業内のグループワーク中に私語が出たり、調べものをする目的で用いるスマートフォンを別の用途で使用する学生がいたことを表していると考えられる。豊かな発想を促す自由な雰囲気は保ちつつ、節度ある学習環境をつくれるよう努力したい。
身体表現	幼児教育学科２年	卒業必修免許必修・資格選択必修	学生の授業評価において「問１　私はこの授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった」の数値が3.9と他項目に比べ低かった。これは、授業の大半を占める舞台創作活動中に、度が過ぎた私語等、緊張感に欠ける行動をとる学生もいたものと捉えられる。豊かな発想を促す自由な雰囲気は保ちつつ、節度ある学習環境をつくれるよう努力したい。

所属学科	職名	氏名
フードデザイン学科	助手	岡　　輝美

担当科目		
科目名	対象	必修・選択

研究分野

食品衛生学分野

・変異原性物質（発がん作用を有する）による危害の軽減を目指して、「抗変異原性を有する食品の検索」、「食物繊維や乳酸菌による変異原性物質の吸着」に関する研究をしている。
・「身体の黄色ブドウ球菌分布」を調べている。
・「ジャガイモのクロロフィル含量とソラニン・チャコニン量との相関性」を調べている。

食品学分野

・「食と健康」の観点から、各種食品中の機能性成分（メラトニン、ＥＰＡ、ＤＨＡ、ポリアミン等）の分析研究をしている。

食品加工学分野

・「豆腐の食感と凝固剤」について検討している。

栄養士養成分野

・栄養士養成校として、栄養士の資質向上に向けての取り組みや学生の意識の高揚支援等の栄養士養成に関する研究をしている。
・フードプロジェクト活動を通して、フードデザイン学科の取り組みとしての研究をしている。

キャリア形成支援分野

・キャリアガイダンス及び就職支援・学生支援等に関する研究をしている。

平成 29 年度　研究報告

平成 29 年度の研究の概要

食品衛生学分野

・「ＨＰＬＣによるジャガイモ芽のクロロフィル及びグリコアルカロイドの定量」というテーマで研究紀要に投稿するは、
研究紀要に、「ＨＰＬＣによるジャガイモ芽のクロロフィル及びグリコアルカロイドの定量」のテーマで掲載された。

・「ジャガイモのクロロフィル含量とソラニン・チャコニン量との関連性」について検討するは、
鹿児島・佐賀・長崎・熊本県産メークイン 26 検体の表皮のソラニン・チャコニン量とクロロフィル量を調べた。

食品学分野

・薄層クロマトグラフィーによるＥＰＡ・ＤＨＡ及びポリアミンの定量方法を検討するは、C18 を吸着剤として、ＥＰＡ、ＤＨＡの定性分析方法を確立した。また、ＨＰＬＣによる定量方法について検討した。

食品加工学分野

・豆腐の食感に及ぼす凝固剤及び加熱温度について検討するは、
凝固剤濃度を低くすると食感が向上し、他者からも良好な評価を得られた。

生理生化学分野

・「乳・乳製品に含まれる脂肪の酵素作用による検出（４）」というテーマで研究紀要に投稿するは、
研究紀要に、「乳・乳製品に含まれる脂肪の酵素作用による検出（４）」のテーマで掲載された。

栄養士養成分野

・「栄養士養成研究（５）生活実態が学習支援効果に及ぼす影響―２」というテーマで研究紀要に投稿するは、
研究紀要に、「栄養士養成研究（５）生活実態が学習支援効果に及ぼす影響―２」のテーマで掲載された。

・「入学から卒業までのガイドブック七訂版」の見直し及び「入学から卒業までのガイドブック八訂版」の作成を学科全員で行った。

・専門教育科目「食品学実験（39 頁）」・「生化学実験（48 頁）」・「食品衛生学実験（26 頁）」・「食品加工学実習（23 頁）」の教材を作成し、授業で使用した。

キャリア形成支援分野

・「キャリア形成支援ＢＯＯＫ　２０１７」の見直し及び「キャリア形成支援ＢＯＯＫ　２０１８」の作成を担当者全員で行った。

平成 29 年度の研究の成果

（論文）

１．「ＨＰＬＣによるジャガイモ芽のクロロフィル及びグリコアルカロイドの定量」（共著）平成 29 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学　研究紀要　第 40 号』(1～7)

２．栄養士養成研究（５）生活実態が学習支援効果に及ぼす影響―２」（共著）平成 29 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学　研究紀要　第 40 号』(25～34)

３．「乳・乳製品に含まれる脂肪の酵素作用による検出（４）」（共著）平成 29 年 7 月『久留米信愛女学院短期大学　研究紀要　第 40 号』(35～40)

（その他）

１．「入学から卒業までのガイドブック八訂版」（共著）平成 29 年 4 月　久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科発行

２．「キャリア形成支援ＢＯＯＫ　２０１８」（共著）平成 30 年 3 月　久留米信愛女学院短期大学キャリア形成支援推進室発行
３．専門教育科目「食品学実験（39 頁）」・「生化学実験（48 頁）」・「食品衛生学実験（26 頁）」・「食品加工学実習（23 頁）」のファイル付教材プリント作成

平成 28 年度及び 27 年度の研究の成果

（論文）
１．「高速液体クロマトグラフィーによる果実中メラトニンの定量分析」（共著）平成 27 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学　研究紀要　第 38 号』(1～6)
２．「栄養士養成研究（３）生活実態が学習支援効果に及ぼす影響」（共著）平成 27 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学　研究紀要　第 38 号』(25～33)
３．「乳・乳製品に含まれる脂肪の酵素作用による検出（２）」（共著）平成 27 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学　研究紀要　第 38 号』(35～39)
４．「栄養士養成研究（４）学習支援に対する効果の２年間の分析」（共著）平成 28 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学　研究紀要　第 39 号』(21～25)
５．「乳・乳製品に含まれる脂肪の酵素作用による検出（３）乳化作用強化による影響」（共著）平成 28 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学　研究紀要　第 39 号』(27～32)
（その他）
１．「女子短期大学生における黄色ブドウ球菌の分析」（共著）平成 28 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学　研究紀要　第 39 号』(39～43)
２．「入学から卒業までのガイドブック六訂版」（共著）平成 27 年 4 月　久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科発行
３．「キャリア形成支援ＢＯＯＫ　２０１６」（共著）平成 28 年 3 月　久留米信愛女学院短期大学キャリア形成支援推進室発行
４．「入学から卒業までのガイドブック七訂版」（共著）平成 28 年 4 月　久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科発行
５．「キャリア形成支援ＢＯＯＫ　２０１７」（共著）平成 29 年 3 月　久留米信愛女学院短期大学キャリア形成支援推進室発行

本教員の主たる研究の成果（５編以内）

1. 「Adsorption of Heterocyclic Aromatic Amines by Low Molecular Weight Cellulose」（共著）『Journal of Food Hygienic Society of Japan,Vol.38,No.6』(1997)

2. 「ラット排泄物中での Trp-P-1 及びその代謝物の挙動」（共著）『食品衛生学雑誌　42 巻 4 号』(2001)

3. 「穂先タケノコの有効利用」（共著）『日本調理科学会誌　35 巻 3 号』(2002)

4. 「ラットにおける Trp-P1 の代謝排泄に及ぼすゴボウとキャベツ粉末の影響」（共著）『日本食品科学工学会誌　56 巻 4 号』(2009)

5. 「高速液体クロマトグラフを用いた米飯中メラトニンの定量法」（共著）『日本食品科学工学会誌　59 巻 3 号』(2012)

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本調理科学会	大会等不参加
日本家政学会	大会等不参加
日本栄養改善学会	大会等不参加
日本食品衛生学会	大会等不参加

平成 30 年度　研究計画

食品衛生学分野

・「ジャガイモにおけるポテトグリコアルカロイドとクロロフィルの相関性」というテーマで研究紀要に投稿する。

・Ｋ値の測定方法について検討する。

食品学分野

・各種食品のＥＰＡ・ＤＨＡ量について調べる。

食品加工学分野

・豆腐の食感に及ぼす凝固剤について検討する。

栄養士養成分野

・「栄養士養成研究（６）６年間の学習支援の取り組みの総括」というテーマで研究紀要に投稿する。

・フードプロジェクト活動を通して、「学生の成長」可視化のこころみ（１）というテーマで研究紀要に投稿する。

・「入学から卒業までのガイドブック八訂版」の見直し及び「入学から卒業までのガイドブック九訂版」の作成を学科全員で行う。

・専門教育科目「食品学実験」・「生化学実験」・「食品衛生学実験」・「食品加工学実習」のテキストの内容を再検討・修正し、充実させる。

キャリア形成支援分野

・「キャリア形成支援　ＢＯＯＫ　２０１８」の見直し及び「キャリア形成支援　ＢＯＯＫ　２０１９」の作成を担当者全員で行う。

平成 29 年度　社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
なし			

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
久留米信愛女学院短期大学同窓会役員報告会	平成 29 年 7 月 9 日	久留米信愛女学院短期大学同窓会
女子中高生の理工系チャレンジ応援事業「理工系女子の仕事図鑑」ポスター作成・甘酒作り	平成 29 年 7 月 29 日	久留米市男女平等推進センター
久留米信愛女学院短期大学同窓会三役会	平成 29 年 9 月 16 日	久留米信愛女学院短期大学同窓会
久留米信愛女学院短期大学同窓会（学内同窓生会）	平成 29 年 9 月 20 日	久留米信愛女学院短期大学同窓会
久留米市内５大学等連携による市民公開講座 2017	平成 29 年 10 月 14 日	高等教育コンソーシアム久留米
久留米市内５大学等連携による市民公開講座 2017	平成 29 年 11 月 4 日	高等教育コンソーシアム久留米
2017 年度　久留米工業大学ＳＤ（ＦＤ）研修会	平成 30 年 2 月 23 日	高等教育コンソーシアム久留米

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
なし		

その他特記事項

内容	年　月　日
なし	

平成 30 年度　社会的活動計画

・地域参画推進団体への協力
・ボランティア活動への協力
・久留米信愛短期大学同窓会への協力

所属学科	職名	氏名
フードデザイン学科	助手	眞谷智美

担当科目		
科目名	対象	必修・選択

研究分野

1．幼児・子どもの健康と食生活に関する調査研究
久留米市食育プランへの取り組みの一環としてアンケート調査を実施　子どもの食育に関する事業の推進を図り保護者に対する健康教育に活用する基礎資料作成

2．地域特産物を利用した食育教材開発
久留米市内の保育園・幼稚園児の保護者、保育施設、地域社会と連携し、食と農に関する教育と健全な食生活への理解を促進する目的で地域農作物を使った食育教材作成

3．行事食に関する調査研究
栄養士・保育士養成課程の学生へ年中行事や通過儀礼の認知度・経験、その際の行事食について、喫食経験、喫食状況、調理状況、食べ方などの喫食経験等をアンケート調査　食文化の継承に繋がる食教育法についての資料として調査研究を実施

4．地域特産物を活用した食教育の効果検証
久留米市食育推進プランにおける食育事業への参画および農業団体や食品関連事業者等との協力活動を通して食育を実践　その成果を踏まえ栄養士養成カリキュラムにおける「地産農産物を活用した食教育」への取り組みを行った

5．栄養士としての資質向上に向けての取り組み
栄養士養成の立場で学生が栄養士養成課程に必要な知識および技術に関する基本的事項を習得するために学科全教員でガイドブックを作成　本学科独自の学習支援および進路支援を実施

6．幼稚園・保育園・認定こども園における食育に関するアンケート調査
久留米市の保育園、幼稚園、認定こども園、各園における食育推進の実際について把握を行い、「久留米市食育推進プラン」への次期策定および改善に向けての基礎資料とするためアンケート調査を実施

7．乳幼児とその保護者への食育に関する研究
「子育て支援講座」において乳幼児の保護者およびその関係者へ望ましい食習慣を確立することを目的とし講座・調理実習を実施、その食育の取り組みについて報告

8．学生の調理関連科目の習熟度についてアンケートを実施
学生が栄養士になるための基本的な知識と技術について習熟度を確認し、今後の指導内容についての方向性の検討を行った

平成 29 年度　研究報告

平成 29 年度の研究の概要

1．栄養士としての資質向上に向けての取り組み
　栄養士養成の立場で学生が栄養士養成課程に必要な知識および技術に関する基本的事項を習得するために学科全教員でガイドブックを作成　本学科独自の学習支援および進路支援を実施
2．学生の調理関連科目の習熟度についてアンケートを実施
　学生が栄養士になるための基本的な知識と技術について習熟度を確認し、今後の指導内容についての方向性の検討を行った

平成 29 年度の研究の成果

（論文）
1．「栄養士養成研究（5)「生活実態が学習支援に及ぼす影響-2」　共著　平成 29 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要　第 40 号』(25－34)

（発表）
1．「子育て支援講座における食育の取り組み」　共同　平成 29 年 9 月 17 日　第 43 回福岡県栄養改善学会　ナースプラザ福岡

（研究ノート）
1．「調理関連科目の習熟度について　第 1 報」　共著　平成 29 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要　第 40 号』(95－101)

（その他）
1．『入学から卒業までのガイドブック第 8 号』　共著　平成 29 年 4 月　久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科

平成 28 年度及び 27 年度の研究の成果

（論文）
1．「栄養士養成研究（3）生活実態が学習支援効果におよぼす影響」　共著　平成 27 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要　第 38 号』(25－33)
2．「栄養士養成研究（4)「学習支援に対する効果の 2 年間の分析」　共著　平成 28 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要　第 39 号』(21－25)

（研究ノート）
1．「久留米市の保育所・幼稚園・認定こども園における食育推進の実際　第 1 報」　共著　平成 27 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要　第 38 号』(53－58)
2．「久留米市の保育所・幼稚園・認定こども園における食育推進の実際　第 2 報」　共著　平成 28 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要　第 39 号』(51－56)

（報告）
1．「子育て支援講座における食育の取り組み」　共著　平成 27 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要　第 38 号』(91－97)

（その他）
1．『入学から卒業までのガイドブック第 6 号』　共著　平成 27 年 4 月　久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科
2．『入学から卒業までのガイドブック第 7 号』　共著　平成 28 年 4 月　久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科

本教員の主たる研究の成果（５編以内）
なし

所属学会および参加状況	
所属学会	参加状況および役職等
日本栄養改善学会 日本調理科学会 日本家政学会	第 64 回日本栄養改善学会学術総会参加 大会等不参加 大会等不参加

平成 30 年度　研究計画

1．栄養士養成に関する研究
　「入学から卒業までのガイドブック」の改定を学科内教員で行う
2．「栄養士養成研究（6）5 年間の取り組みの総括（仮）」　共著　久留米信愛短期大学研究紀要　第 41 号　投稿予定
3．「調理学関連科目の習熟度について（第２報）」共著　久留米信愛短期大学研究紀要　第 41 号　投稿予定
4．『「学生の成長」の可視化のこころみ―フードプロジェクト活動を通して―』共著　久留米信愛短期大学研究紀要　第 41 号　投稿予定

平成29年度　社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
信愛つどいの広場　子育て支援講座「親子クッキング」	平成30年3月3日	久留米信愛女学院短期大学	久留米信愛女学院短期大学

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
ＪＡくるめ広報誌「With　You」レシピ掲載	平成29年1月～平成30年3月	ＪＡくるめ
グリーンコープへレシピ掲載	平成29年1月～平成30年3月	グリーンコープ
くるめフォーラム2017	平成29年10月7日・8日	久留米女性週間記念事業実行委員会・久留米市

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
なし		

その他特記事項

内容	年　月　日
久留米大学「食と健康」調理実習　助手	平成29年6月3日・10日 10月14日・21日

平成30年度　社会的活動計画

1．「信愛つどいの広場」子育て支援講座　講師
2．ＪＡくるめ広報紙「With　You」へ久留米農産物を使った料理レシピ掲載
3．ふるさとくるめ農業まつりへの協力
4．久留米大学「食と健康」調理実習　助手
5．グリーンコープへの料理レシピ掲載
6．筑後地方保育協会保育士会給食研修会　助手

所属学科	職名	氏名
フード デザイン	助手	髙松幸子

担当科目		
科目名	対象	必修・選択

研究分野

1．幼児・子どもの健康と食生活に関する調査研究
久留米市子どもの健康と食生活に関する実態調査を受けて、基礎資料の作成や朝食摂取とその他の要因の関連について研究している。

2．行事食に関する調査研究
栄養士・保育士養成課程の学生へ福岡県の郷土料理の喫食経験等をアンケート調査し、食文化の継承に繋がる食教育法について調査研究している。

3．栄養士養成に関する研究
学科全教員でガイドブックを作成し、栄養士としての資質向上に向けての取り組み等を研究している。

4．幼稚園・保育園・認定こども園における食育に関する研究
久留米市の保育園、幼稚園、認定こども園、各園における食育推進の実際についてアンケート調査による把握を行い、「久留米市食育推進プラン」への次期策定および改善に向けての基礎資料とするための研究をしている。

5．乳幼児とその保護者への食育に関する研究
「子育て支援講座」において乳幼児の保護者およびその関係者へ望ましい食習慣を確立することを目的とし講座・調理実習内容等を研究している。

6．調理学関連科目の習熟度に関する研究
学生が身に付けた基本的な知識や技術、シラバスの目標達成度等を把握し、今後の課題や指導の方向性を検討するために調査研究している。

平成 29 年度　研究報告

平成 29 年度の研究の概要

1．栄養士養成に関する研究
　栄養士の資質向上に向けての取り組みとして、学科全教員で『入学から卒業までのガイドブック』の内容検討し作成した。学科学生へのアンケートを実施し、「栄養士養成研究」を継続した。
2．乳幼児とその保護者への食育に関する研究
　今までの講座内容をまとめ、講義・調理実習内容等についての検討や研究を継続した。
3．調理学関連科目の習熟度に関する研究
　学生へのアンケートを実施し、集計等を行った。

平成 29 年度の研究の成果

（論文）
1．「栄養士養成研究(5)　生活実態が学習支援効果におよぼす影響-2」　共著　平成 29 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要　第 40 号』(25－34)

（発表）
1．「子育て支援講座における食育の取り組み」　共同　平成 29 年 9 月 17 日　第 43 回福岡県栄養改善学会　ナースプラザ福岡

（研究ノート）
1．「調理学関連科目の習熟度について　第 1 報」　共著　平成 29 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要　第 40 号』(95－101)

（その他）
1．『入学から卒業までのガイドブック第 8 号』　共著　平成 29 年 4 月　久留米信愛女学院短期大学　フードデザイン学科

平成 28 年度及び 27 年度の研究の成果

（論文）
1．「栄養士養成研究（3）生活実態が学習支援効果におよぼす影響」　共著　平成 27 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要　第 38 号』(25－33)
2．「栄養士養成研究（4）学習支援に対する効果の 2 年間の分析」　共著　平成 28 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要　第 39 号』(21－25)

（研究ノート）
1．「久留米市の保育所・幼稚園・認定こども園における食育推進の実際　第 1 報」　共著　平成 27 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要　第 38 号』(53－58)
2．「久留米市の保育所・幼稚園・認定こども園における食育推進の実際　第 2 報」　共著　平成 28 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要　第 39 号』(51－56)

（報告）
1．「子育て支援講座における食育の取り組み」　共著　平成 27 年 7 月　『久留米信愛女学院短期大学研究紀要　第 38 号』(91－97)

（その他）
1．『入学から卒業までのガイドブック第 6 号』　共著　平成 27 年 4 月　久留米信愛女学院短期大学　フードデザイン学科
2．『入学から卒業までのガイドブック第 7 号』　共著　平成 28 年 4 月　久留米信愛女学院短期大学　フードデザイン学科

本教員の主たる研究の成果（５編以内）

所属学会および参加状況	
所属学会	参加状況および役職等
日本栄養改善学会 日本調理科学会	第64回日本栄養改善学会学術総会参加 大会等不参加

平成30年度　研究計画

1．栄養士養成に関する研究

『入学から卒業までのガイドブック第9号』　共著　久留米信愛短期大学　フードデザイン学科　改定発行予定

「栄養士養成研究(6) 5年間の取り組みの総括（仮）」　共著　『久留米信愛短期大学研究紀要　第41号』投稿予定

2．調理学関連科目に関する研究

「調理学関連科目の習熟度について　第2報」　共著　『久留米信愛短期大学研究紀要　第41号』投稿予定

3．「学生の成長」の可視化のこころみーフードプロジェクト活動を通してー（仮）　共著　『久留米信愛短期大学研究紀要　第41号』投稿予定

平成 29 年度　社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
信愛つどいの広場 子育て支援講座「親子クッキング」	平成 30 年 3 月 3 日	久留米信愛女学院 短期大学	久留米信愛女学院 短期大学

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
ＪＡくるめ広報誌「With　You」レシピ掲載	平成 29 年 1 月号～ 平成 30 年 3 月号	ＪＡくるめ
グリーンコープレシピ掲載	平成 29 年 1 月～ 平成 30 年 3 月	グリーンコープ
くるめフォーラム 2017	平成 29 年 10 月 7 日・8 日	久留米女性週間記念 事業実行委員会・ 久留米市
第 27 回　筑後地区糖尿病の集い	平成 29 年 11 月 19 日	福岡県栄養士会 筑後支部
福岡県栄養士会 筑後支部 久留米分会役員	平成 28 年 4 月～ 平成 30 年 3 月	福岡県栄養士会 筑後支部久留米分会

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
なし		

その他特記事項

内容	年　月　日
久留米大学「食と健康」調理実習　助手	平成 29 年 6 月 3 日・6 月 10 日 10 月 14 日・10 月 21 日

平成 30 年度　社会的活動計画

1．「信愛つどいの広場」子育て支援講座　講師
2．ＪＡくるめ広報紙「With　You」へ久留米農産物を使った料理レシピ掲載
3．グリーンコープの料理レシピ掲載
4．久留米大学「食と健康」調理実習　助手
5．ふるさとくるめ農業まつりへの協力
6．筑後地方保育協会保育士会給食研修会　助手

平成 29 年度　教員研究会要旨

平成 29 年 8 月 30 日（水）13：00～
バイオレットホール
フードデザイン学科　山下浩子

「小児肥満改善の実際～久留米大学医療センター小児生活習慣病外来症例より」

はじめに、久留米大学医療センター小児生活習慣病外来（平成 6 年 7 月開設）の概要を紹介した。当外来は、久留米大学病院小児科「小児成人病外来（通称、肥満外来）」（平成 5 年 2 月開設）より移設したもので、当初より当大学病院小児科と本学生活学科食物栄養専攻（現フードデザイン学科）が協力して、小児の肥満改善に取組んでいる。医師 1 名、管理栄養士 2 名（本学）の体制で診察および栄養指導を行っている。対象は原発性肥満（単純性肥満）児で、のべ患児数は 247 人（平成 5 年 2 月～平成 29 年 8 月現在）であった。

研究発表は、当外来における小児肥満改善の実際について 4 症例を挙げ、考察を述べた。

〔症例 1〕12 歳(初診 10)男児、身長 164.7(153.3) cm、体重 57.0(56.7) kg、肥満度 7.0(26.7)%

食事指示量を参考に三食バランスよく食べるようになり、朝・夕 2 回の体重測定も実行した。成長期（小学校高学年）の身長の伸びと体重維持により肥満改善に至ったと考える。

〔症例 2〕16 歳(初診 9)男児、身長 170.8(147.5) cm、体重 80.1(70.0) kg、肥満度 33.0(79.9)%

食事指示量を守り、夕 1 回の体重測定と歩くなどの運動を実行した。長期継続受診（7 年間）による肥満度減少と考える。

〔症例 3〕5 歳(初診 3)男児、身長 111.6(96.8) cm、体重 21.6(18.3) kg、肥満度 12.5(26.1)%

肥満要因であったご飯の「食べ過ぎ」を改善し、おかわりをしなくなった。また朝・夕 2 回の体重測定およびおやつの記録を実行した。身長・体重は成長曲線グラフに記録し、指導時に提示した。早期介入効果による肥満改善が認められたものと考える。

〔症例 4〕11 歳(初診 5)女児、身長 139.5(104.7) cm、体重 57.6(25.5) kg、肥満度 73.5(52.7)%

食事指示量を守ることや、夕 1 回の体重測定と歩く運動など行動療法を継続実行できない。毎年、夏休み後に体重増加が認められた。また第二次性徴の初経もあり、顕著な肥満改善は困難であると考える。

最後に、当外来の今後の課題について、次の 3 点を述べた。

1）高度肥満児の肥満改善への取組み
2）肥満患児の継続受診と新規開拓（肥満改善が必要な児に対する介入）への取組み
3）肥満患児の成人期以降フォローアップ（研究課題）

平成２９年度第２回教員研究会
『貧困』について

幼児教育学科　重永　茂

2017.9. 20(水)13：30～14：30
於：バイオレットホール

以下の歴史的経緯及び動向を通して、すぐれて今日的課題の１つとしての「貧困」への社会政策の一環として位置づけられる公的社会保障制度、社会福祉事業の必然性の根拠に関し、再認識していく機会としたい。

１．近代社会＝資本主義制度の成立
２．産業革命―人々の生活
３．資本主義養護の社会思想
４．社会調査―貧困発生の本質要因
５．公的責任の必然性

貧困、生活上の不安定・困難の発生する原因は、個々人の生活態度、勤務意欲等に起因し、故に「自己責任」とする認識が長い歴史を通して社会通念として位置づけられた。

近代以前の人的労働依存の生産様式、すなわち生活共同体的システムにより生存(生活)が維持しうる状況下においては、生活上の必然的行為として家族、親族、地域間における相互扶助機能が働き、加えて宗教的動機に基づく慈善救済も各地で盛んに行われた事から、更なる公的救済の必要性が生じなかった。

近代社会＝資本主義制度の成立、進展は、そうした相互扶助、慈善救済による対処の限界を超えた貧困の拡大及び深刻化をもたらした。とり訳、都市部における貧困者の激増は、犯罪の多発等深刻な治安の悪化を招き、社会不安抑制の為の施策の必要性を喚起した。

１６０１年に制定された「エリザベス救貧法」は、貧困者に向けた公的な施策の位置づけではあったが、実質的には治安対策及びその方策として、貧困者を資本が求める人材、すなわち「安価な労働力」へと転換していく役割を結果として担った。

１９世紀後半以降、資本主義制度の進展による生産性の飛躍的向上とは裏腹な、大多数の国民が窮乏化していく生活の悲惨な実態の表面化による社会的矛盾が、１９世紀末から２０世紀初頭にかけての一連の生活実態に関する社会調査への動きに結びついていった。

その結果、当時のロンドン市民の３０．７%(C・BOOTH報告)、ヨーク市民の２７．８４%(S・ROWNTREE報告)が貧困状態である事が明らかになった。さらに当該調査の分析により、大多数の人々に共通する貧困へ至る原因に関して、「自己責任」の前提として、社会制度の構造上の問題に起因する本質的要因の存在が実証された。

すなわち、経済(景気)動向、雇用条件(非正規、臨時、低賃金等)、失業といった個々人の労働意識、意欲、能力等の限界を超える所に、まずは貧困が発生する本質的要因が潜んでいる事が明らかになった。

以上の経緯により、２０世紀に入り貧困に対する責任は社会(公的)責任との認識に基づく、社会政策上の課題としての公的施策の位置づけへ向けての契機となった。

筆者の思料の根拠として、常に据えるべき認識について取り挙げた。

平成 29 年度　教員研究会要旨

平成 30 年 3 月 7 日（水）14：30〜
バイオレットホール
フードデザイン学科　山村涼子

「教育と研究の取り組み、課題について」

筆者は、フードデザイン学科の授業で、栄養士養成課程の中の「給食の運営」領域の教育内容に関する科目を数多く担当しており、学生に対して栄養士としての実践力を習得させることが最重要課題であると考えている。そのため学生の理解度や学習意欲を高めるような授業を行い、知識や技術を向上させることを目標としている。そこで調理学の分野において、食品素材の知識や取り扱い方、調理機能を生かした基本的な調理操作の指導方法、また指標となるための資料作成等の研究を行っている。

教員研究会の前半は、前述の研究の一環として、平成27年度より毎年後期終了時に実施している学生の知識・技術の習熟度アンケート調査の結果について発表を行った。この調査の目的は、1 年間および 2 年間の学びの中で、学生が栄養士になるための基本的な知識や調理技術をどの程度身につけることができたか、またシラバス表記の到達目標を達成することができたのかを把握することである。その結果については、本年度の本学研究紀要第 40 号に「調理学関連科目の習熟度について　第 1 報」(共著) を投稿している。今回の調査では、1 年次終了時点でも調理の基礎である計量や基本的な調理操作が未熟な学生がおり、正確な調理作業に支障をきたしているという現状が浮き彫りになったこと、また 2 年次でも、ある程度の調理技術は身につけていても、応用力や栄養士としての実践力を習得するまでには至っていないことがわかった。したがって、習熟度については、さらなる学びの必要性を認識し、より効果的な授業内容や方法等の検討が今後の課題となった。

教員研究会の後半は、社会活動の報告、なかでもＪＡくるめや生活協同組合グリーンコープ連合へのレシピ提供についての報告を中心に行った。

最後に今後の取り組み課題、目標について、学生の教育において、栄養士養成教育では調理の応用力や技術力の習得、キャリア教育では社会人基礎力や就業力育成のための指導を行なうこと、また研究および社会活動においては、管理栄養士の立場から健康的な食生活や生活習慣病予防などを観点とした食教育活動に取り組むことについての考えを述べた。

学生の授業評価に基づく優秀科目

次の科目は「学生による授業評価アンケート」において、「総合評価」の評価が高かったので、「優秀科目」として称えます。（アンケート回答者数が５名以上の科目を表彰の対象とします）
同順の科目は回答者数の人数が多い順に掲載しています。

平成２９年度前期

順位	科目	対象	指導形態	必修・選択	担当者	解答者数	総合評価点
1	英語Ⅰ	幼児教育学科１年	演習	卒業選択必修 免許・資格選択必修	阿久根	49人	4.9
2	生活とスポーツⅠ	幼児教育学科１年	演習	卒業必修 免許・資格必修	新井	65人	4.7
2	モンテッソーリ教育法Ⅰ	幼児教育学科２年	演習	卒業選択・資格選択必修	関	19人	4.7
4	給食計画論	フードデザイン学科１年	演習	卒業必修 免許必修	石井	19人	4.6
4	基礎調理学実習Ⅰ	フードデザイン学科１年	実習	卒業必修 免許必修	山村	19人	4.6
6	体育	幼児教育学科２年	演習	卒業必修　免許必修・資格選択必修	新井	46人	4.5
6	器楽合奏	幼児教育学科２年	演習	卒業必修	椎山	44人	4.5
6	情報処理演習	フードデザイン学科１年	演習	卒業選択 資格必修	眞部	16人	4.5
9	情報科学	幼児教育学科１年	講義	卒業選択 免許必修	眞部	67人	4.4
9	音楽表現	幼児教育学科２年	演習	卒業選択　免許必修・資格選択必修	椎山	48人	4.4
9	献立デザイン演習	フードデザイン学科１年	演習	卒業必修	山村	19人	4.4
9	調理学	フードデザイン学科１年	講義	卒業必修 免許必修	山村	18人	4.4

平成２９年度後期

順位	科目	対象	指導形態	必修・選択	担当者	解答者数	総合評価点
1	モンテッソーリ教育法Ⅱ	幼児教育学科２年	演習	卒業選択・資格選択必修	関	５人	4.8
2	英語Ⅱ	幼児教育学科１年	演習	卒業選択必修免許・資格選択必修	阿久根	15人	4.7
3	保育・教職実践演習（幼稚園）	幼児教育学科２年	演習	卒業選択免許・資格必修	椎山	44人	4.5
3	身体表現	幼児教育学科２年	演習	卒業選択・免許必修・資格選択必修	新井	44人	4.5
3	製菓・製パン演習	フードデザイン学科１年	演習	卒業選択	山村	19人	4.5
3	栄養士実務セミナー	フードデザイン学科２年	演習	卒業選択免許・資格必修	山下石井山村	10人	4.5
7	生活とスポーツⅡ	幼児教育学科１年	演習	卒業必修免許・資格必修	新井	60人	4.4
7	食品加工学実習	フードデザイン学科１年	実習	卒業選択免許必修	江越	19人	4.4
7	基礎調理学実習Ⅱ	フードデザイン学科２年	実習	卒業必修免許必修	山村	19人	4.4
10	給食管理実習Ⅰ	フードデザイン学科１年	実習	卒業選択免許必修	石井	17人	4.3

平成２９年度　教育と研究

平成 30 年　8 月 30 日　印刷
平成 30 年　9 月　7 日　発行

発　行　所　　久留米信愛短期大学

〒839-8508 福岡県久留米市御井町 2278-1
ＴＥＬ：0942-43-4532
ＦＡＸ：0942-43-2531

印　刷　所　　有限会社山口印刷所 〒830-0207 福岡県久留米市城島町城島 205-1